

4 . 災害対策について

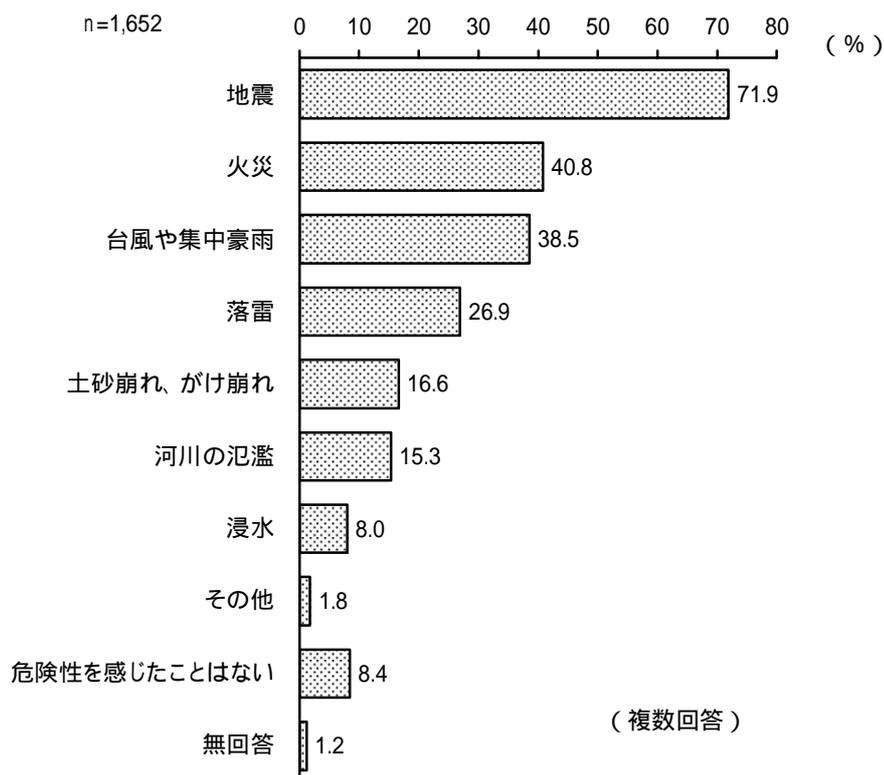
4 - 1 家庭や近所で災害の危険性があるもの

「地震」が7割強

問4 あなたのご家庭やご近所では、どのような災害の危険性があると感じていますか。

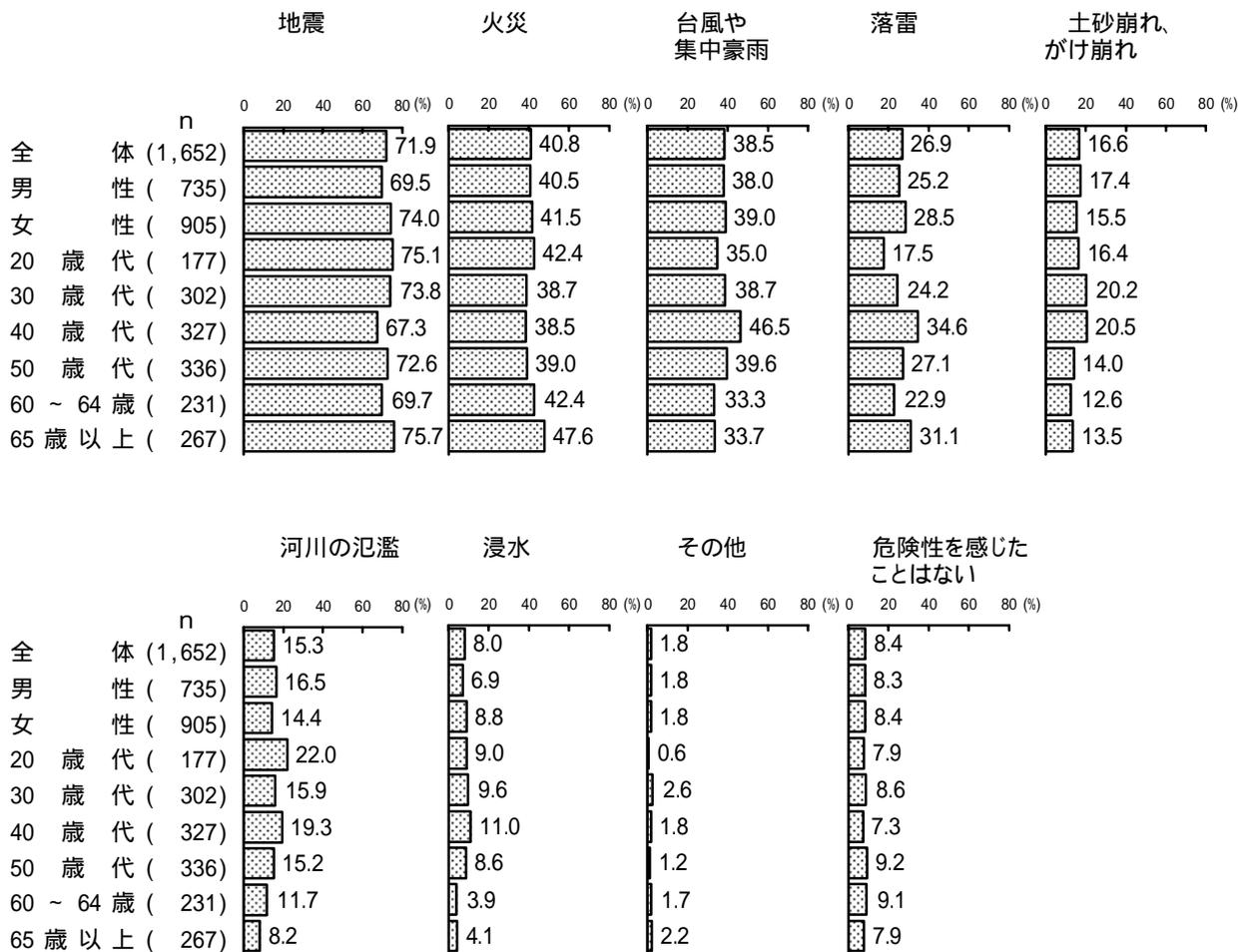
(はいくつでも)

図4 - 1 - 1



家庭や近所でどのような災害の危険性があると感じているか聞いたところ、「地震」が7割強(71.9%)と最も高く、ついで「火災」(40.8%)、「台風や集中豪雨」(38.5%)、「落雷」(26.9%)と続いている。(図4 - 1 - 1)

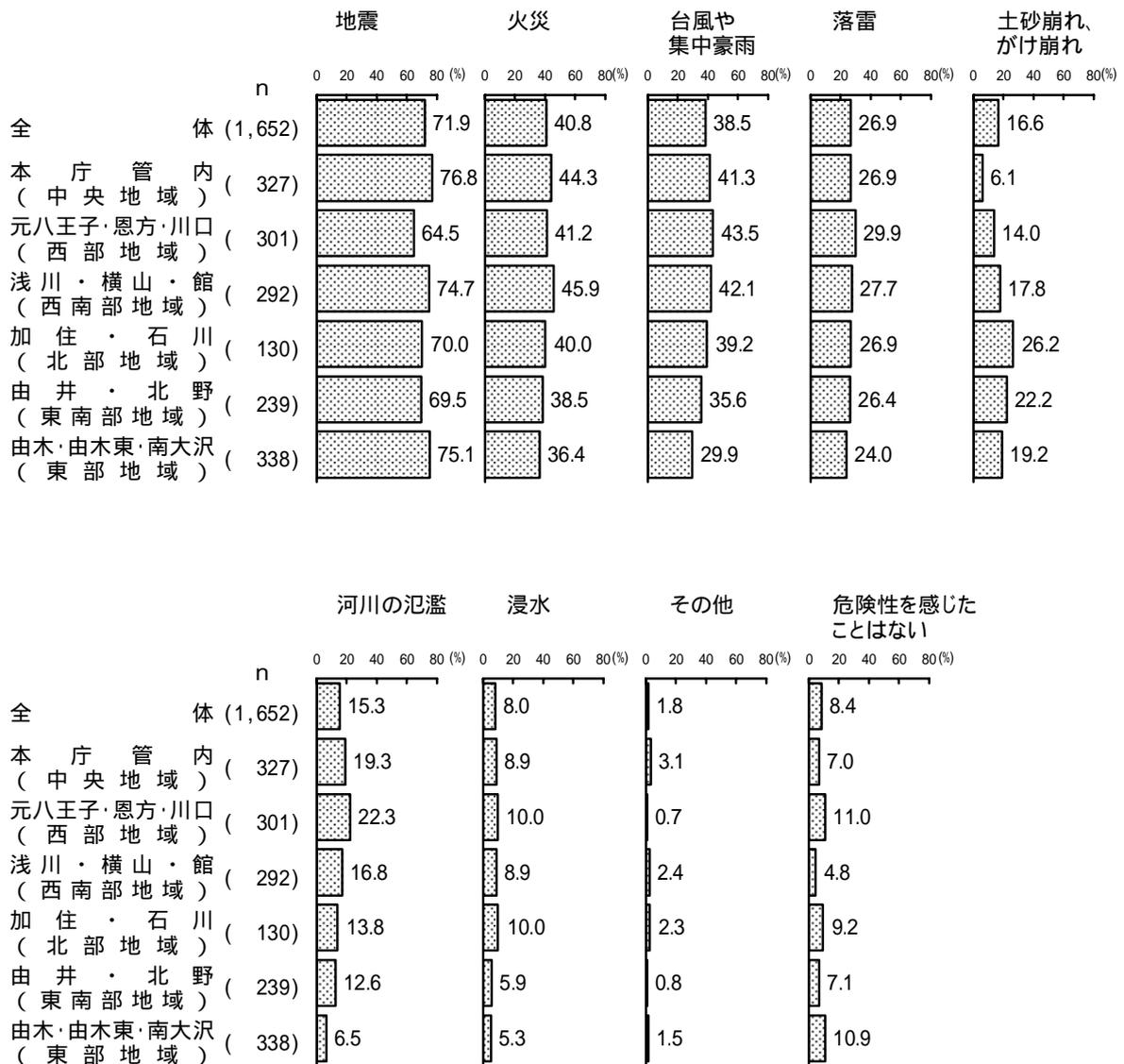
図4 - 1 - 2 家庭や近所で災害の危険性があるもの - 性別・年齢別



性別にみると、「地震」は4.5ポイント、「落雷」は3.3ポイント、それぞれ女性のほうが高くなっている。

年齢別にみると、「地震」はすべての年代で7割前後と高く、特に20歳代（75.1%）と65歳以上（75.7%）で7割台半ばとなっている。また、「火災」は65歳以上（47.6%）、「台風や集中豪雨」は40歳代（46.5%）と、それぞれ5割弱と高くなっている。（図4 - 1 - 2）

図4 - 1 - 3 家庭や近所で災害の危険性があるもの - 居住地域別



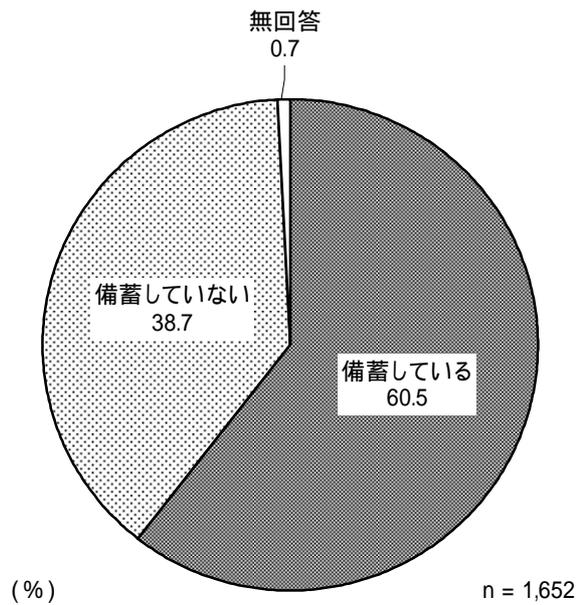
居住地域別にみると、「地震」はすべての地域で7割前後と高く、特に本庁管内（中央地域）は8割弱（76.8%）となっている。また、「土砂崩れ、がけ崩れ」は加住・石川（北部地域）で3割弱（26.2%）と、他の地域と比べて高くなっている。（図4 - 1 - 3）

4 - 2 食糧・飲料水の備蓄の有無

【食糧】「備蓄している」がほぼ6割、「備蓄していない」が4割弱

問5 あなたのご家庭では、災害により電気、水道、ガス等といったライフラインが停止したことを想定して食糧、飲料水を備蓄していますか。(は1つだけ)

図4 - 2 - 1 【食糧】

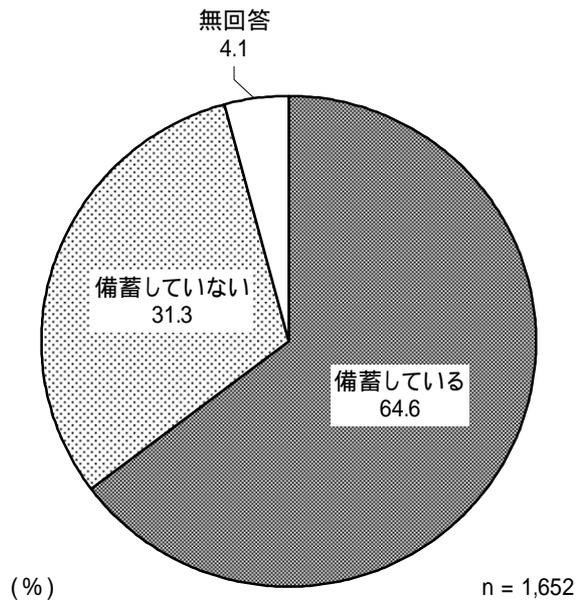


食糧を備蓄しているかを聞いたところ、「備蓄している」がほぼ6割(60.5%)、「備蓄していない」は4割弱(38.7%)となっている。(図4 - 2 - 1)

【飲料水】「備蓄している」が6割台半ば、「備蓄していない」が3割強

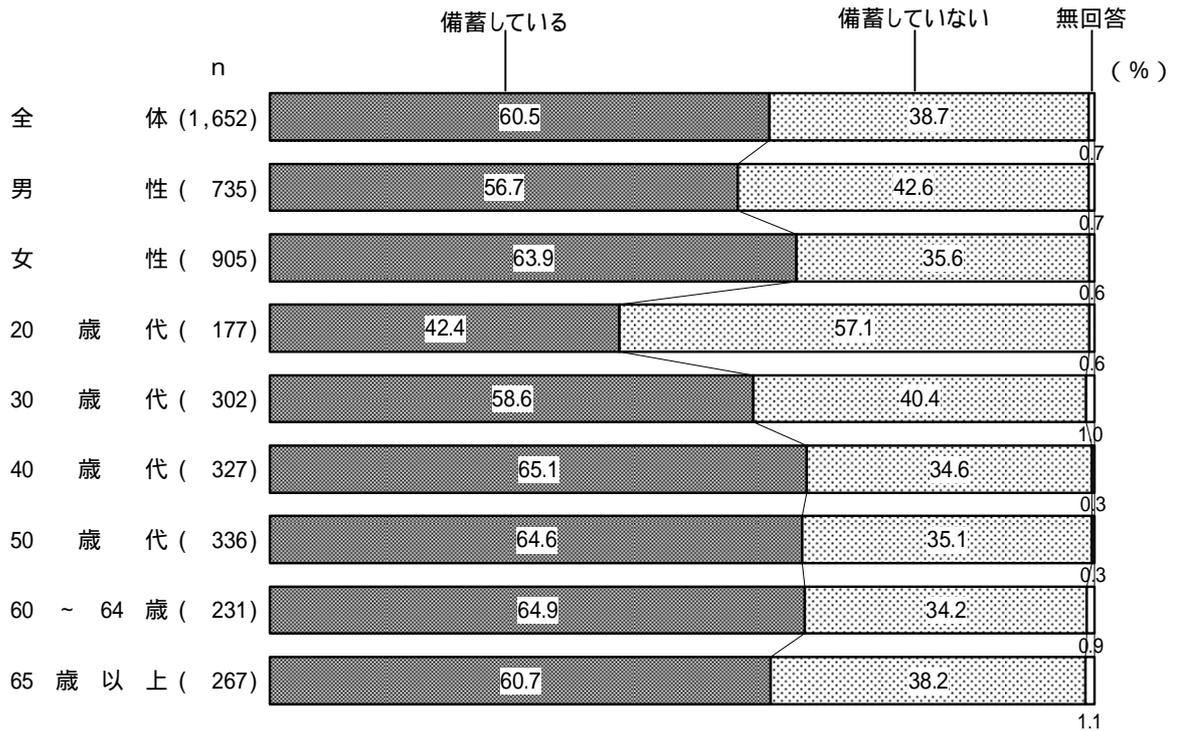
問5 あなたのご家庭では、災害により電気、水道、ガス等といったライフラインが停止したことを想定して食糧、飲料水を備蓄していますか。(は1つだけ)

図4 - 2 - 2 【飲料水】



飲料水を備蓄しているかを聞いたところ、「備蓄している」が6割台半ば(64.6%)、「備蓄していない」は3割強(31.3%)となっている。(図4 - 2 - 2)

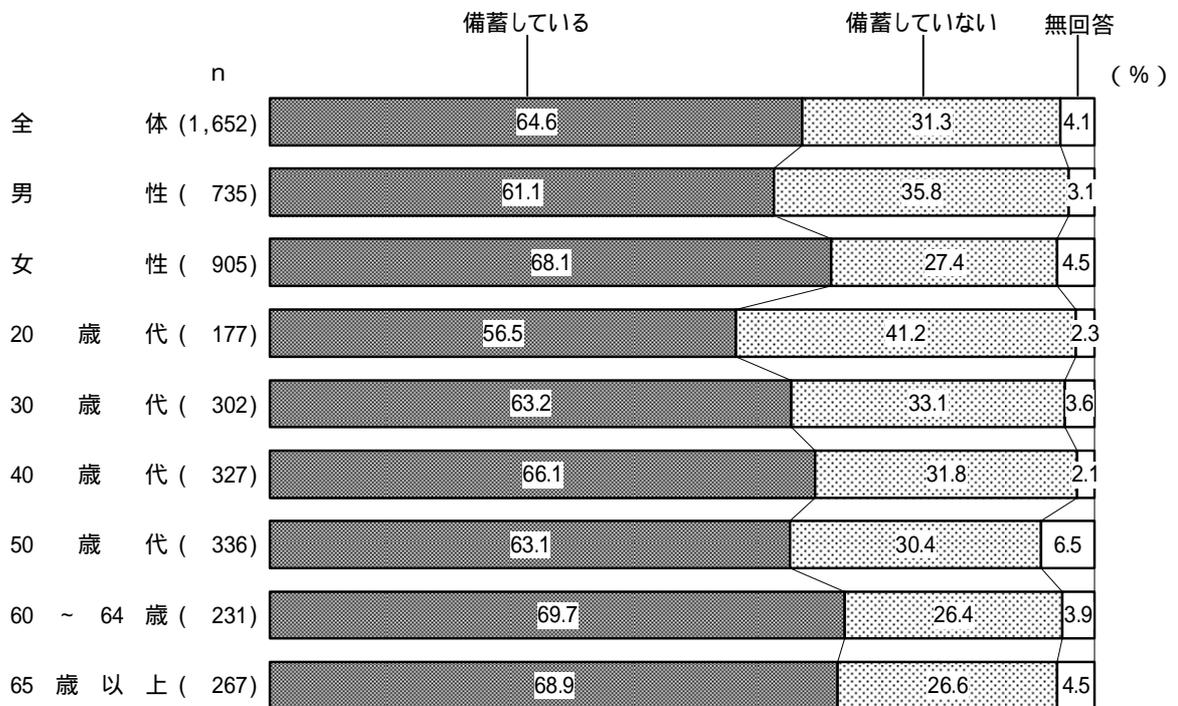
図4 - 2 - 3 食糧・飲料水の備蓄の有無 - 性別・年齢別【食糧】



性別にみると、「備蓄している」は女性のほうが7.2ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「備蓄している」は40歳代以上の年代で6割を超え高くなっている。一方、「備蓄していない」は20歳代で6割弱（57.1%）と高くなっている。（図4 - 2 - 3）

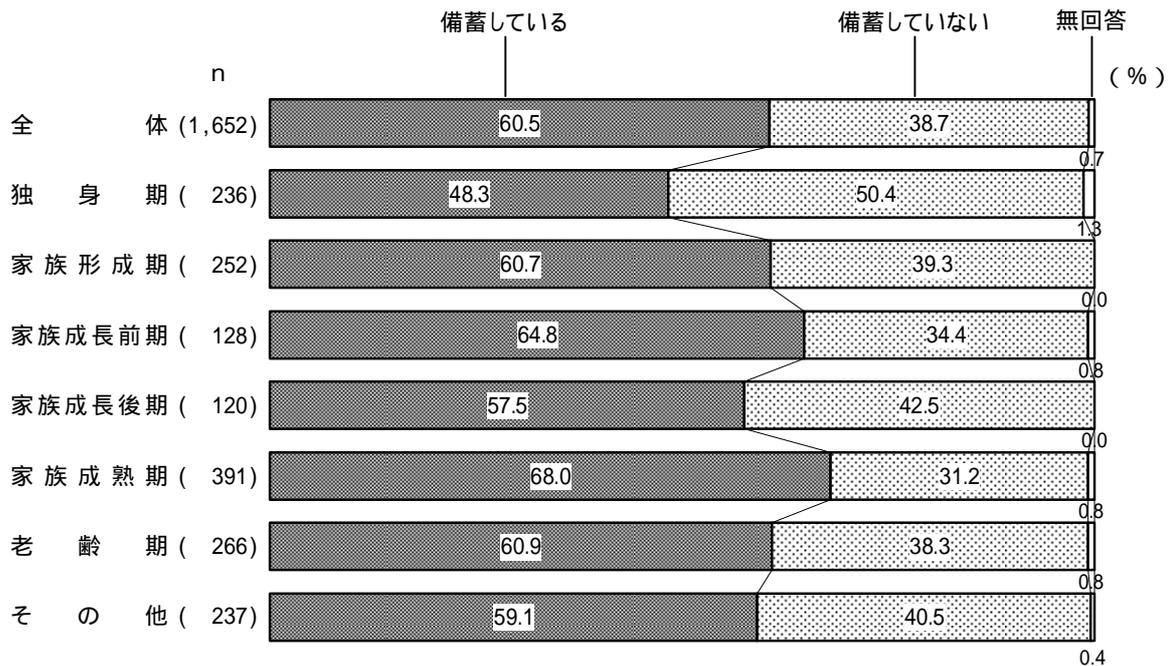
図4 - 2 - 4 食糧・飲料水の備蓄の有無 - 性別・年齢別【飲料水】



性別にみると、「備蓄している」は女性のほうが7.0ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「備蓄している」は30歳代以上の年代で6割を超え高くなっている。一方、「備蓄していない」は20歳代で4割強（41.2%）と高くなっている。（図4 - 2 - 4）

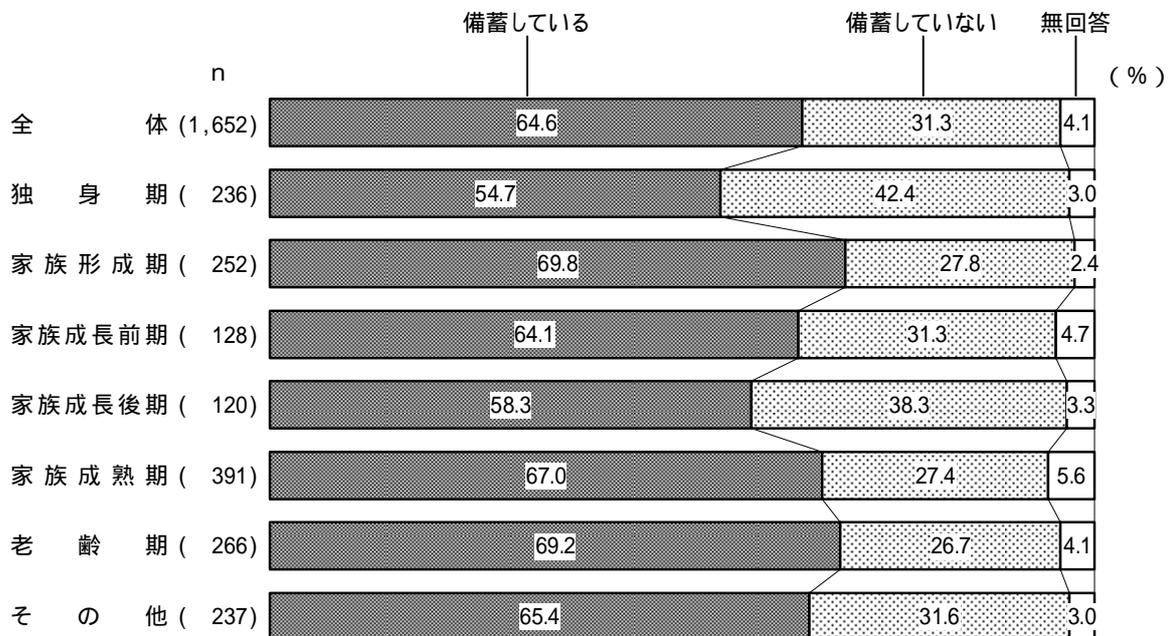
図4 - 2 - 5 食糧・飲料水の備蓄の有無 - ライフステージ別【食糧】



ライフステージ別にみると、「備蓄している」は家族成熟期が7割弱（68.0%）と高くなっている。一方、「備蓄していない」は独身期でほぼ5割（50.4%）と高くなっている。

(図4 - 2 - 5)

図4 - 2 - 6 食糧・飲料水の備蓄の有無 - ライフステージ別【飲料水】



ライフステージ別にみると、「備蓄している」は家族形成期（69.8%）老齢期（69.2%）がそれぞれほぼ7割と高くなっている。一方、「備蓄していない」は独身期で4割強（42.4%）と高くなっている。(図4 - 2 - 6)

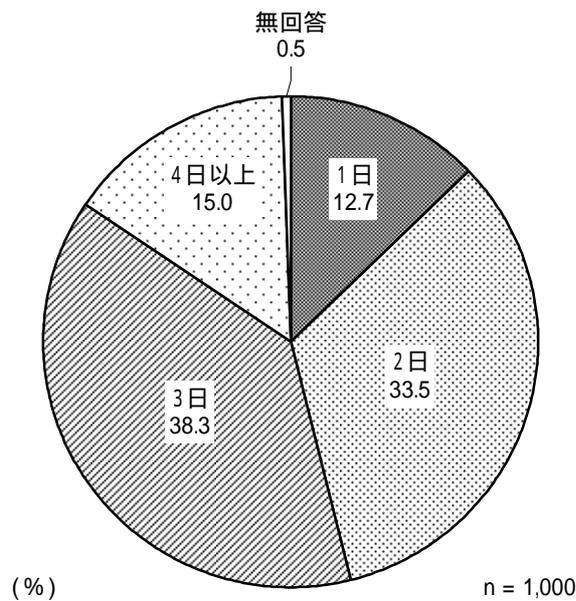
4 - 3 食糧・飲料水の備蓄量

【食糧】「3日」が4割弱

(問5で食糧を「備蓄している」とお答えの方に)

問5 - 1 家族が何日間過ごせる分の備蓄をしていますか。(は1つだけ)

図4 - 3 - 1 【食糧】



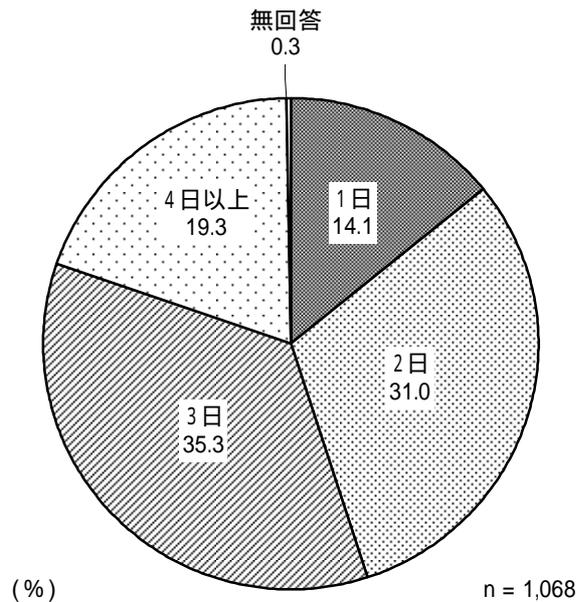
食糧の備蓄の有無で、「備蓄している」と答えた人(1,000人)に、家族が何日間過ごせる分の備蓄をしているかを聞いたところ、「3日」が4割弱(38.3%)と最も高く、ついで「2日」(33.5%)、「4日以上」(15.0%)、「1日」(12.7%)となっている。(図4 - 3 - 1)

【飲料水】「3日」が3割台半ば

(問5で飲料水を「備蓄している」とお答えの方に)

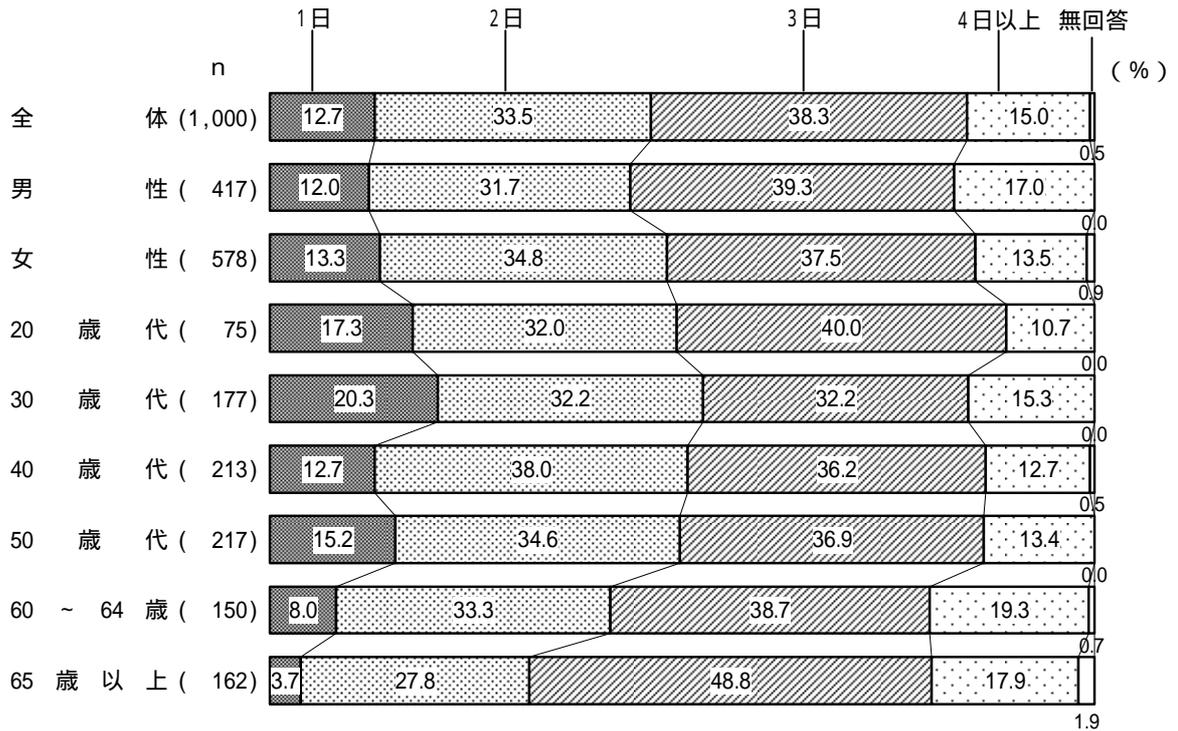
問5 - 3 家族が何日間過ごせる分の備蓄をしていますか。(は1つだけ)

図4 - 3 - 2 【飲料水】



飲料水の備蓄の有無で、「備蓄している」と答えた人(1,068人)に、家族が何日間過ごせる分の備蓄をしているかを聞いたところ、「3日」が3割台半ば(35.3%)と最も高く、ついで「2日」(31.0%)、「4日以上」(19.3%)、「1日」(14.1%)となっている。(図4 - 3 - 2)

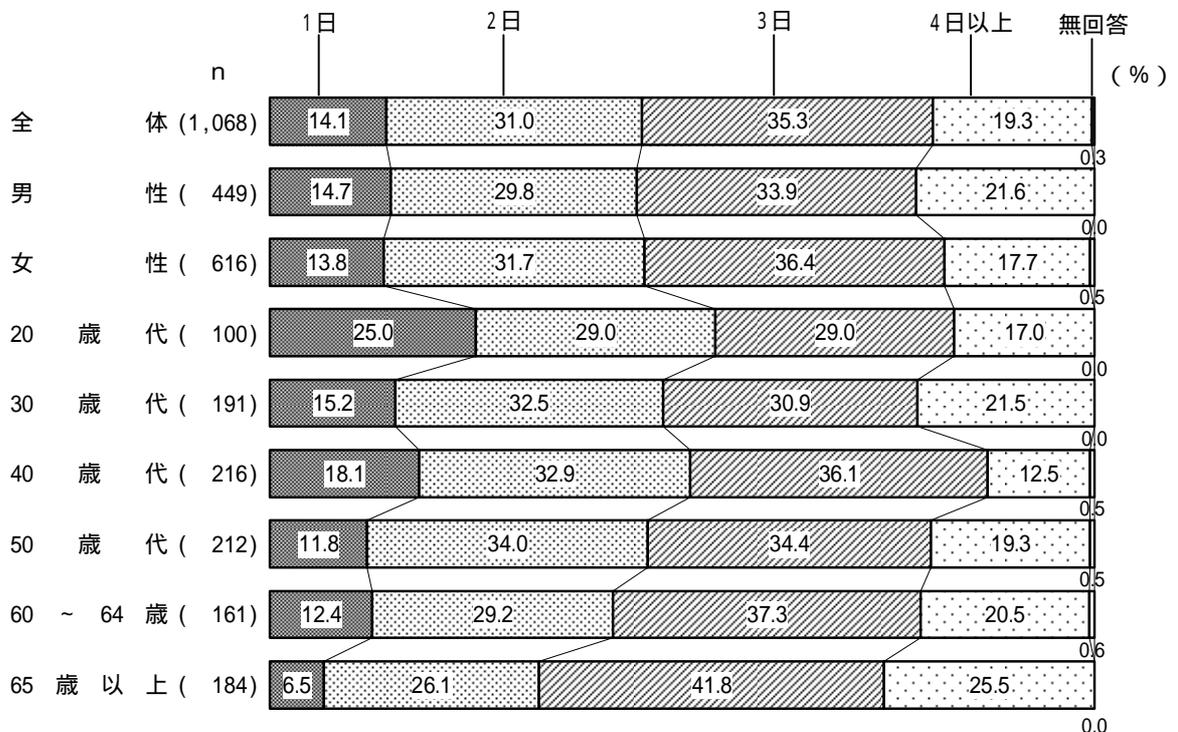
図4 - 3 - 3 食糧・飲料水の備蓄量 - 性別・年齢別【食糧】



食糧を性別にみると、「4日以上」は男性のほうが3.5ポイント高くなっている。

食糧を年齢別にみると、「3日」は65歳以上が5割弱（48.8%）、「1日」は30歳代でほぼ2割（20.3%）と、それぞれ高くなっている。（図4 - 3 - 3）

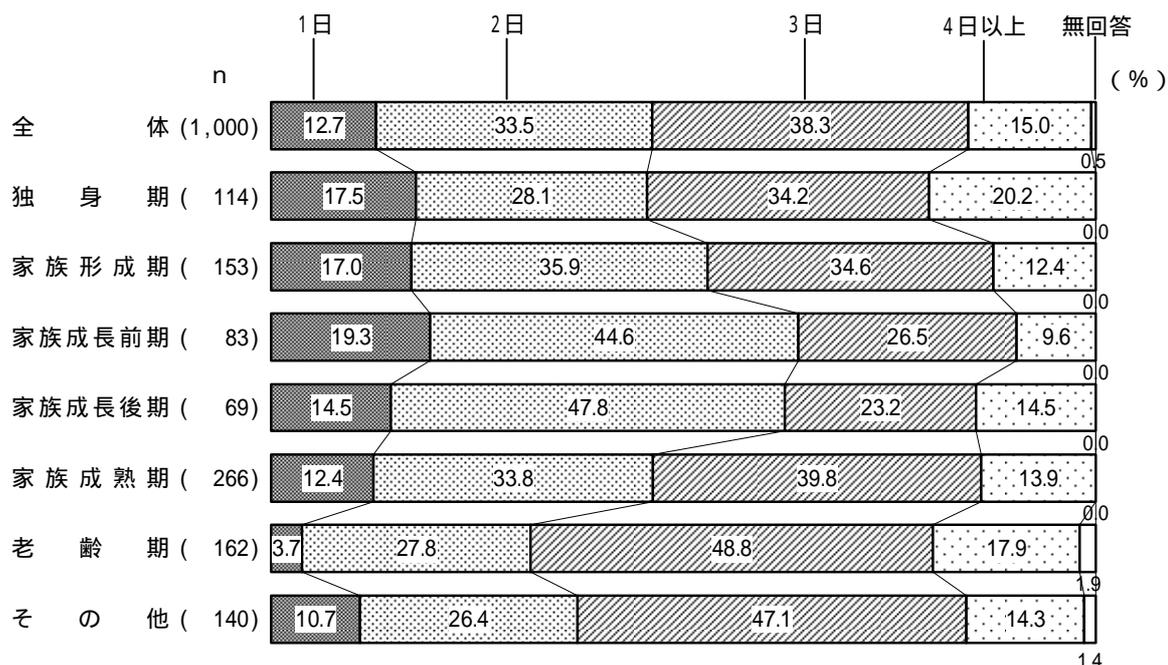
図4 - 3 - 4 食糧・飲料水の備蓄量 - 性別・年齢別【飲料水】



飲料水を性別にみると、「4日以上」は男性のほうが3.9ポイント高くなっている。

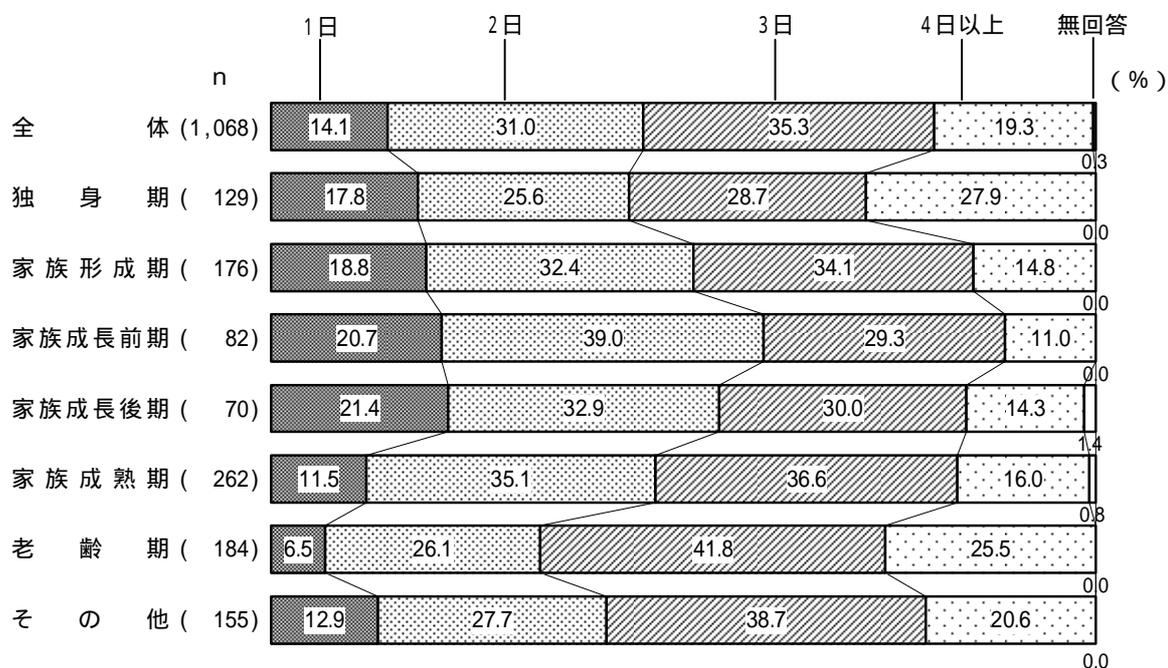
飲料水を年齢別にみると、65歳以上で「3日」は4割強（41.8%）、「4日以上」は2割台半ば（25.5%）と、他の年代に比べて高くなっている。（図4 - 3 - 4）

図4-3-5 食糧・飲料水の備蓄量 - ライフステージ別【食糧】



食糧をライフステージ別にみると、「3日」は老齢期が5割弱（48.8%）、「2日」は家族成長後期で5割弱（47.8%）と、それぞれ高くなっている。（図4-3-5）

図4-3-6 食糧・飲料水の備蓄量 - ライフステージ別【飲料水】



飲料水をライフステージ別にみると、「3日」は老齢期が4割強（41.8%）、「2日」は家族成長前期でほぼ4割（39.0%）と、それぞれ高くなっている。（図4-3-6）

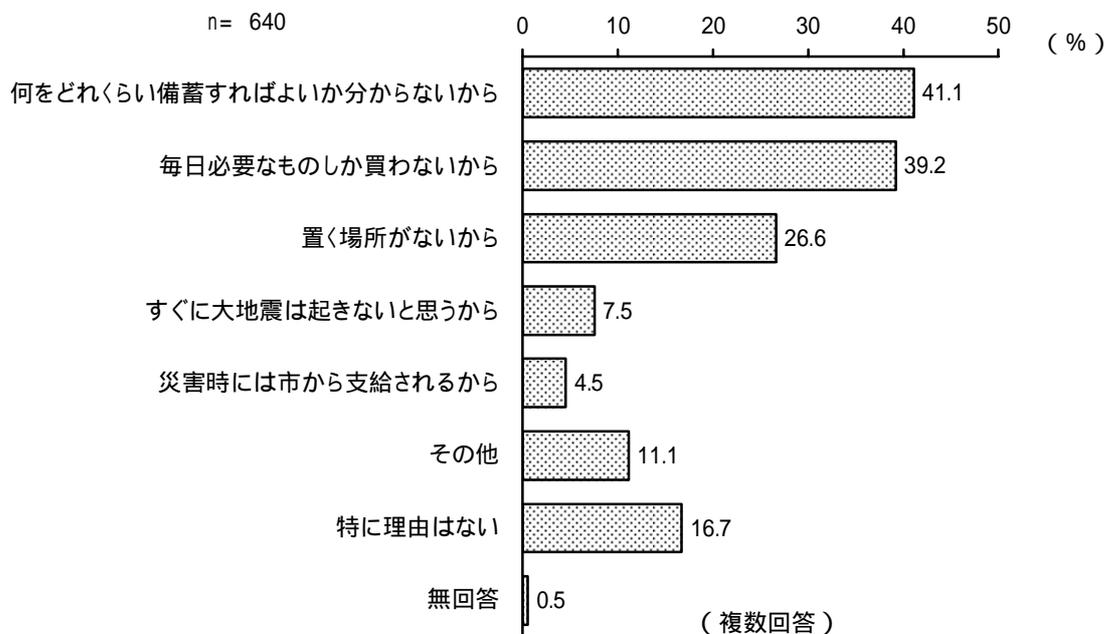
4 - 4 食糧・飲料水を備蓄していない理由

【食糧】「何をどれくらい備蓄すればよいか分からないから」が4割強

(問5で食糧を「備蓄していない」とお答えの方に)

問5 - 2 備蓄していない理由は何ですか。(はいいくつでも)

図4 - 4 - 1 【食糧】



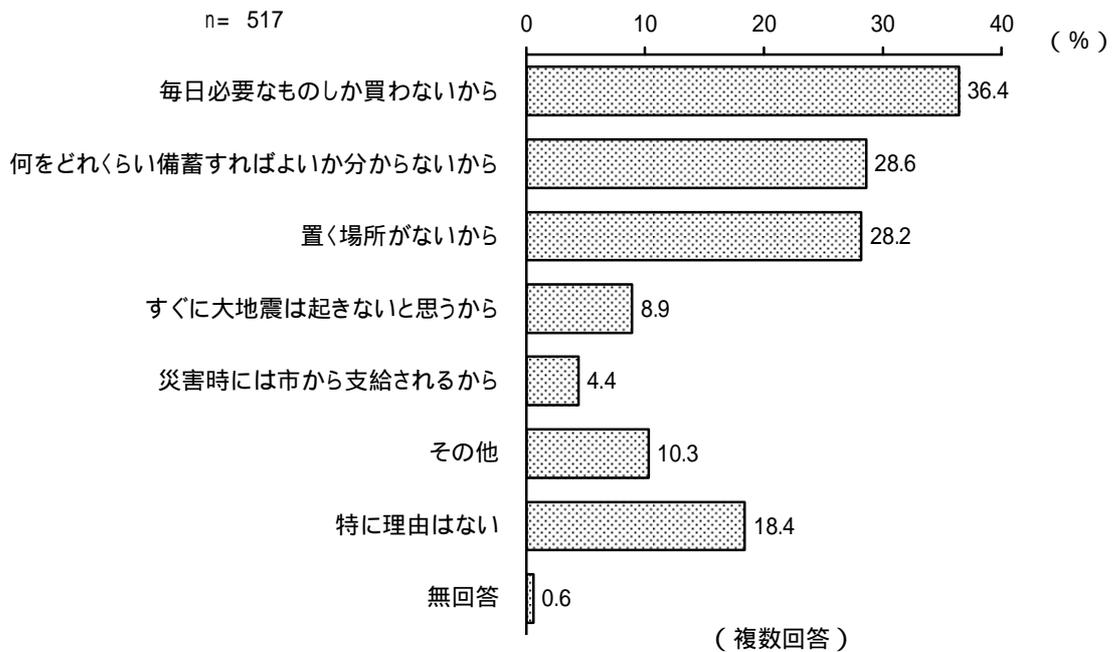
食糧の備蓄の有無で、「備蓄していない」と答えた人(640人)に、備蓄していない理由を聞いたところ、「何をどれくらい備蓄すればよいか分からないから」が4割強(41.1%)と最も高く、ついで「毎日必要なものしか買わないから」(39.2%)、「置く場所がないから」(26.6%)、「すぐに大地震は起きないと思うから」(7.5%)と続いている。(図4 - 4 - 1)

【飲料水】「毎日必要なものしか買わないから」が4割弱

(問5で飲料水を「備蓄していない」とお答えの方に)

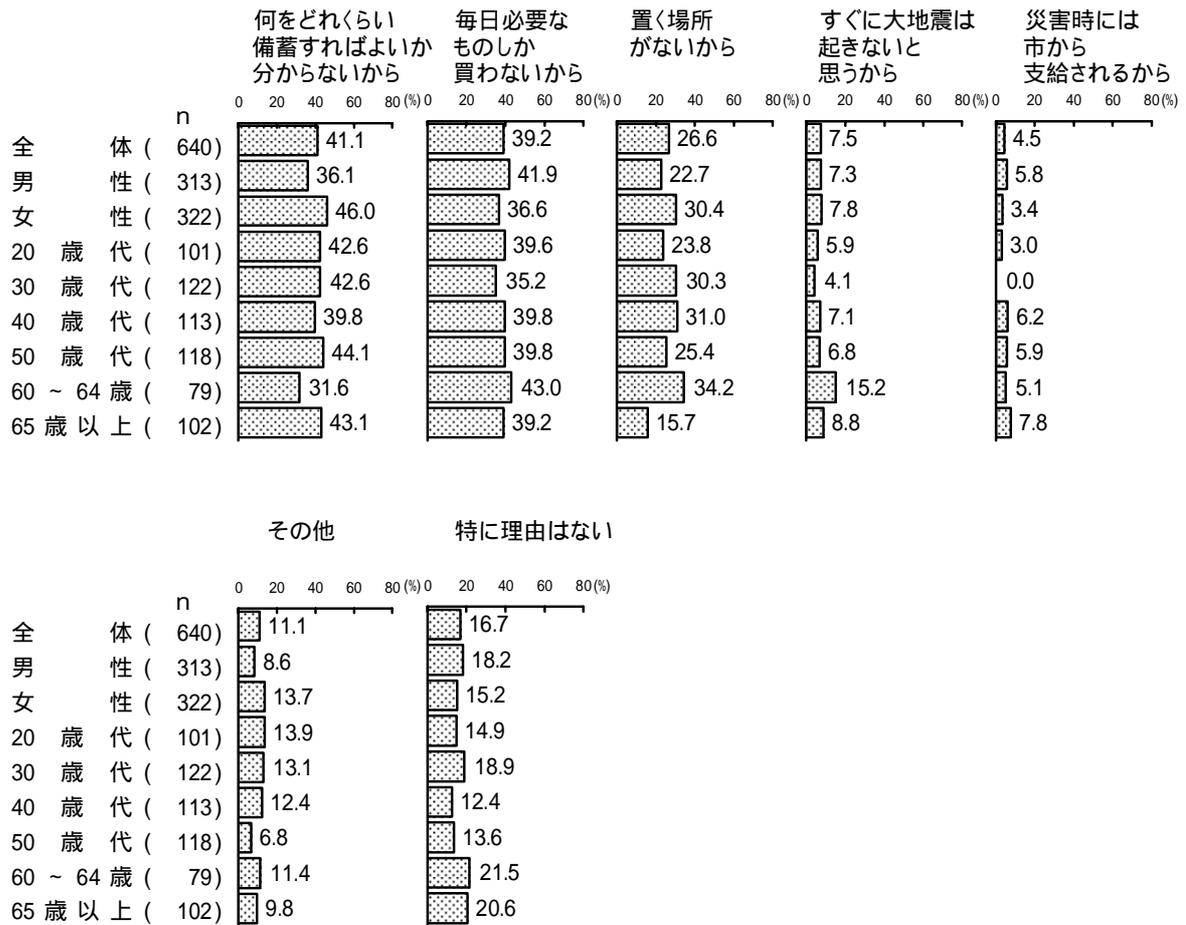
問5 - 4 備蓄していない理由は何ですか。(はいいくつでも)

図4 - 4 - 2 【飲料水】



飲料水の備蓄の有無で、「備蓄していない」と答えた人(517人)に、備蓄していない理由を聞いたところ、「毎日必要なものしか買わないから」が4割弱(36.4%)と最も高く、ついで「何をどれくらい備蓄すればよいか分からないから」(28.6%)、「置く場所がないから」(28.2%)、「すぐに大地震は起きないと思うから」(8.9%)と続いている。(図4 - 4 - 2)

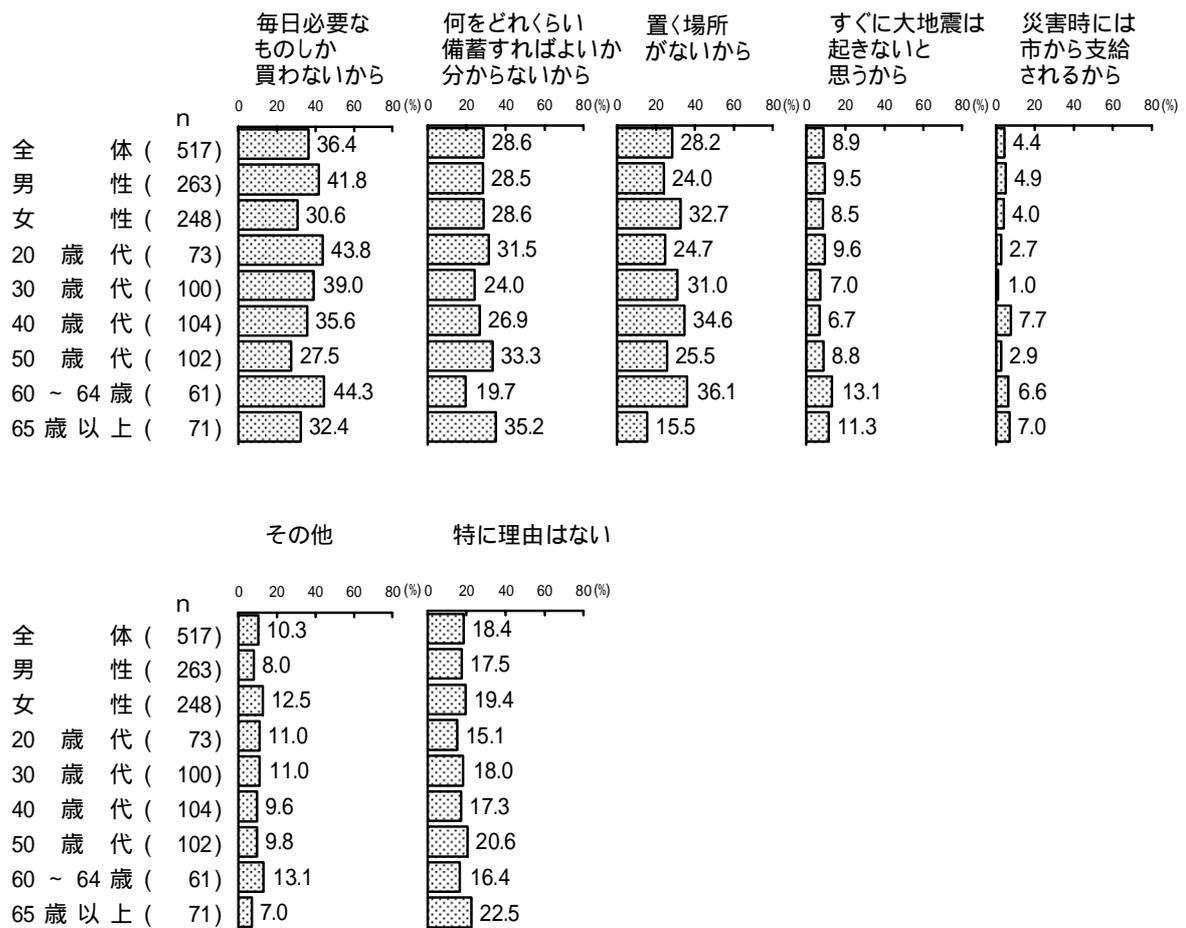
図4 - 4 - 3 食糧・飲料水を備蓄していない理由 - 性別・年齢別【食糧】



食糧を性別にみると、「何をどれくらい備蓄すればよいか分からないから」は9.9ポイント、「置く場所がないから」は7.7ポイント、それぞれ女性のほうが高くなっている。逆に「毎日必要なものしか買わないから」は5.3ポイント男性のほうが高くなっている。

食糧を年齢別にみると、60～64歳を除く全ての年代で「何をどれくらい備蓄すればよいか分からないから」が4割前後と高くなっている。また、60～64歳では「毎日必要なものしか買わないから」は4割強（43.0%）、「置く場所がないから」は3割台半ば（34.2%）と、他の年代に比べて高くなっている。（図4 - 4 - 3）

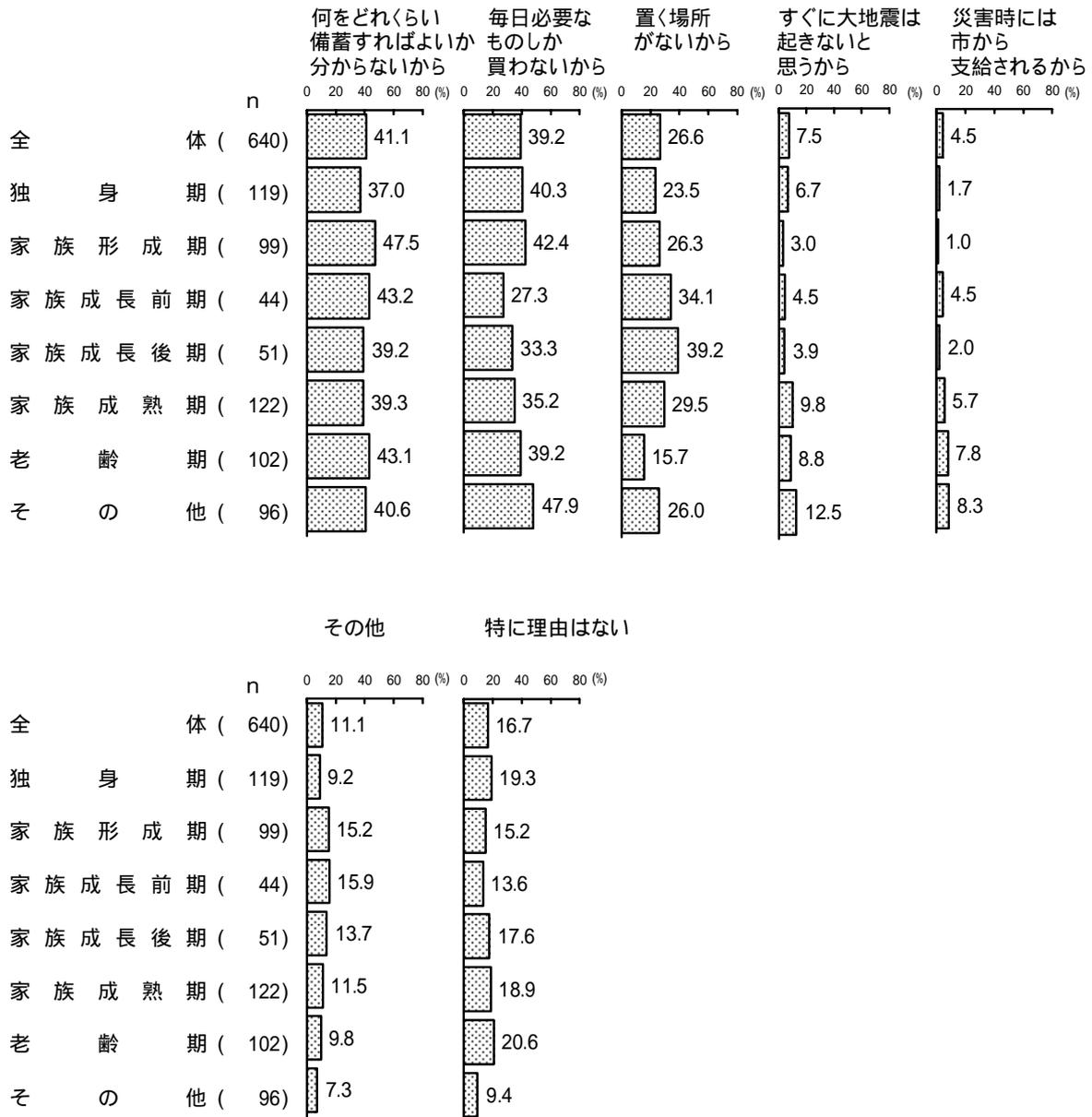
図4 - 4 - 4 食糧・飲料水を備蓄していない理由 - 性別・年齢別【飲料水】



飲料水を性別にみると、「毎日必要なものしか買わないから」は男性のほうが11.2ポイント高くなっている。逆に「置く場所がないから」は女性のほうが8.7ポイント高くなっている。

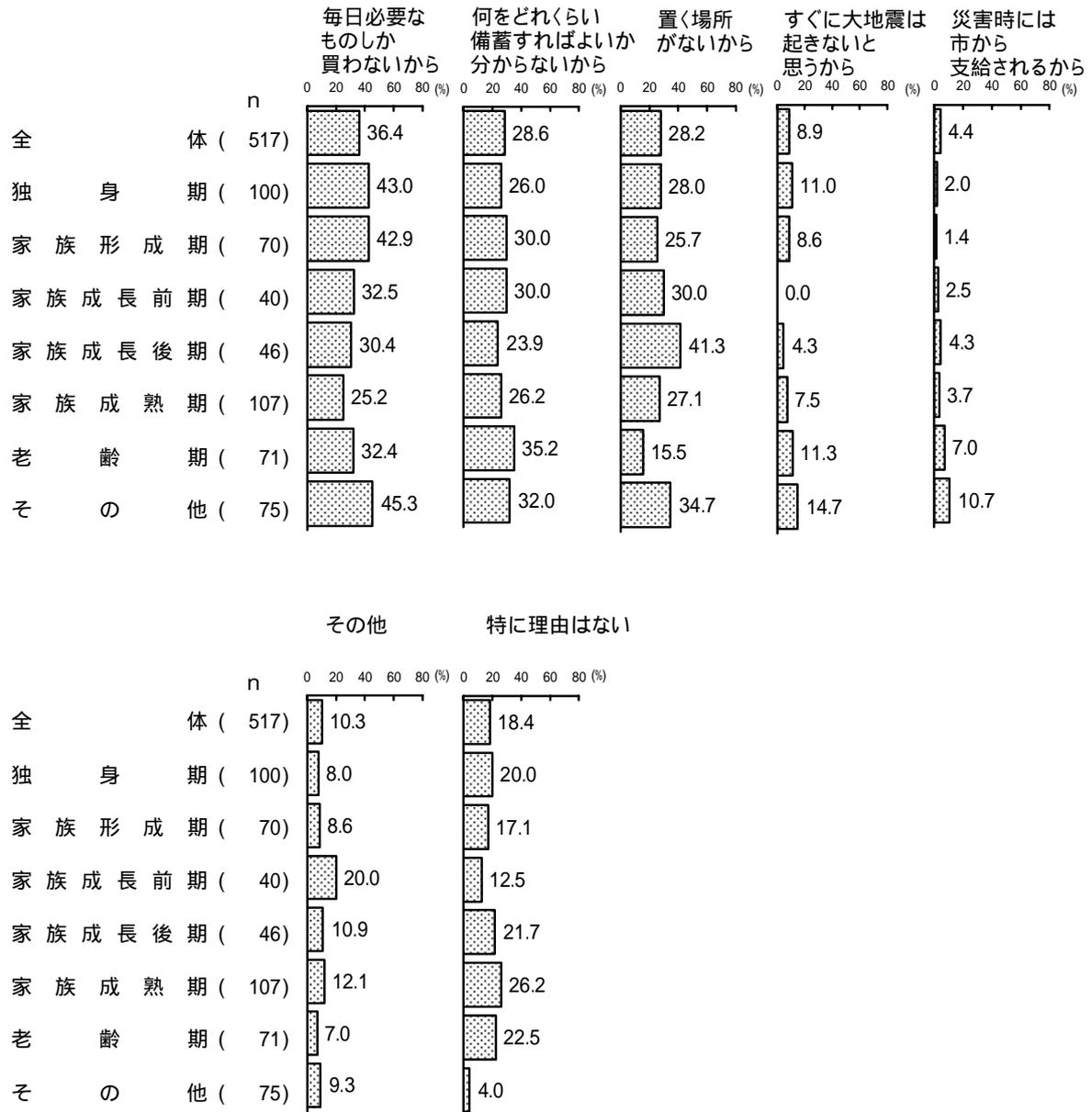
飲料水を年齢別にみると、「毎日必要なものしか買わないから」は60～64歳が4割台半ば（44.3%）、20歳代が4割強（43.8%）となっている。また、「置く場所がないから」は60～64歳で4割弱（36.1%）、「何をどれくらい備蓄すればよいか分からないから」は65歳以上で3割台半ば（35.2%）と、それぞれ高くなっている。（図4 - 4 - 4）

図4 - 4 - 5 食糧・飲料水を備蓄していない理由 - ライフステージ別【食糧】



食糧をライフステージ別にみると、家族形成期で「何をどれくらい備蓄すればよいか分からないから」は5割弱（47.5%）、「毎日必要なものしか買わないから」は4割強（42.4%）と、それぞれ高くなっている。また、「置く場所がないから」は家族成長後期でほぼ4割（39.2%）と高くなっている。（図4 - 4 - 5）

図4 - 4 - 6 食糧・飲料水を備蓄していない理由 - ライフステージ別【飲料水】



飲料水をライフステージ別にみると、「毎日必要なものしか買わないから」は独身期（43.0%）、家族形成期（42.9%）でいずれも4割強と高くなっている。また、「置く場所がないから」は家族成長後期で4割強（41.3%）、「何をどれくらい備蓄すればよいか分からないから」は老齢期で3割台半ば（35.2%）と、それぞれ高くなっている。（図4 - 4 - 6）

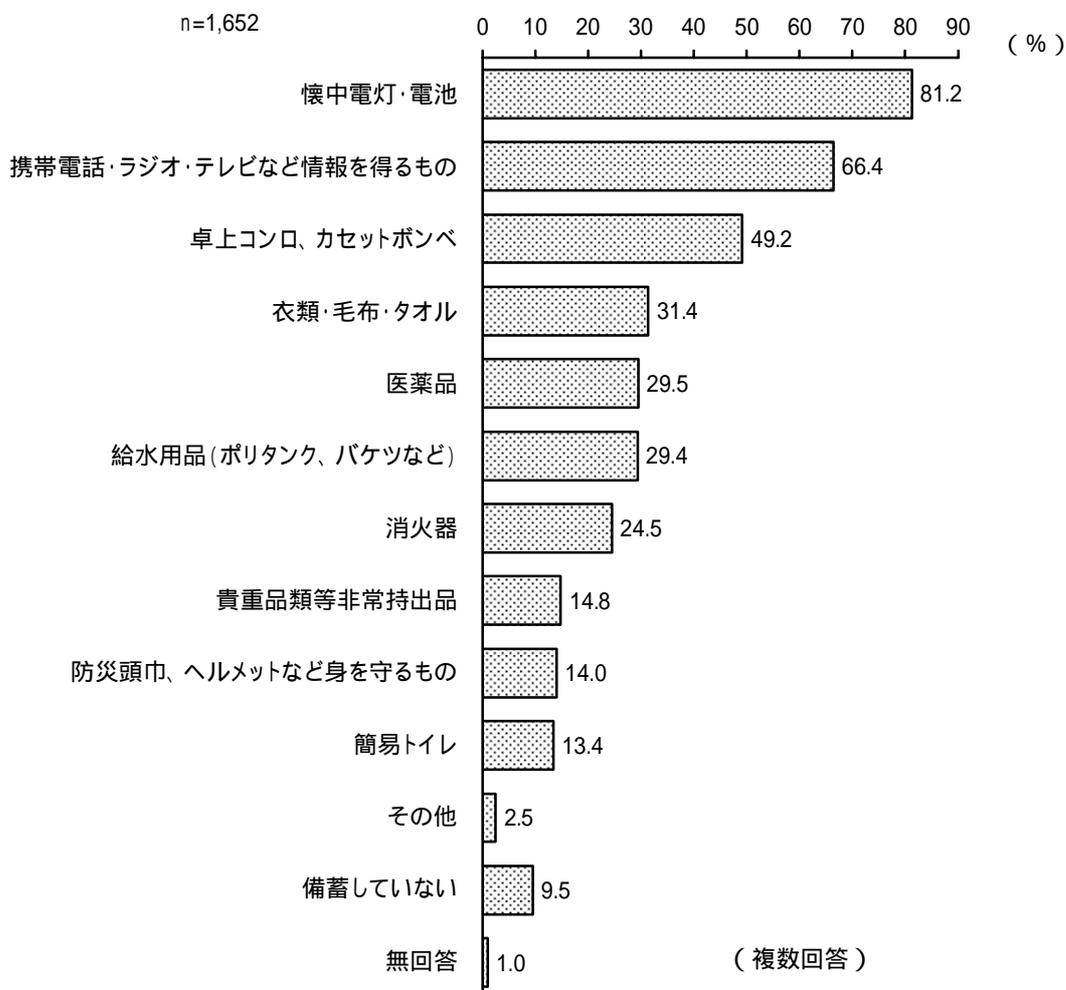
4 - 5 食糧・飲料水以外に備蓄しているもの

「懐中電灯・電池」が8割強

問6 あなたのご家庭では、食糧・飲料水以外に何か備蓄しているものはありますか。

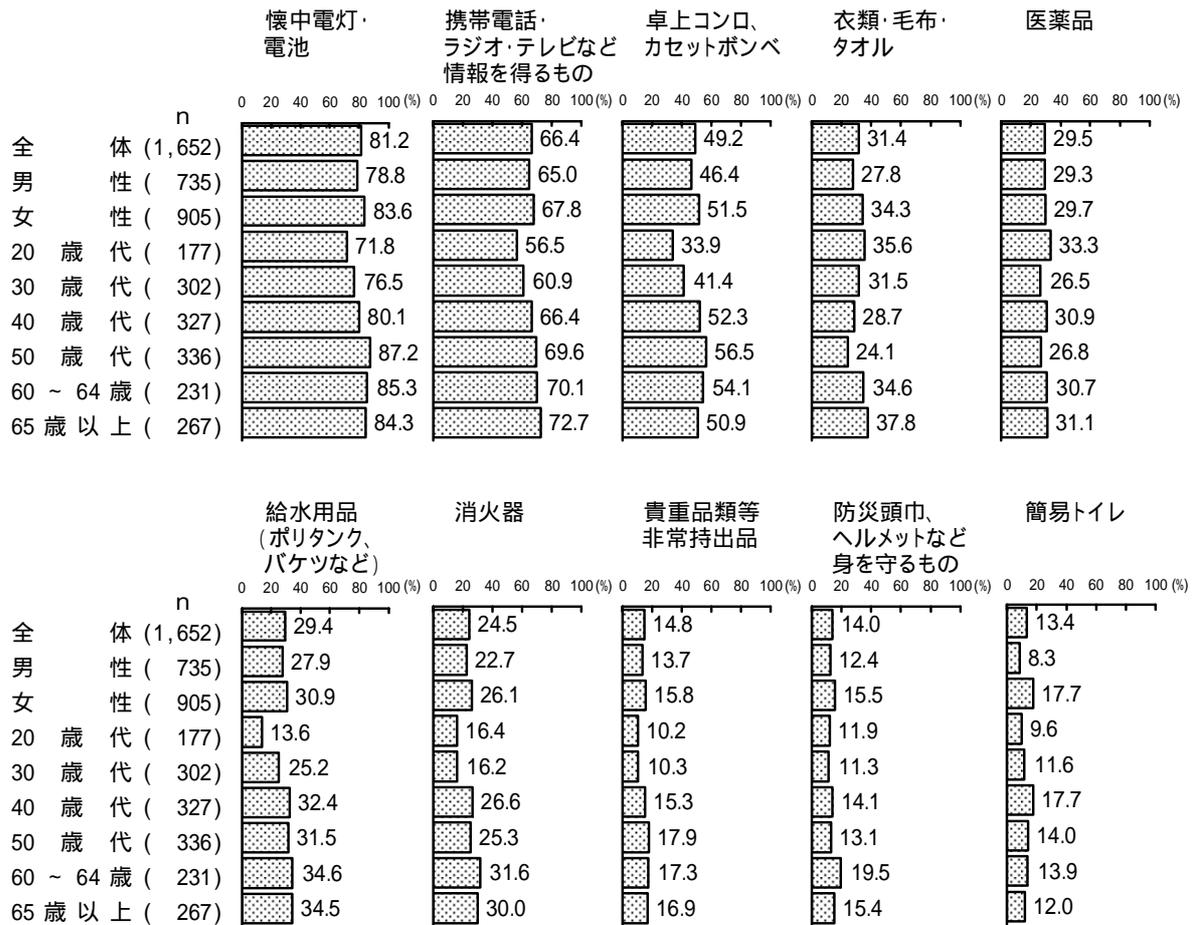
(はいいくつでも)

図4 - 5 - 1



家庭で食糧・飲料水以外に何か備蓄しているものはあるかを聞いたところ、「懐中電灯・電池」が8割強(81.2%)と最も高く、ついで「携帯電話・ラジオ・テレビなど情報を得るもの」(66.4%)、「卓上コンロ・カセットボンベ」(49.2%)、「衣類・毛布・タオル」(31.4%)、「医薬品」(29.5%)と続いている。(図4 - 5 - 1)

図4 - 5 - 2 食糧・飲料水以外に備蓄しているもの - 性別・年齢別（1～10位）



性別にみると、すべての項目で女性のほうが高く、「簡易トイレ」は9.4ポイント、「卓上コンロ・カセットボンベ」は5.1ポイント、「懐中電灯・電池」は4.8ポイント、それぞれ高くなっている。

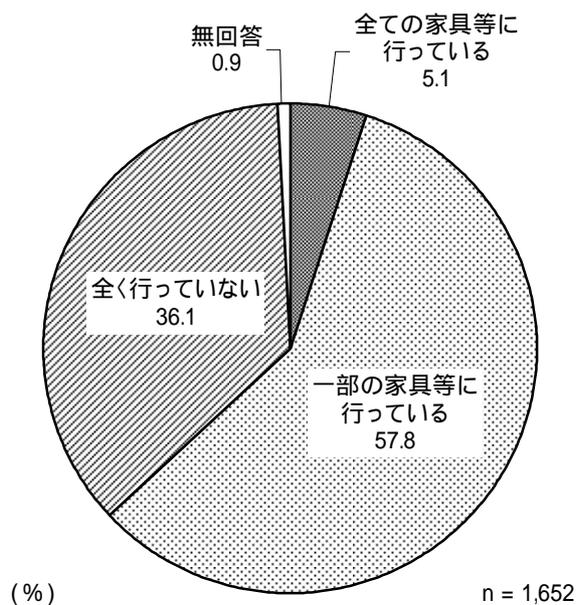
年齢別にみると、「懐中電灯・電池」は40歳代以上の年代で8割を超えている。また、「携帯電話・ラジオ・テレビなど情報を得るもの」は年代が上がるにつれて割合が高く、65歳以上では7割強（72.7%）となっている。（図4 - 5 - 2）

4 - 6 家具類や冷蔵庫などの転倒防止策

『行っている』が6割強

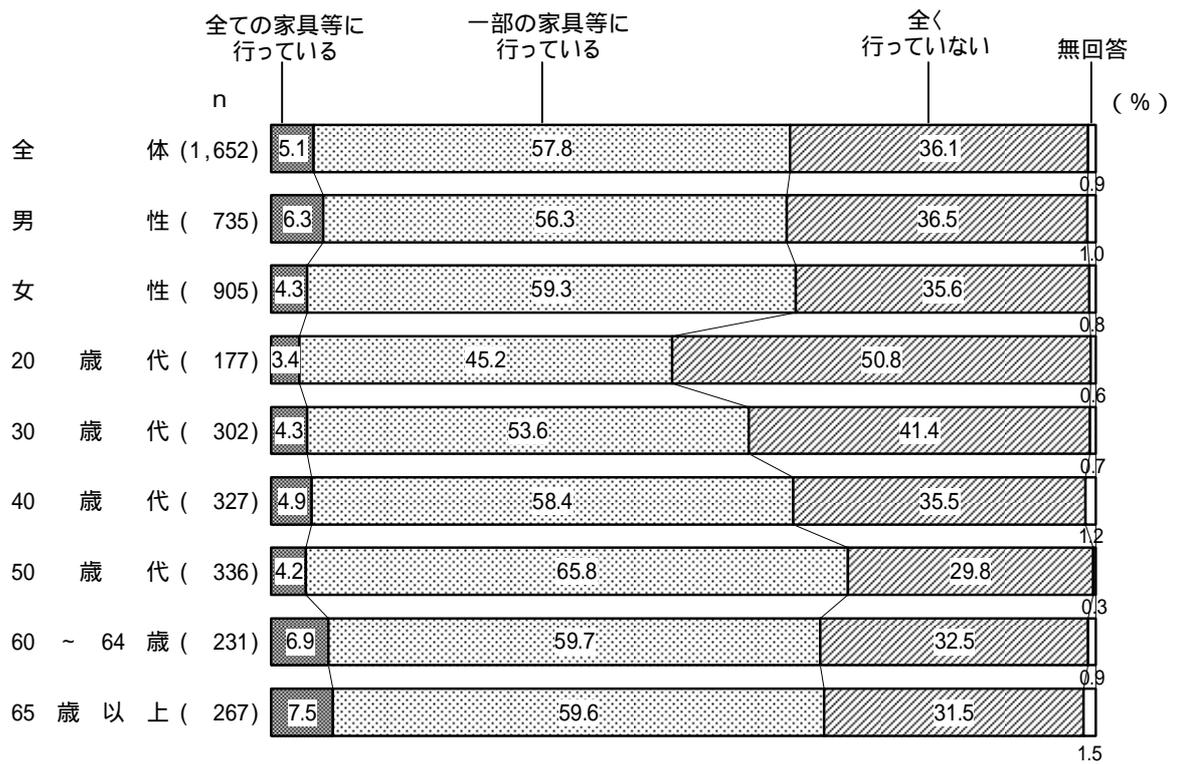
問7 あなたのご自宅では地震に備えて、家具類や冷蔵庫などの転倒防止策を行っていますか。
(は1つだけ)

図4 - 6 - 1



家具類や冷蔵庫などの転倒防止策を行っているかを聞いたところ、「一部の家具等に行っている」が6割弱（57.8%）と最も高く、「全ての家具等に行っている」（5.1%）と合わせた『行っている』は6割強（62.9%）となっている。一方、「全く行っていない」は4割弱（36.1%）となっている。（図4 - 6 - 1）

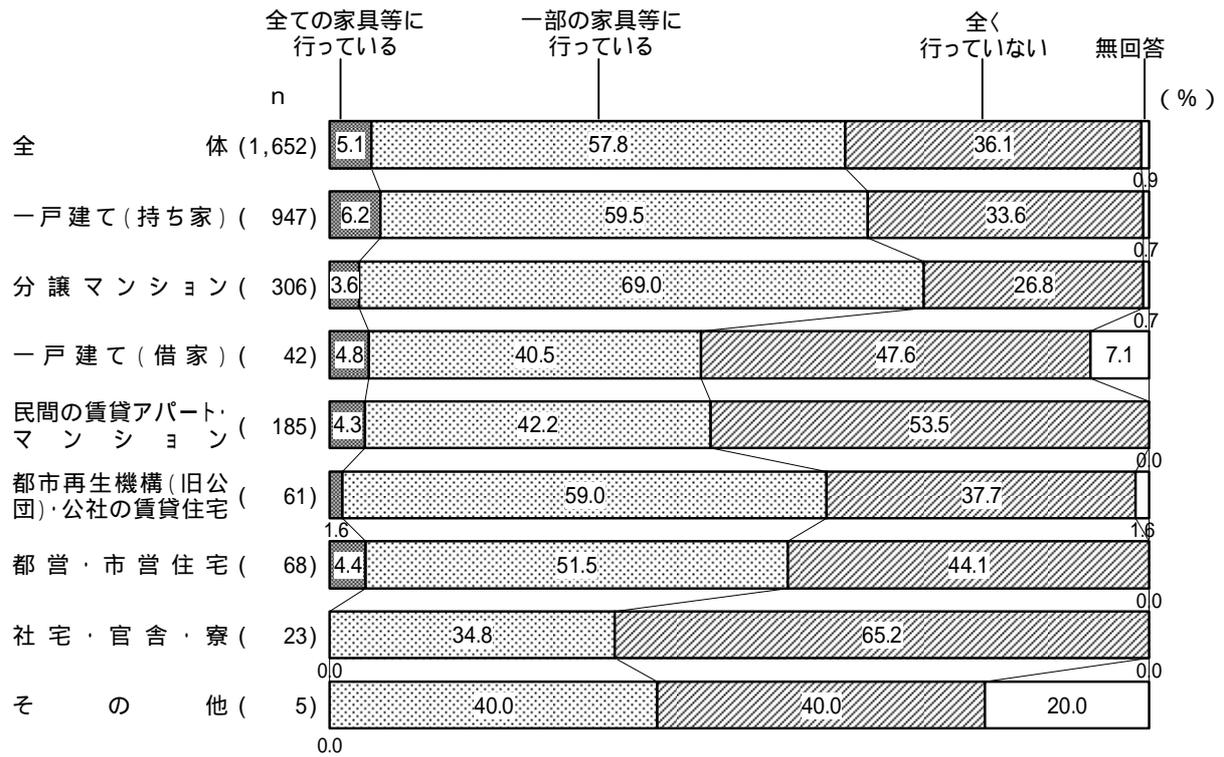
図4 - 6 - 2 家具類や冷蔵庫などの転倒防止策 - 性別・年齢別



性別にみると、『行っている』は1.0ポイント女性のほうが高くなっている。

年齢別にみると、『行っている』は50歳代で7割（70.0%）と高くなっている。一方、「全く行っていない」は20歳代でほぼ5割（50.8%）と高くなっている。（図4 - 6 - 2）

図4 - 6 - 3 家具類や冷蔵庫などの転倒防止策 - 居住形態別



居住形態別にみると、『行っている』は分譲マンションで7割強(72.6%)と高くなっている。一方、『全く行っていない』は社宅・官舎・寮で6割台半ば(65.2%)となっている。

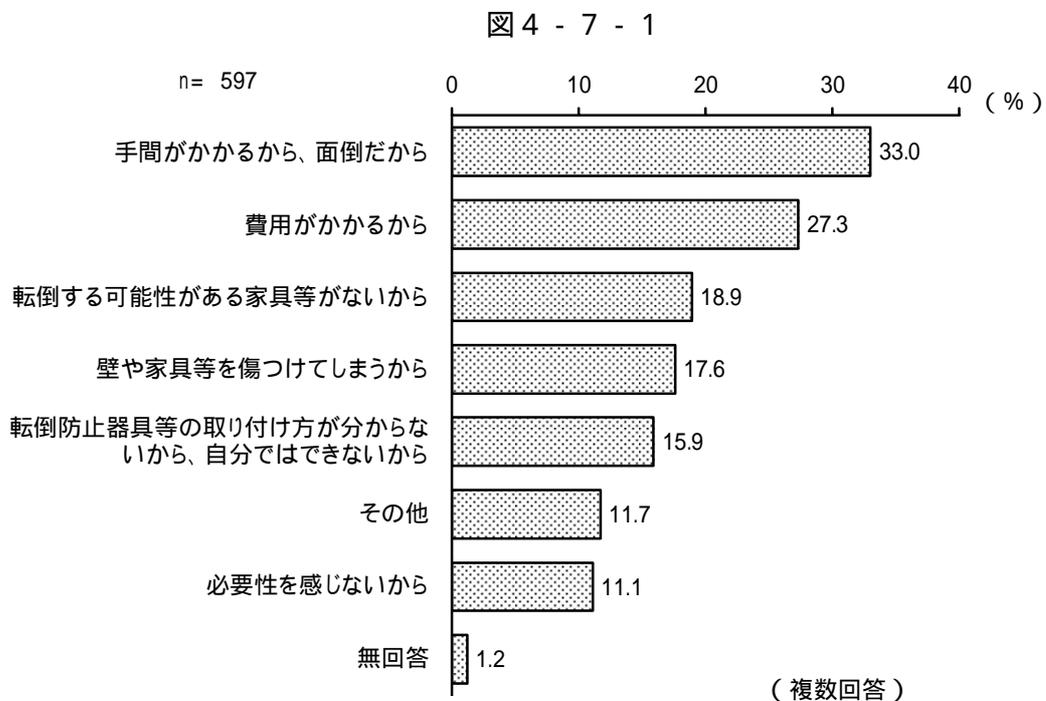
(図4 - 6 - 3)

4 - 7 転倒防止策を行っていない理由

「手間がかかるから、面倒だから」が3割強

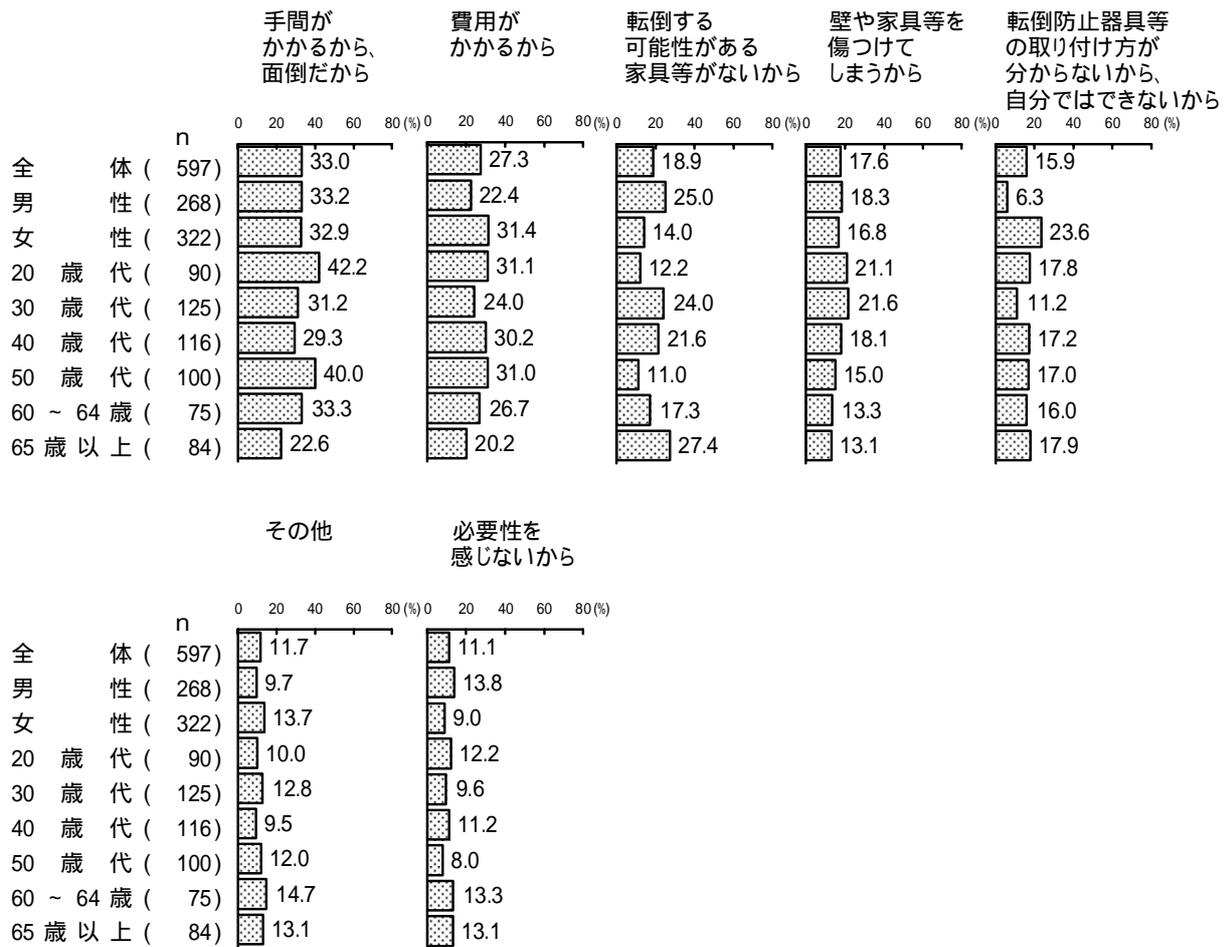
(問7で「全く行っていない」とお答えの方に)

問7 - 1 転倒防止策を行っていない理由を選んでください。(はいいくつでも)



家具類や冷蔵庫などの転倒防止策で、「全く行っていない」と答えた人(597人)に、転倒防止策を行っていない理由を聞いたところ、「手間がかかるから、面倒だから」が3割強(33.0%)と最も高く、ついで「費用がかかるから」(27.3%)、「転倒する可能性がある家具等がないから」(18.9%)、「壁や家具等を傷つけてしまうから」(17.6%)と続いている。(図4 - 7 - 1)

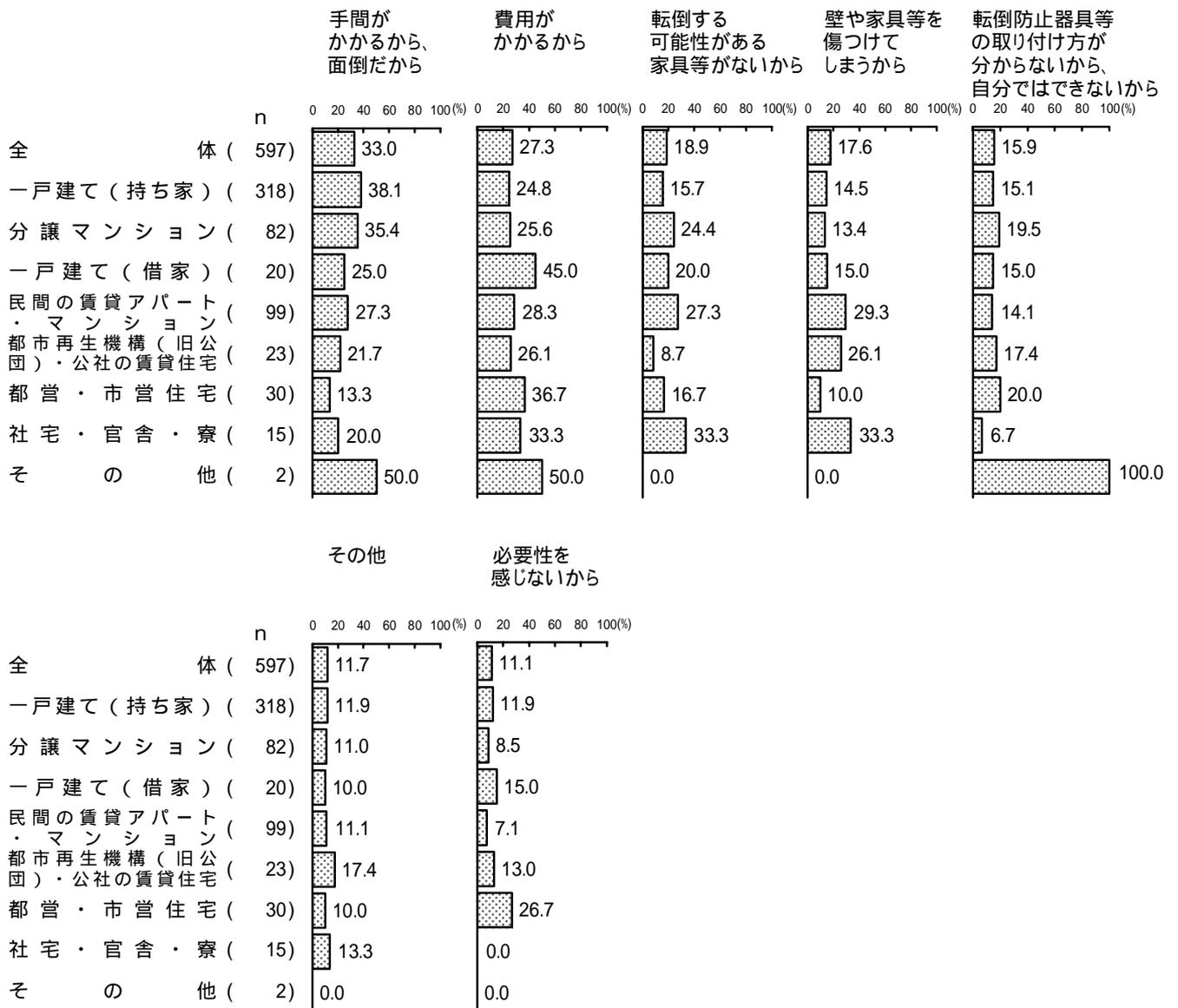
図4 - 7 - 2 転倒防止策を行っていない理由 - 性別・年齢別



性別にみると、「転倒防止器具等の取り付け方が分からないから、自分ではできないから」は17.3ポイント、「費用がかかるから」は9.0ポイント、それぞれ女性のほうが高くなっている。逆に「転倒する可能性がある家具等がないから」は男性のほうが11.0ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「手間がかかるから、面倒だから」は20歳代（42.2%）、50歳代（40.0%）で4割を超え高く、「費用がかかるから」は20歳代（31.1%）、40歳代（30.2%）、50歳代（31.0%）で3割台と高くなっている。（図4 - 7 - 2）

図4-7-3 転倒防止策を行っていない理由 - 居住形態別



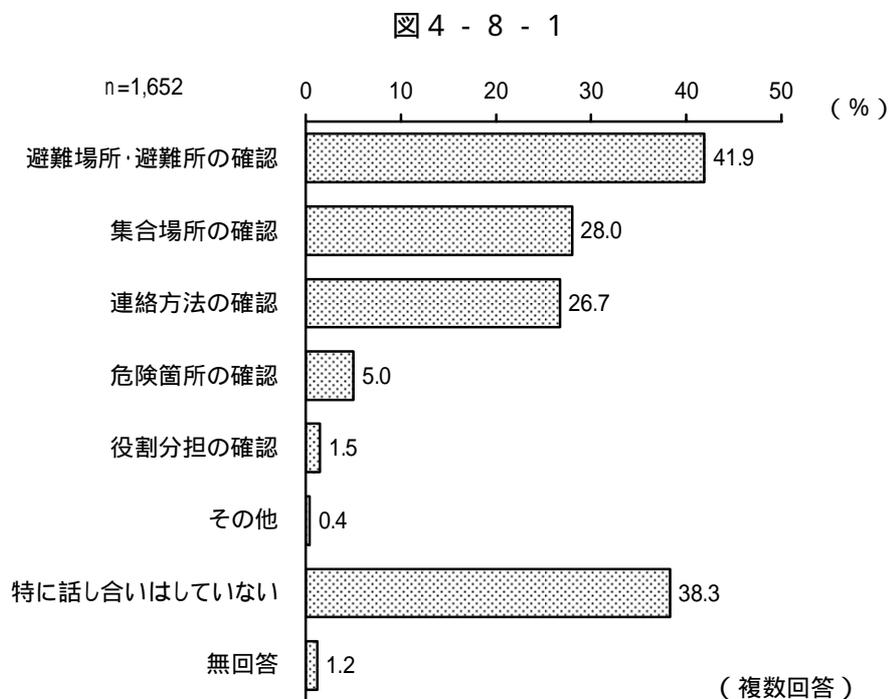
居住形態別にみると、「手間がかかるから、面倒だから」は一戸建て（持ち家）で4割弱（38.1%）、「費用がかかるから」は一戸建て（借家）で4割台半ば（45.0%）と、それぞれ高くなっている。また、「壁や家具等を傷つけてしまうから」は社宅・官舎・寮で3割強（33.3%）、民間の賃貸アパート・マンションでほぼ3割（29.3%）と、それぞれ高くなっている。

（図4-7-3）

4 - 8 災害に備えた話し合い

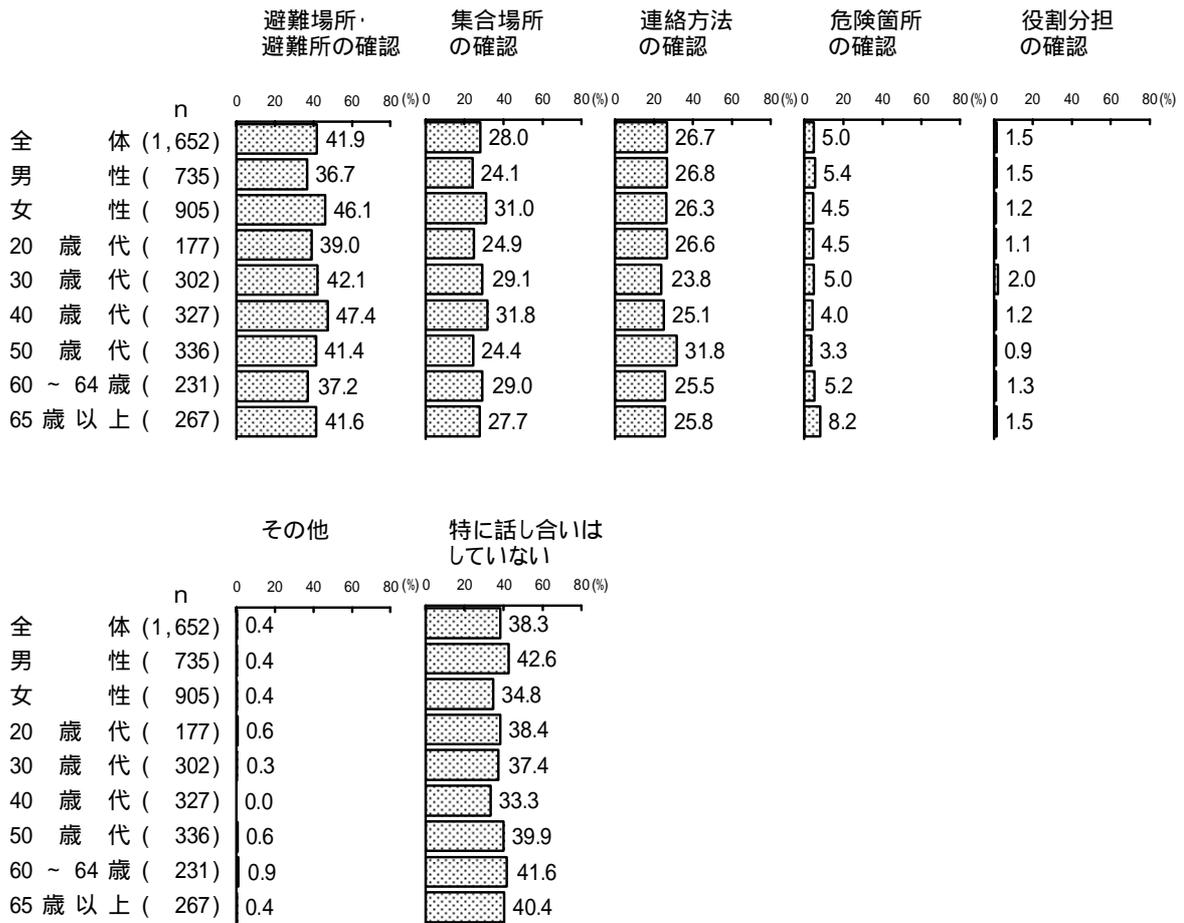
「避難場所・避難所の確認」が4割強

問8 あなたは、災害に備えて家族や親せき、知人とどんな話し合いをしていますか(したことがありますか)。(はいいくつでも)



災害に備えて家族や親せき、知人とどんな話し合いをしているか(したことがあるか)を聞いたところ、「避難場所・避難所の確認」が4割強(41.9%)、ついで「集合場所の確認」(28.0%)、「連絡方法の確認」(26.7%)と続いている。一方、「特に話し合いはしていない」は4割弱(38.3%)となっている。(図4 - 8 - 1)

図4 - 8 - 2 災害に備えた話し合い - 性別・年齢別

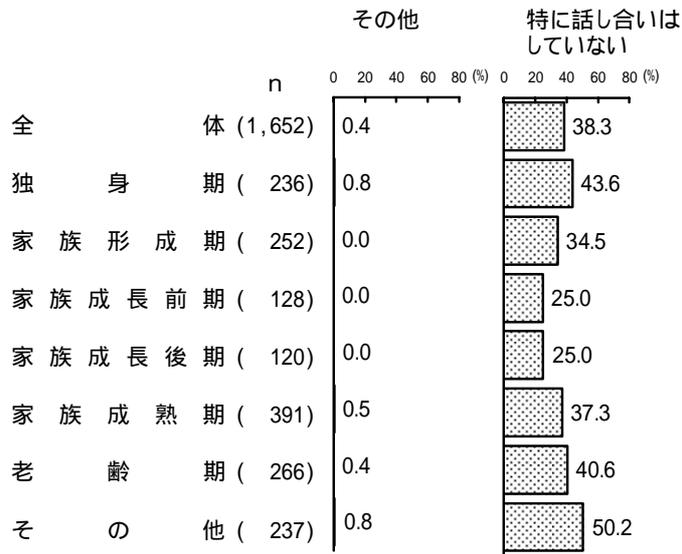
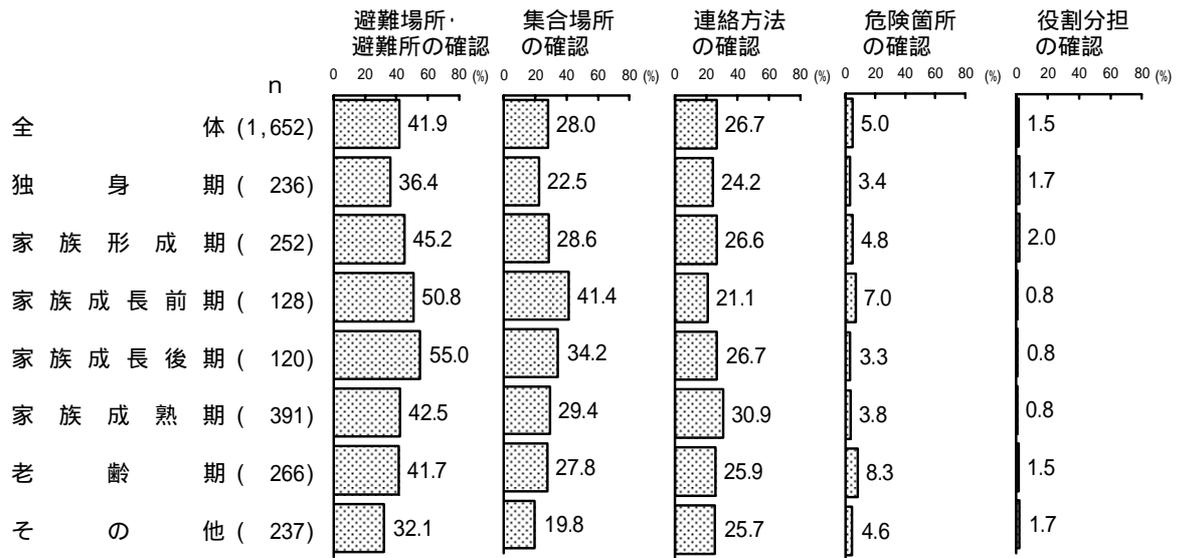


性別にみると、「避難場所・避難所の確認」が9.4ポイント、「集合場所の確認」は6.9ポイント、それぞれ女性のほうが高くなっている。逆に「特に話し合いはしていない」は7.8ポイント男性のほうが高くなっている。

年齢別にみると、「避難場所・避難所の確認」は40歳代で5割強（47.4%）、「集合場所の確認」でも40歳代が3割強（31.8%）と、それぞれ高くなっている。また、「連絡方法の確認」では50歳代が3割強（31.8%）と高くなっている。一方、「特に話し合いはしていない」は60~64歳で4割強（41.6%）50歳代（39.9%）65歳以上（40.4%）でほぼ4割と高くなっている。

(図4 - 8 - 2)

図4 - 8 - 3 災害に備えた話し合い - ライフステージ別



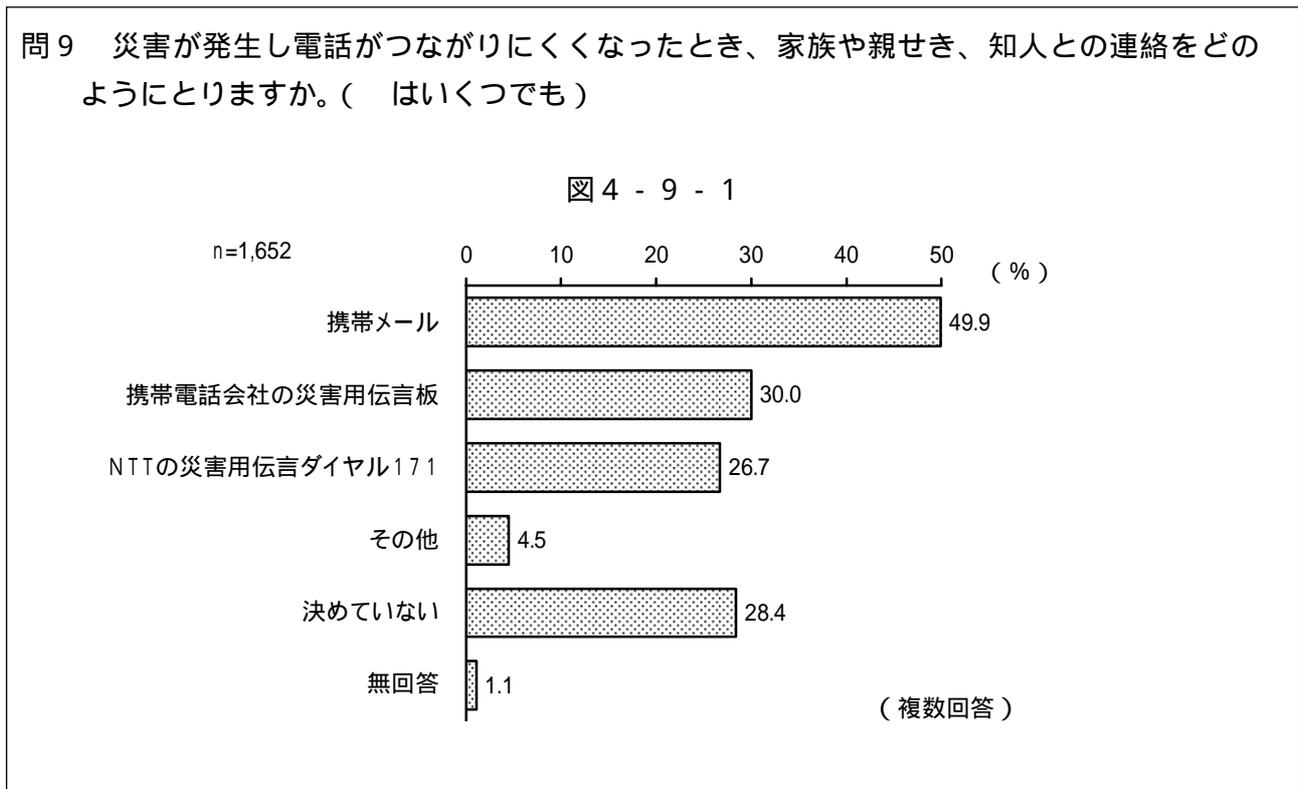
ライフステージ別にみると、「避難場所・避難所の確認」は家族成長後期で5割台半ば(55.0%)、「集合場所の確認」は家族成長前期で4割強(41.4%)と、それぞれ高くなっている。

(図4 - 8 - 3)

4 - 9 災害時の連絡手段

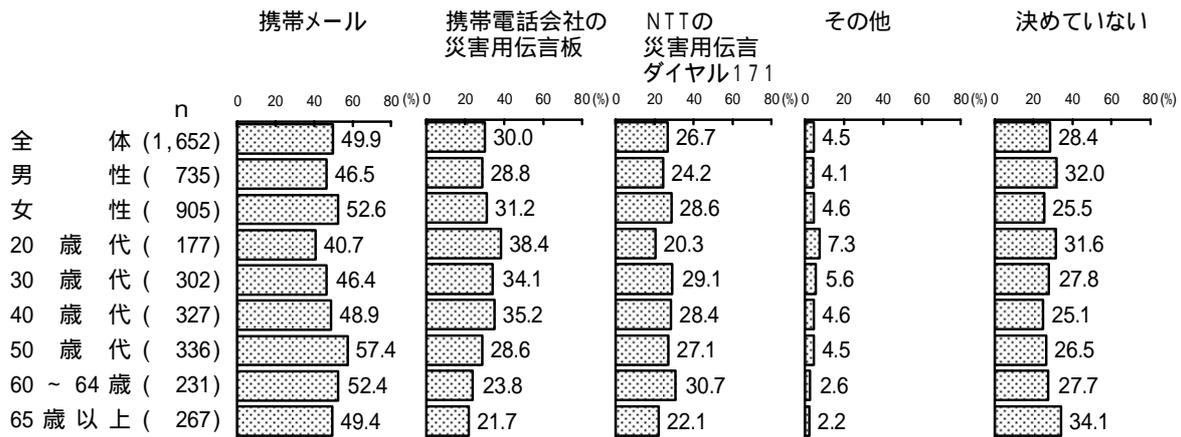
「携帯メール」がほぼ5割

問9 災害が発生し電話がつながりにくくなったとき、家族や親せき、知人との連絡をどのようにとりますか。(はいくつでも)



災害が発生し電話がつながりにくくなったとき、家族や親せき、知人との連絡をどのようにとるかを聞いたところ、「携帯メール」がほぼ5割(49.9%)と最も高く、ついで「携帯電話会社の災害用伝言板」(30.0%)、「NTTの災害用伝言ダイヤル171」(26.7%)となっている。一方、「決めていない」は3割弱(28.4%)となっている。(図4 - 9 - 1)

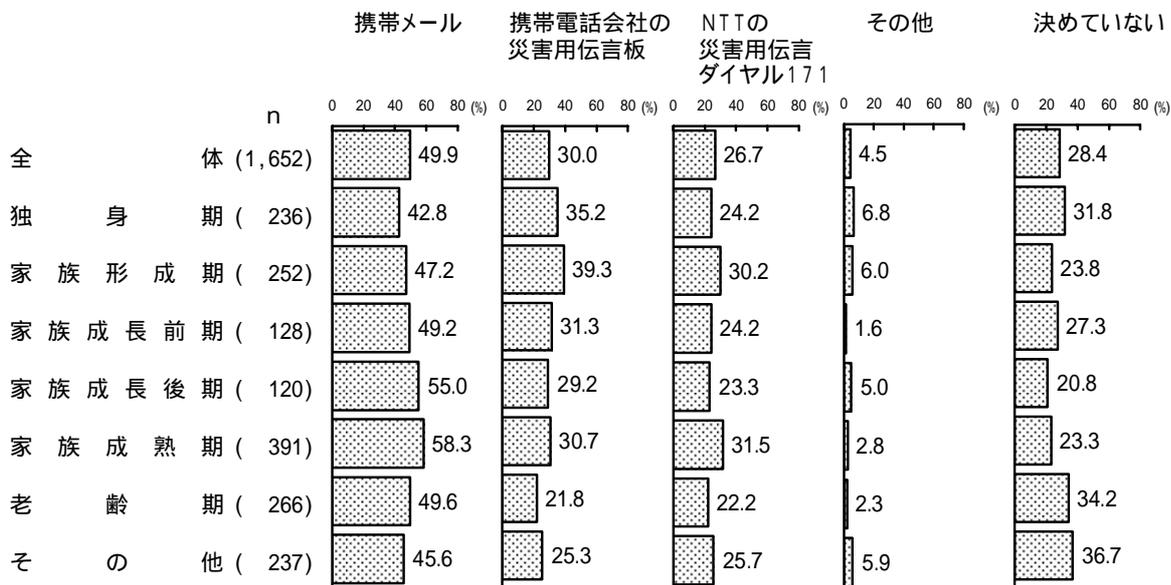
図4 - 9 - 2 災害時の連絡手段 - 性別・年齢別



性別にみると、「携帯メール」は6.1ポイント、「NTTの災害用伝言ダイヤル171」は4.4ポイント女性のほうが高くなっている。一方、「決めていない」は6.5ポイント男性のほうが高くなっている。

年齢別にみると、「携帯メール」は50歳代で6割弱（57.4%）、「携帯電話会社の災害用伝言板」は20歳代で4割弱（38.4%）と、それぞれ高くなっている。一方、「決めていない」は65歳以上で3割台半ば（34.1%）と高くなっている。（図4 - 9 - 2）

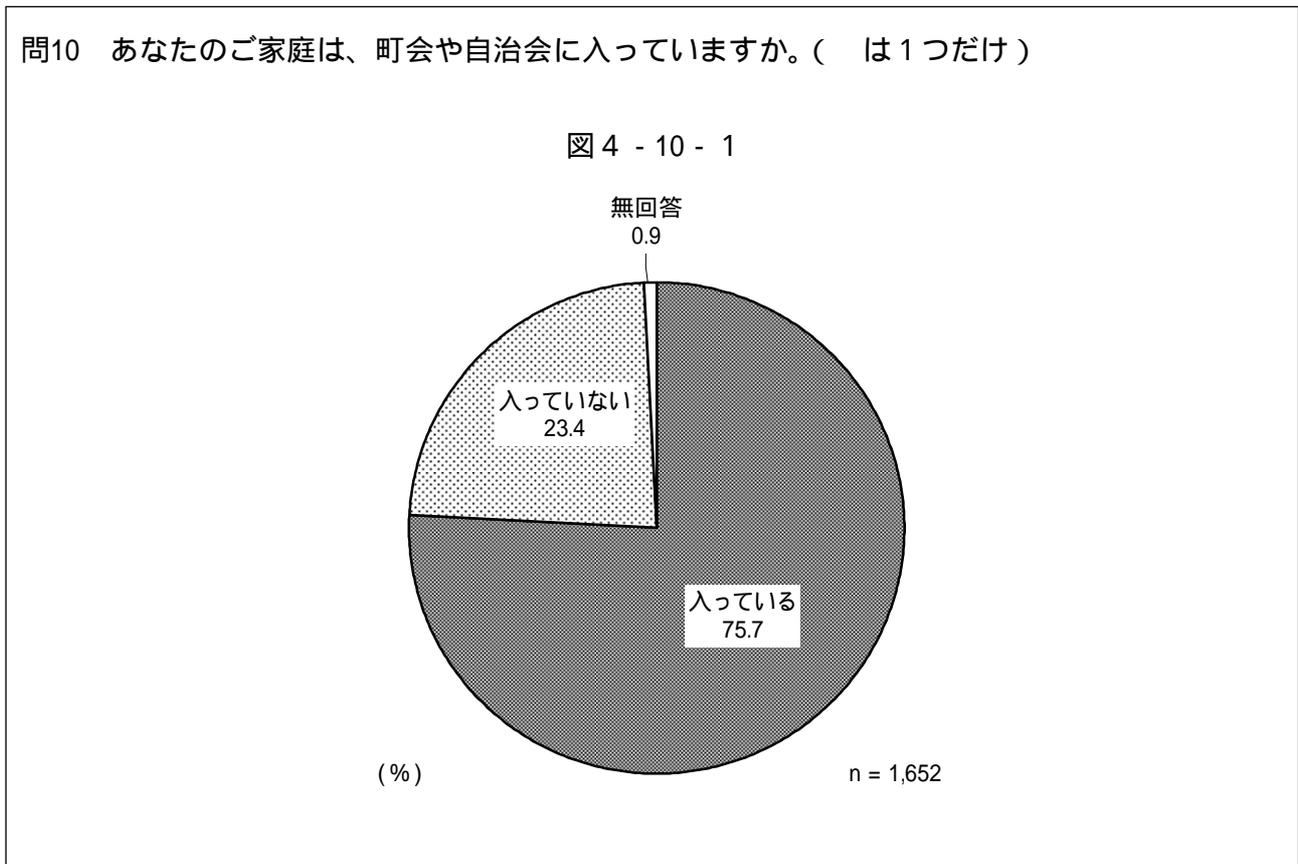
図4 - 9 - 3 災害時の連絡手段 - ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「携帯メール」は家族成熟期で6割弱（58.3%）、「携帯電話会社の災害用伝言板」は家族形成期でほぼ4割（39.3%）と、それぞれ高くなっている。一方、「決めていない」は老齢期で3割台半ば（34.2%）と高くなっている。（図4 - 9 - 3）

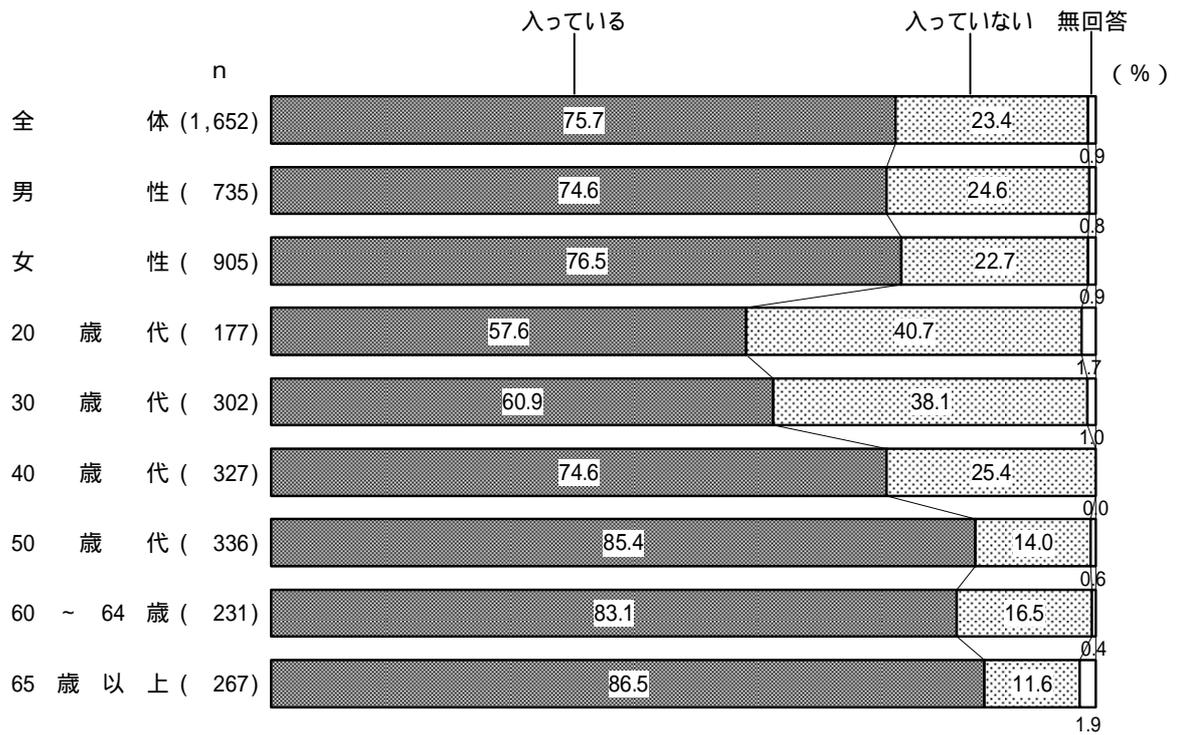
4 - 10 町会・自治会の加入状況

「入っている」が7割台半ば



町会や自治会に入っているかを聞いたところ、「入っている」が7割台半ば(75.7%)、「入っていない」は2割強(23.4%)となっている。(図4 - 10 - 1)

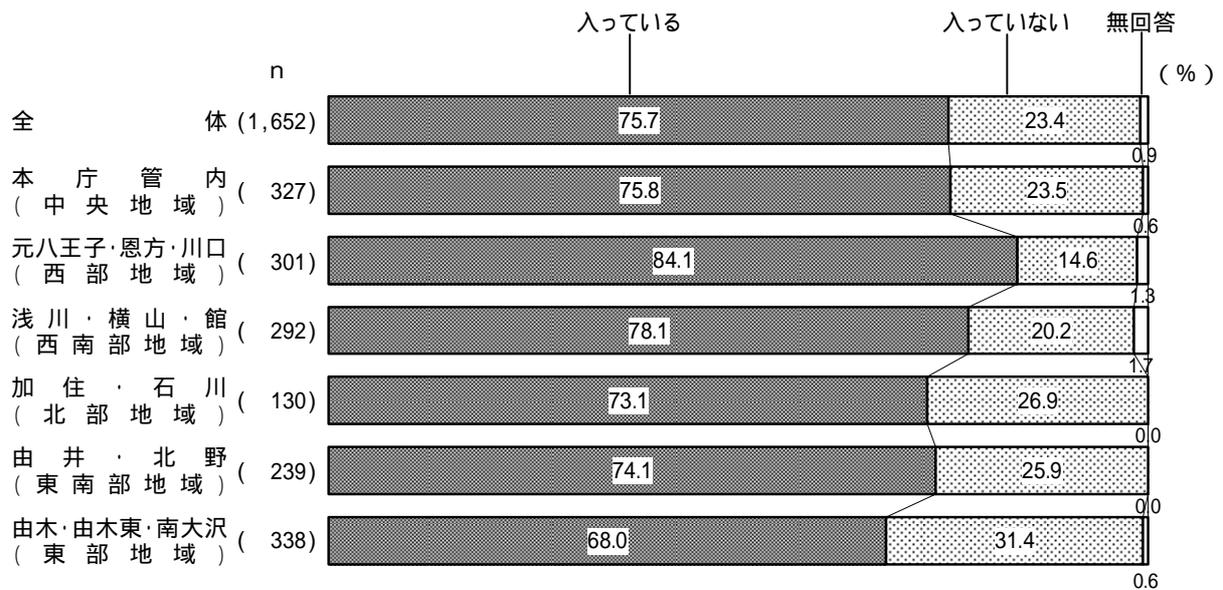
図4 - 10 - 2 町会・自治会の加入状況 - 性別・年齢別



性別にみると、「加入している」は1.9ポイント女性のほうが高くなっている。

年齢別にみると、「加入している」はおおむね年代が上がるにつれて割合が高く、特に65歳以上で9割弱（86.5%）と高くなっている。一方、「加入していない」は20歳代でほぼ4割（40.7%）と高くなっている。（図4 - 10 - 2）

図4 - 10 - 3 町会・自治会の加入状況 - 居住地域別



居住地域別にみると、「加入している」は元八王子・恩方・川口（西部地域）で8割台半ば（84.1%）と高くなっている。一方、「加入していない」は由木・由木東・南大沢（東部地域）で3割強（31.4%）と高くなっている。（図4 - 10 - 3）

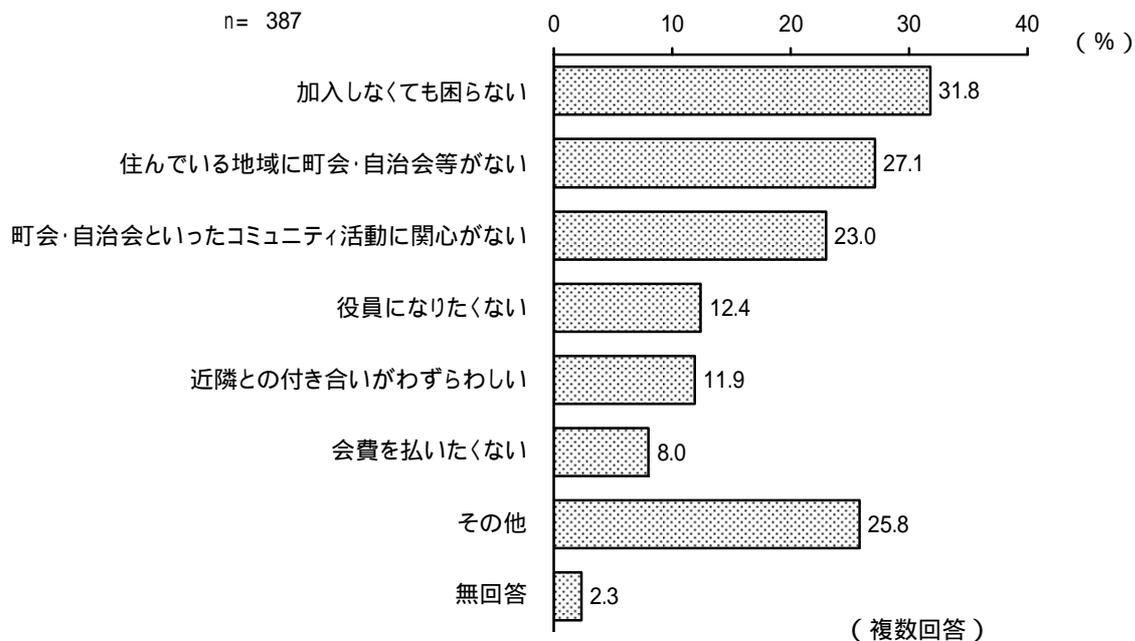
4 - 11 町会・自治会に加入していない理由

「加入しなくても困らない」が3割強

(問10で「入っていない」とお答えの方に)

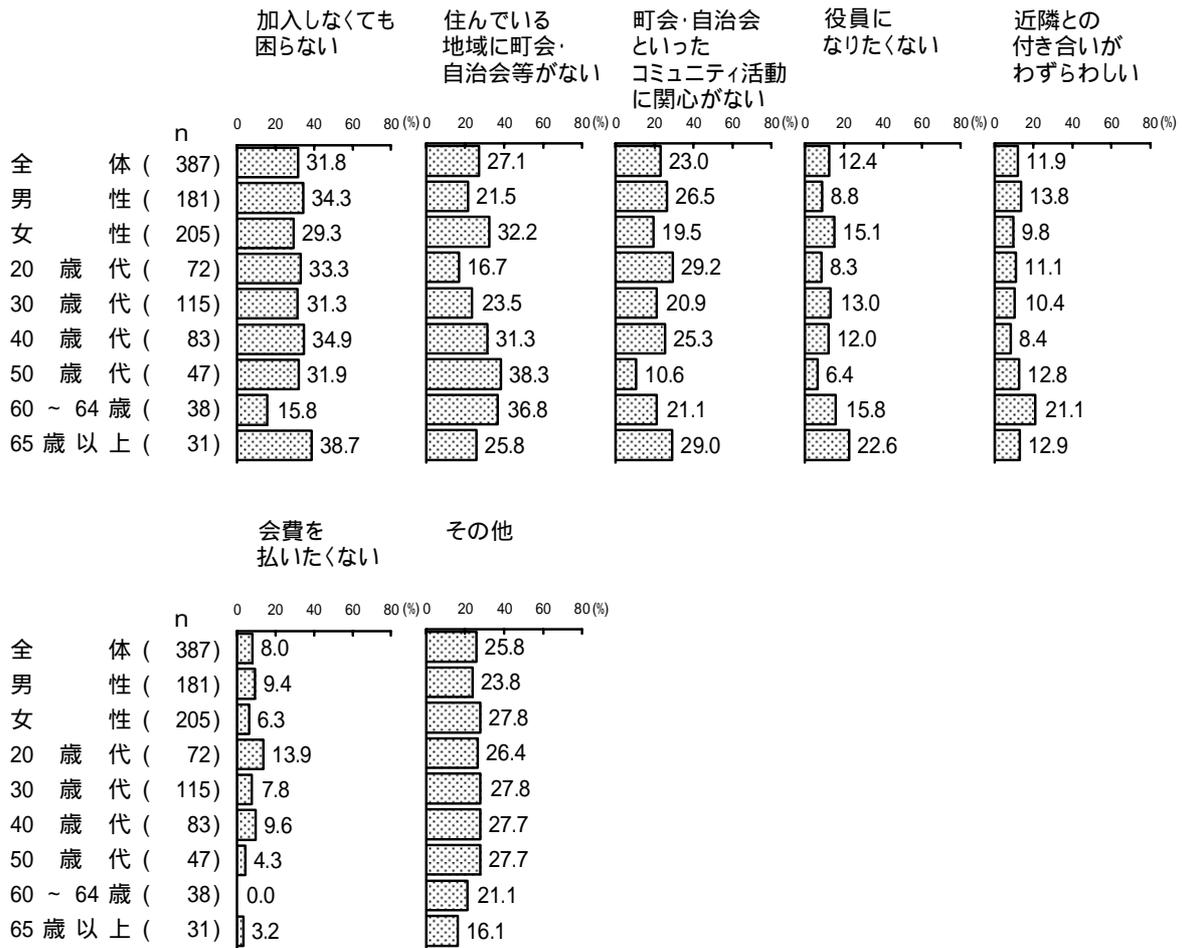
問10 - 1 町会・自治会に入っていない理由は何ですか。(はいくつでも)

図 4 - 11 - 1



町会・自治会の加入状況で、「入っていない」と答えた人(387人)に、町会・自治会に入っていない理由を聞いたところ、「加入しなくても困らない」が3割強(31.8%)と最も高く、ついで「住んでいる地域に町会・自治会等がない」(27.1%)、「町会・自治会といったコミュニティ活動に関心がない」(23.0%)、「役員になりたくない」(12.4%)と続いている。(図4 - 11 - 1)

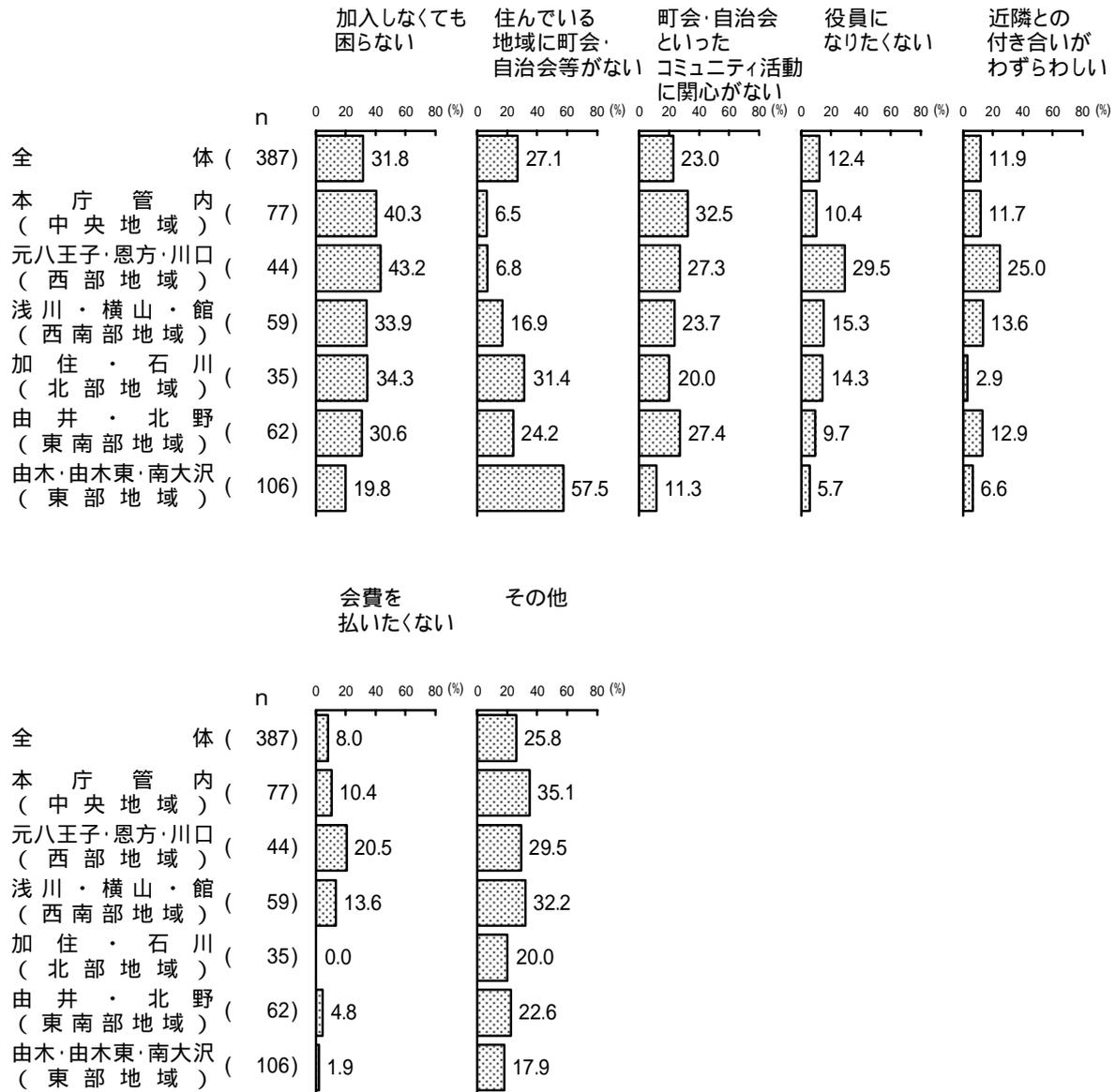
図4 - 11 - 2 町会・自治会に加入していない理由 - 性別・年齢別



性別にみると、「住んでいる地域に町会・自治会等がない」は10.7ポイント、「役員になりたくない」は6.3ポイント、それぞれ女性のほうが高くなっている。逆に「町会・自治会といったコミュニティ活動に関心がない」は7.0ポイント、「加入しなくても困らない」は5.0ポイント、それぞれ男性のほうが高くなっている。

年齢別にみると、「加入しなくても困らない」は60～64歳をのぞく全ての年代で3割台となっている。また、「住んでいる地域に町会・自治会等がない」は50歳代（38.3%）、60～64歳（36.8%）でともに4割弱と高くなっている。（図4 - 11 - 2）

図4 - 11 - 3 町会・自治会に加入していない理由 - 居住地域別



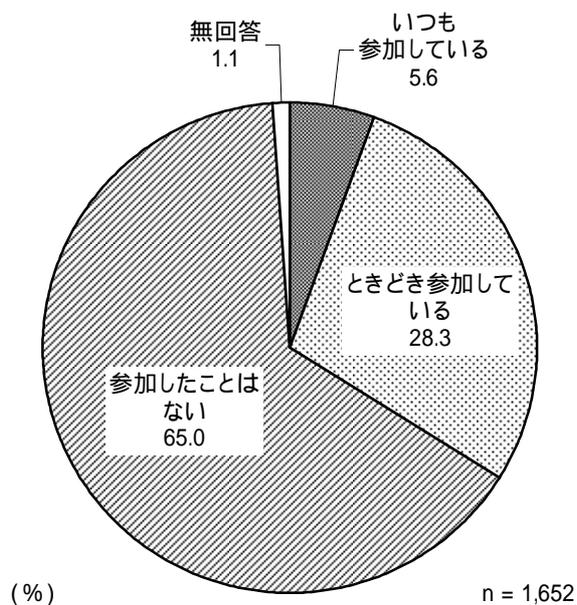
居住地域別にみると、「住んでいる地域に町会・自治会等がない」は由木・由木東・南大沢（東部地域）で6割弱（57.5%）と高くなっている。また、「加入しなくても困らない」は元八王子・恩方・川口（西部地域）で4割強（43.2%）と高くなっている。（図4 - 11 - 3）

4 - 12 防災訓練への参加状況

『参加している』が3割強

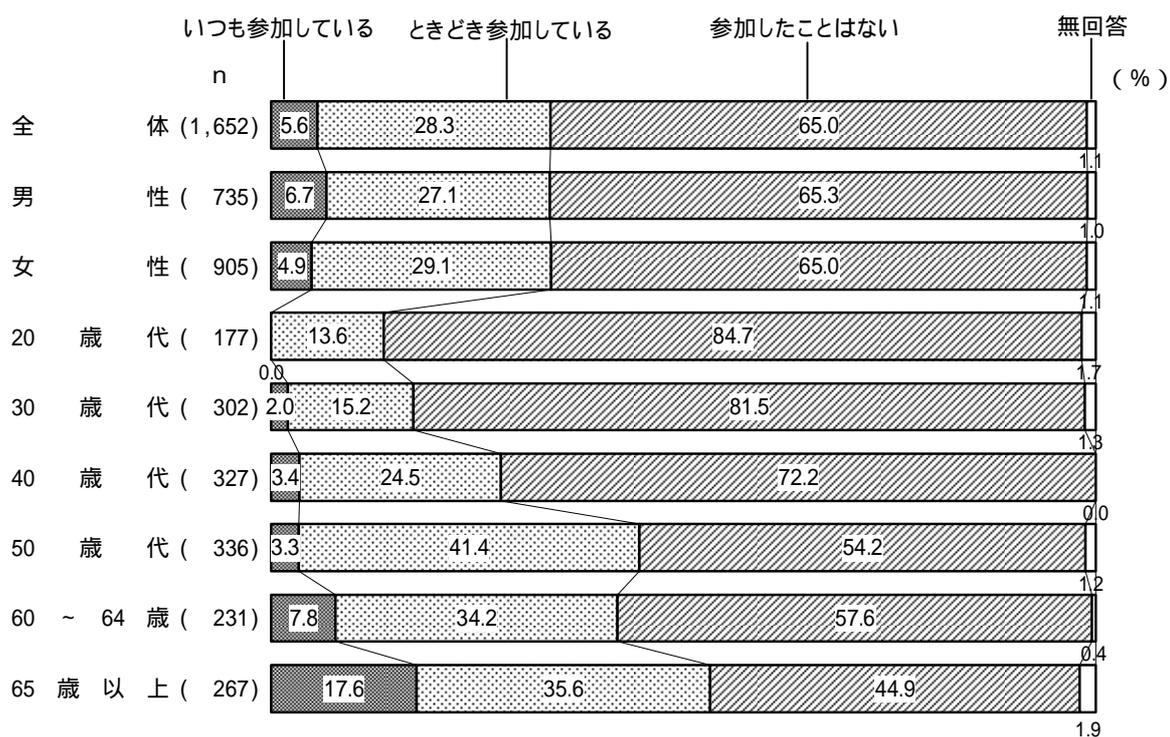
問11 町会・自治会・管理組合や自主防災組織などが地域で行う防災訓練に参加したことがありますか。(は1つだけ)

図 4 - 12 - 1



町会・自治会・管理組合や自主防災組織などが地域で行う防災訓練に参加したことがあるかを聞いたところ、「いつも参加している」(5.6%)と「ときどき参加している」(28.3%)を合わせた『参加している』は3割強(33.9%)となっている。一方、「参加したことはない」は6割台半ば(65.0%)となっている。(図4 - 12 - 1)

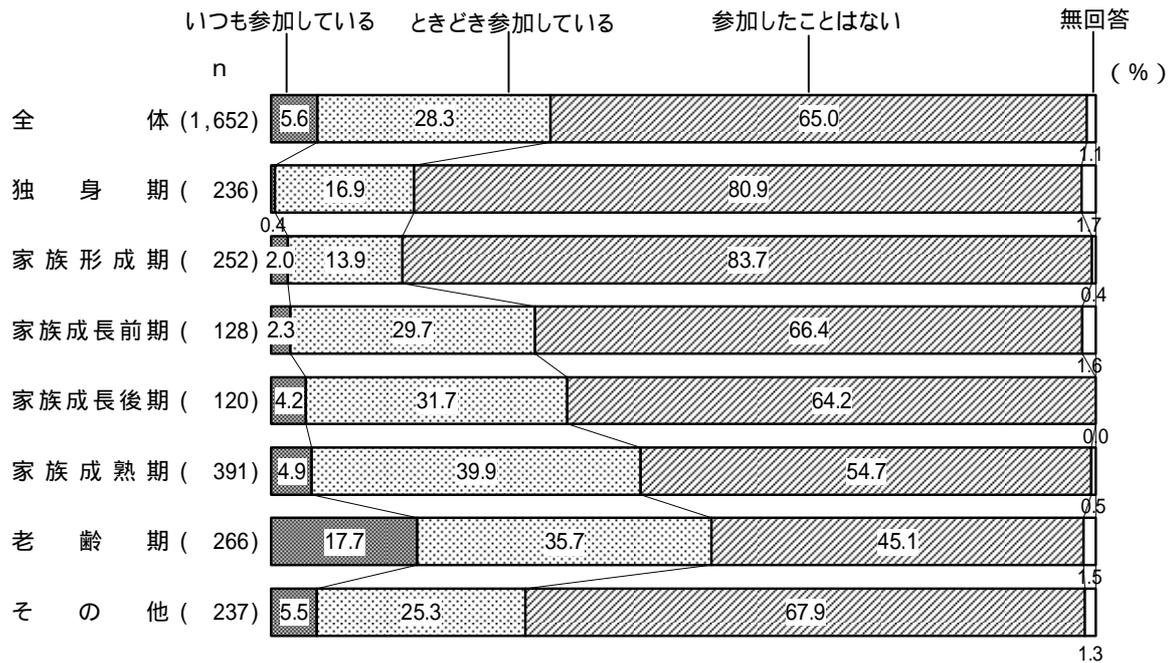
図4 - 12 - 2 防災訓練への参加状況 - 性別・年齢別



性別にみると、「いつも参加している」は1.8ポイント男性のほうが高くなっている。

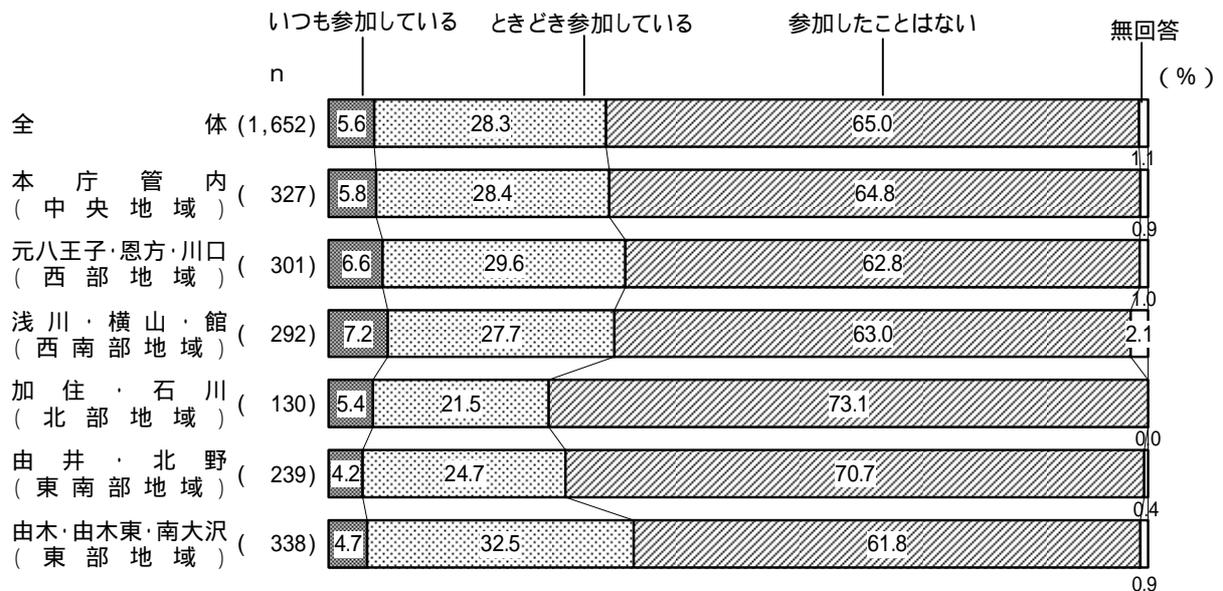
年齢別にみると、『参加している』はおおむね年齢が上がるにつれて割合が高く、65歳以上で5割強（53.2%）、50歳代で4割台半ば（44.7%）と高くなっている。（図4 - 12 - 2）

図4 - 12 - 3 防災訓練への参加状況 - ライフステージ別



ライフステージ別にみると、『参加している』は老齢期で5割強（53.4%）と高くなっている。一方、「参加したことはない」は家族形成期で8割強（83.7%）、独身期でほぼ8割（80.9%）と、それぞれ高くなっている。（図4 - 12 - 3）

図4 - 12 - 4 防災訓練への参加状況 - 居住地域別



居住地域別にみると、『参加している』は由木・由木東・南大沢（東部地域）（37.2%）、元八王子・恩方・川口（西部地域）が4割弱（36.2%）と高くなっている。一方、「参加したことはない」は加住・石川（北部地域）が7割強（73.1%）と高くなっている。（図4 - 12 - 4）

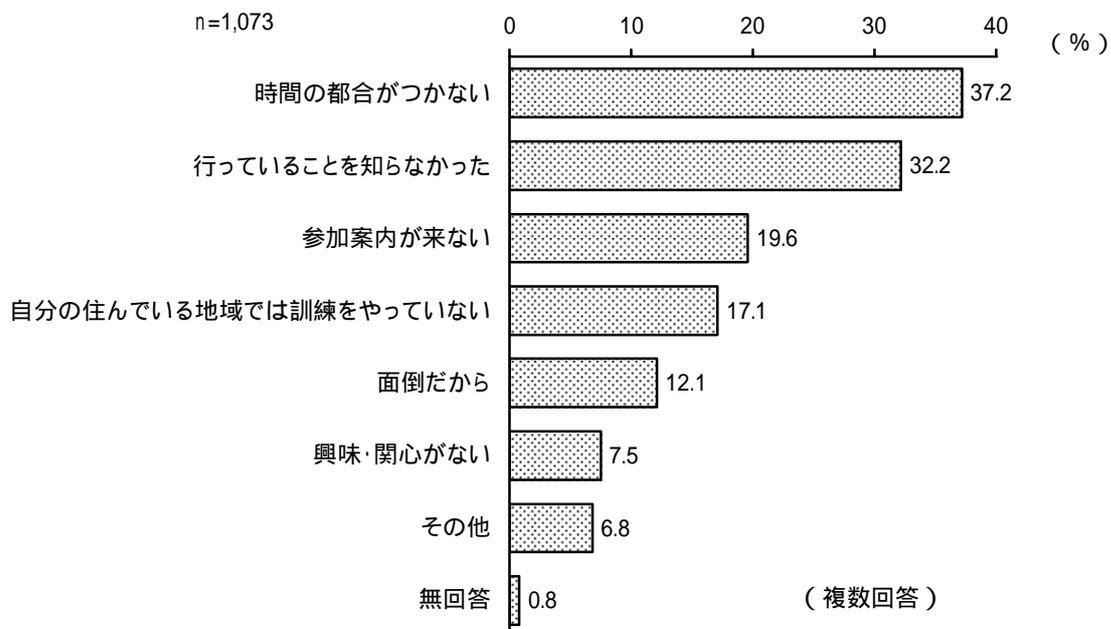
4 - 13 防災訓練に参加したことがない理由

「時間の都合がつかない」が4割弱

(問11で「参加したことはない」とお答えの方に)

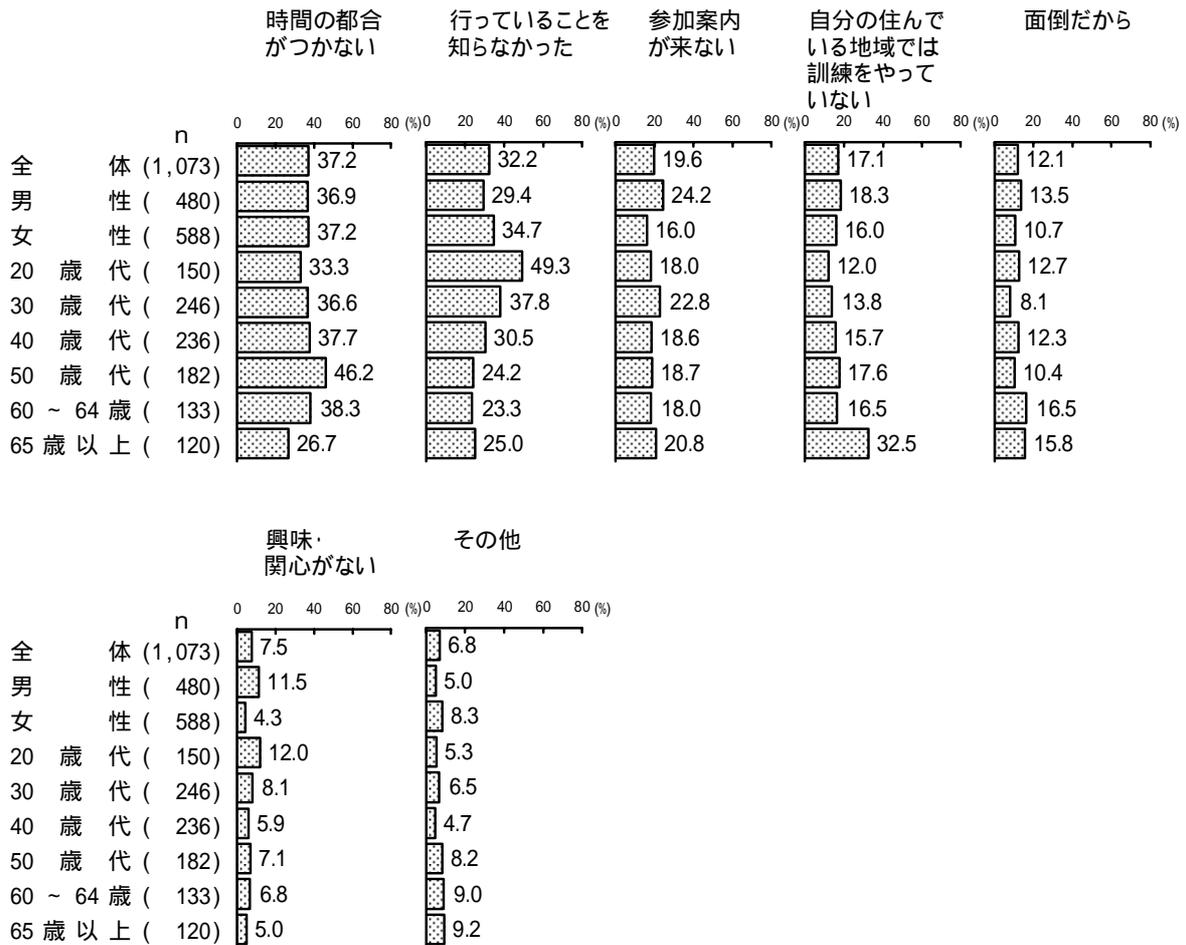
問11 - 1 参加したことがない理由は何ですか。(はいくつでも)

図4 - 13 - 1



防災訓練への参加状況で、「参加したことはない」と答えた人(1,073人)に、参加したことがない理由を聞いたところ、「時間の都合がつかない」が4割弱(37.2%)と最も高く、ついで「行っていることを知らなかった」(32.2%)、「参加案内が来ない」(19.6%)、「自分の住んでいる地域では訓練をやっていない」(17.1%)と続いている。(図4 - 13 - 1)

図4 - 13 - 2 防災訓練に参加したことがない理由 - 性別・年齢別

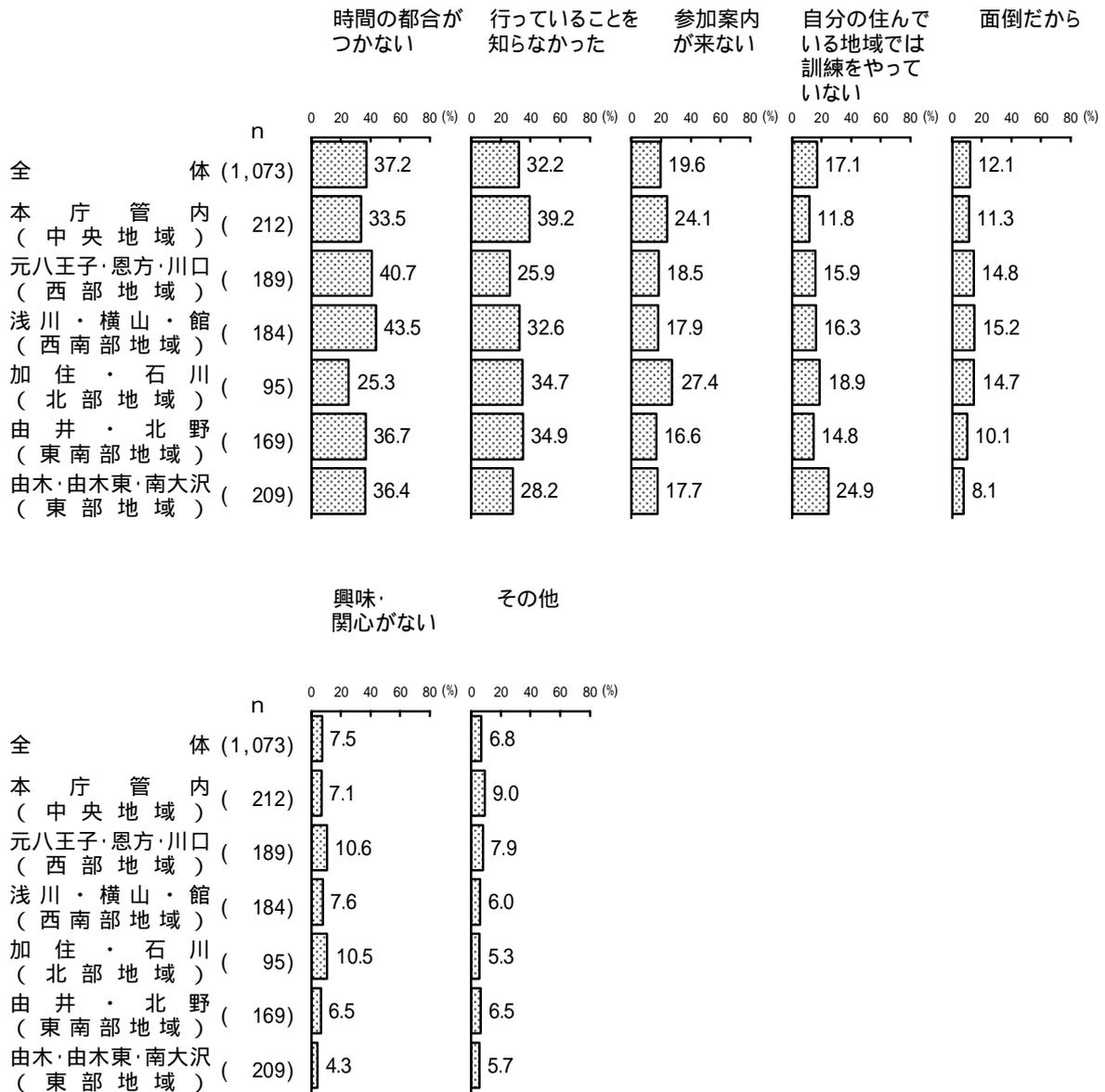


性別にみると、「参加案内が来ない」は8.2ポイント、「興味・関心がない」は7.2ポイント、それぞれ男性のほうが高くなっている。逆に「行っていることを知らなかった」は5.3ポイント女性のほうが高くなっている。

年齢別にみると、「時間の都合がつかない」は50歳代で5割弱（46.2%）と高くなっている。また、「行っていることを知らなかった」は20歳代でほぼ5割（49.3%）と高くなっている。

(図4 - 13 - 2)

図4 - 13 - 3 防災訓練に参加したことがない理由 - 居住地域別



居住地域別にみると、「時間の都合がつかない」は浅川・横山・館（西南部地域）（43.5%）、元八王子・恩方・川口（西部地域）（40.7%）で4割を超え高くなっている。また、「行っていることを知らなかった」は本庁管内（中央地域）でほぼ4割（39.2%）と高くなっている。

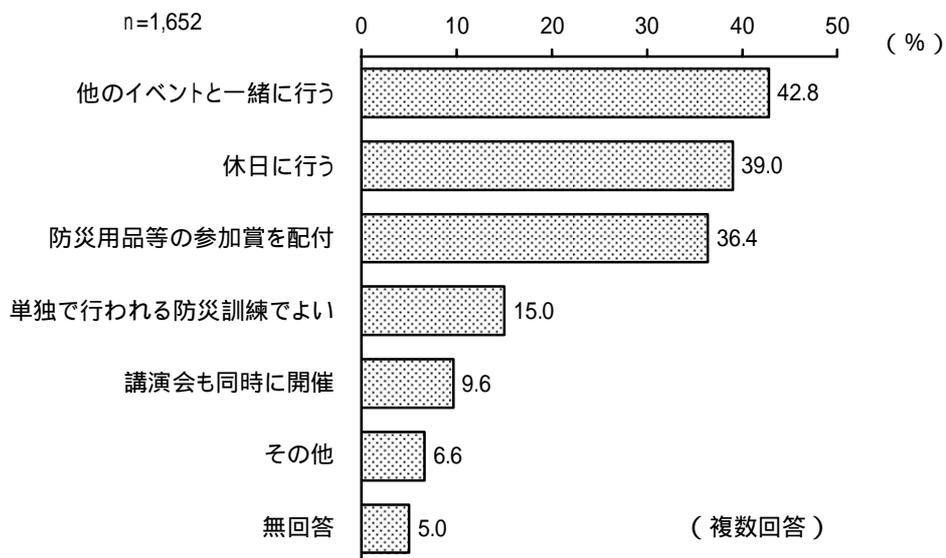
(図4 - 13 - 3)

4 - 14 防災訓練への参加率を上げるための方法

「他のイベントと一緒に進む」が4割強

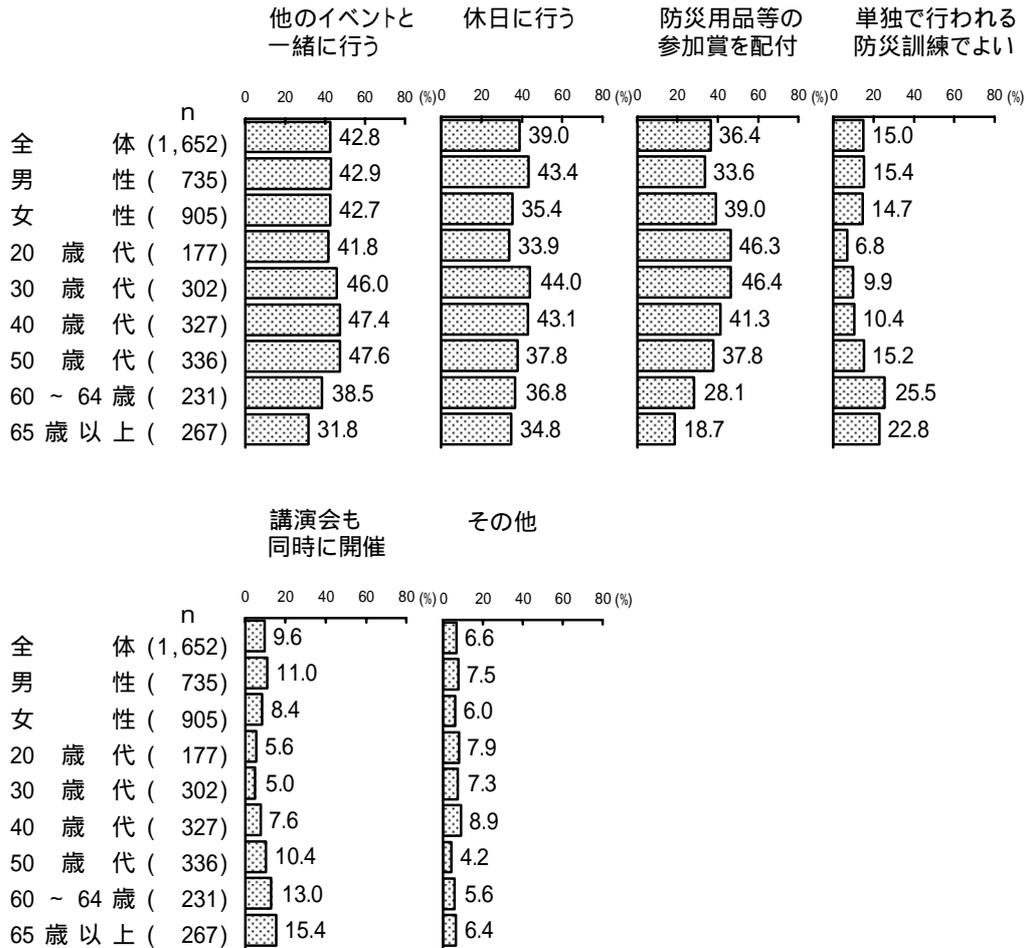
問12 地域で行われる防災訓練がどのような形で行われれば、多くの方が参加できると思いますか。(はいいくつでも)

図4 - 14 - 1



地域で行われる防災訓練がどのような形で行われれば、多くの方が参加できると思うかを聞いたところ、「他のイベントと一緒に進む」が4割強(42.8%)と最も高く、ついで「休日に行く」(39.0%)、「防災用品等の参加賞を配付」(36.4%)と続いている。(図4 - 14 - 1)

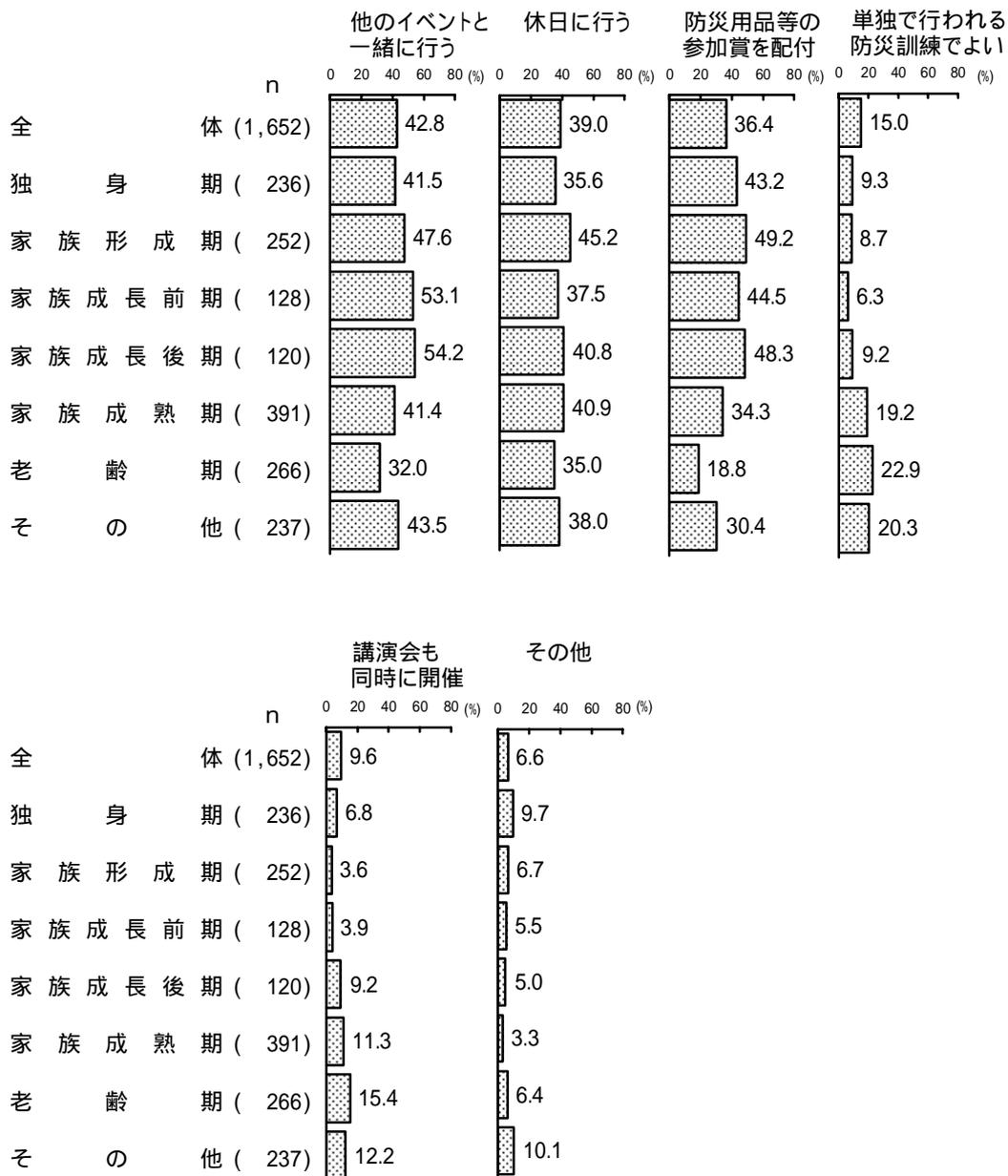
図 4 - 14 - 2 防災訓練への参加率を上げるための方法 - 性別・年齢別



性別にみると、「休日に参加する」は8.0ポイント男性のほうが高くなっている。逆に「防災用品等の参加賞を配付」は5.4ポイント女性のほうが高くなっている。

年齢別にみると、「参加するイベントと一緒に参加する」は20歳代から50歳代で4割を超え高くなっている。また、「防災用品等の参加賞を配付」はおおむね年代が上がるにつれて割合が高く、20歳代(46.3%)、30歳代(46.4%)で5割弱と高くなっている。(図4-14-2)

図4 - 14 - 3 防災訓練への参加率を上げるための方法 - ライフステージ別



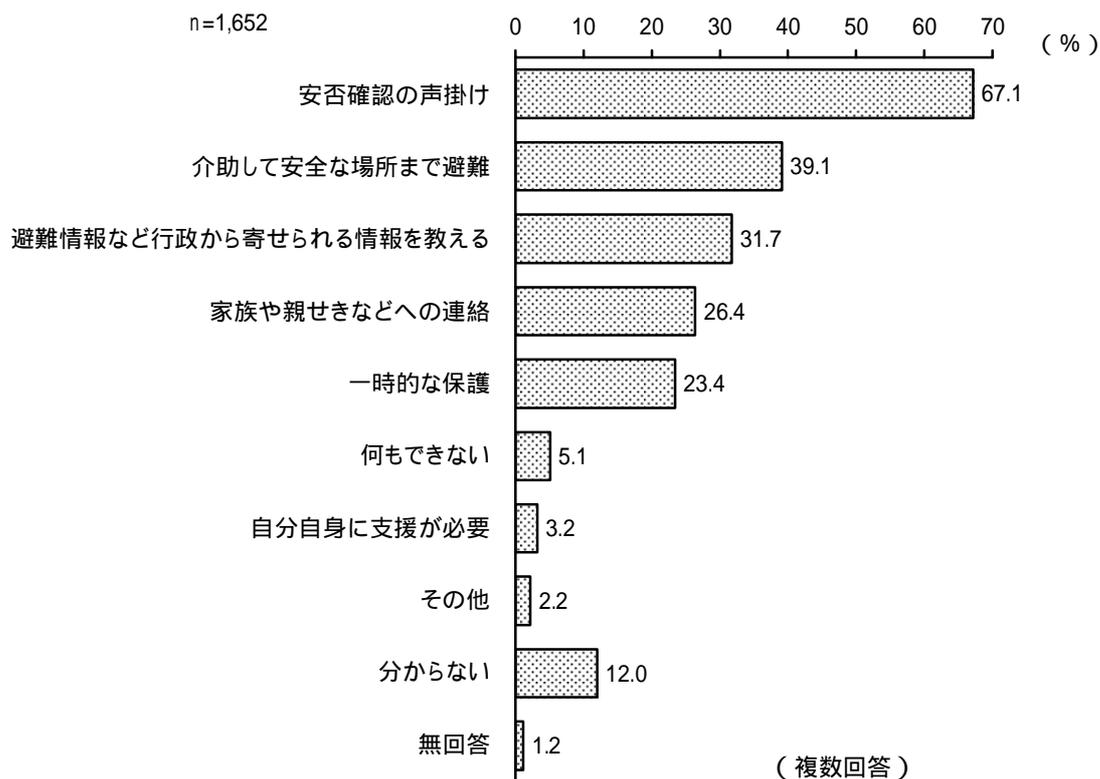
ライフステージ別にみると、「他のイベントと一緒に参加する」は家族成長後期で5割台半ば（54.2%）と高くなっている。また、「休日に参加する」は家族形成期が4割台半ば（45.2%）と高くなっている。（図4 - 14 - 3）

4 - 15 災害時要援護者への手助け

「安否確認の声掛け」が7割弱

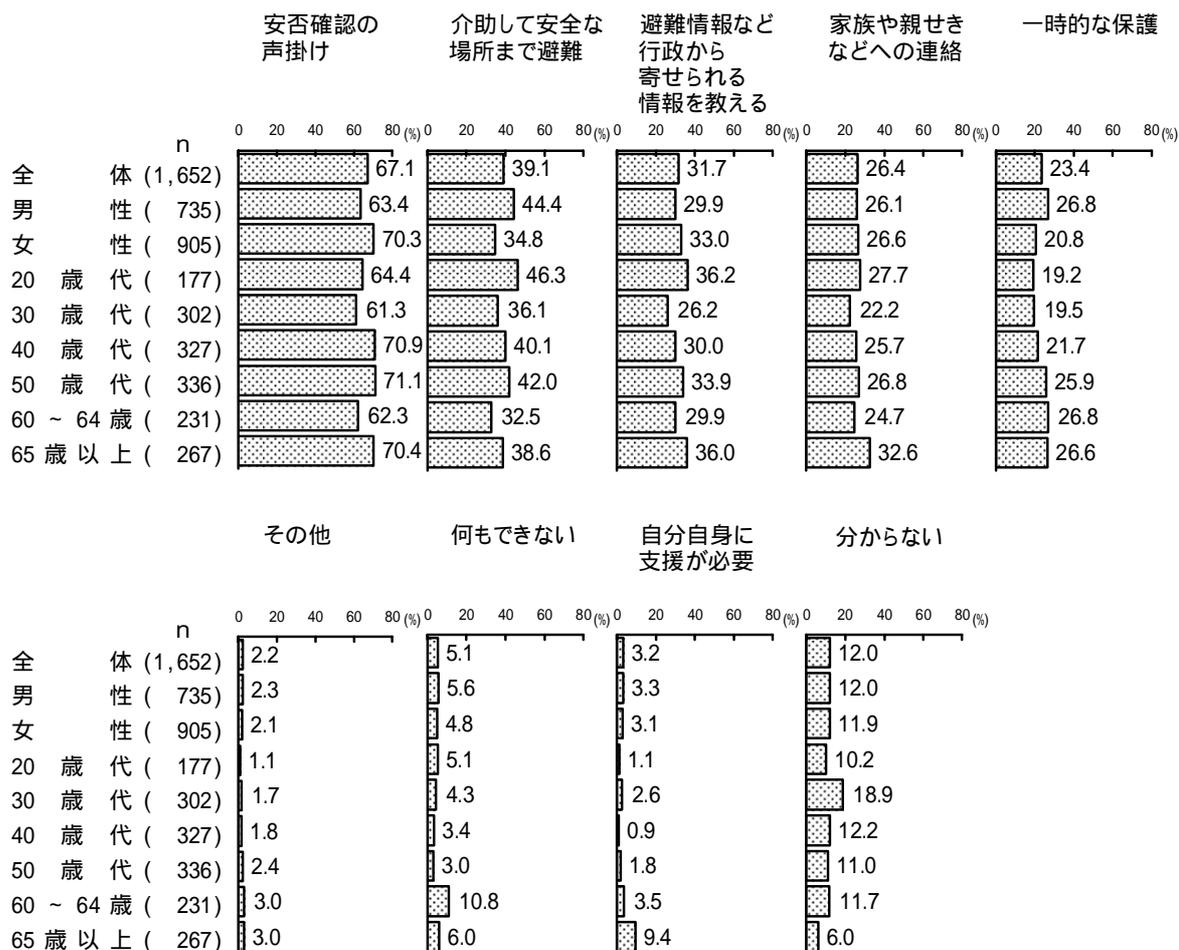
問13 高齢者や体に障害を持っている方など災害時に他の人の支援が必要な方を「災害時要援護者」といいます。災害が発生したとき、あなたは近所にいる災害時要援護者に対してどのような手助けができると思いますか。(はいいくつでも)

図4 - 15 - 1



災害が発生したとき、近所にいる災害時要援護者に対してどのような手助けができると思うかを聞いたところ、「安否確認の声掛け」が7割弱(67.1%)と最も高く、ついで「介助して安全な場所まで避難」(39.1%)、「避難情報など行政から寄せられる情報を教える」(31.7%)、「家族や親せきなどへの連絡」(26.4%)と続いている。(図4 - 15 - 1)

図4 - 15 - 2 災害時要援護者への手助け - 性別・年齢別



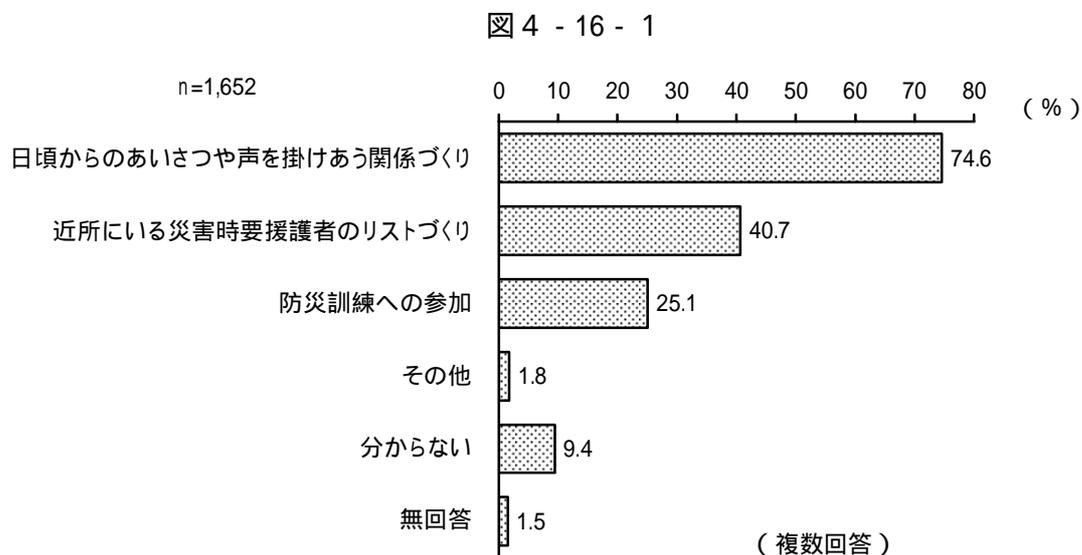
性別にみると、「介助して安全な場所まで避難」は9.6ポイント、「一時的な保護」は6.0ポイント、それぞれ男性のほうが高くなっている。逆に「安否確認の声掛け」は6.9ポイント女性のほうが高くなっている。

年齢別にみると、「安否確認の声掛け」はすべての年代で6割以上と高く、特に50歳代では7割強（71.1%）と高くなっている。また、「介助して安全な場所まで避難」は20歳代で5割弱（46.3%）と高くなっている。（図4 - 15 - 2）

4 - 16 災害時要援護者への支援を行うために必要なこと

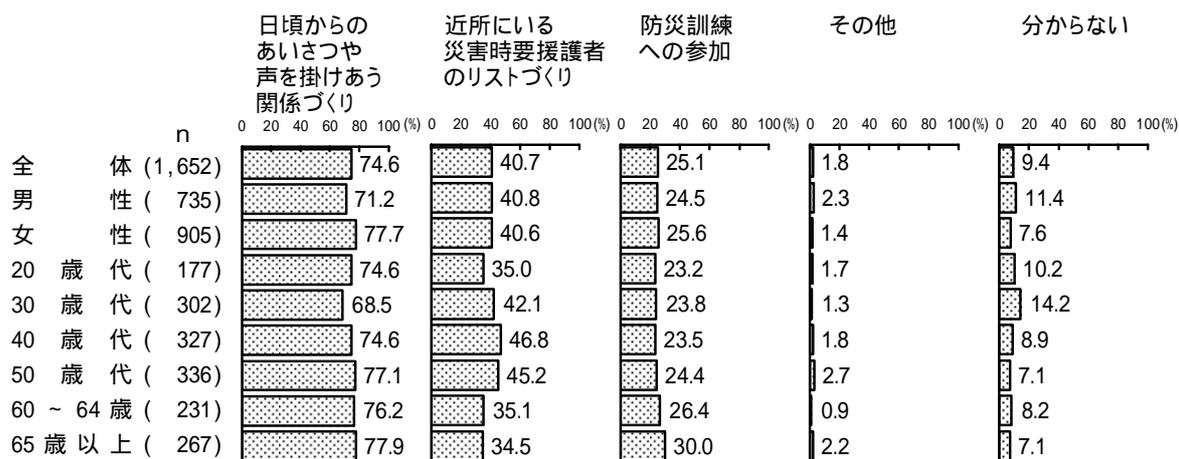
「日頃からのあいさつや声を掛けあう関係づくり」が7割台半ば

問14 災害時要援護者への支援を行うためには、日頃からどのようなことをする必要があるとお考えですか。(はいいくつでも)



災害時要援護者への支援を行うためには、日頃からどのようなことをする必要があるかを聞いたところ、「日頃からのあいさつや声を掛けあう関係づくり」が7割台半ば(74.6%)と最も高く、ついで「近所にいる災害時要援護者のリストづくり」(40.7%)、「防災訓練への参加」(25.1%)と続いている。(図4 - 16 - 1)

図4 - 16 - 2 災害時要援護者への支援を行うために必要なこと - 性別・年齢別



性別にみると、「日頃からのあいさつや声を掛けあう関係づくり」は女性のほうが6.5ポイント高くなっている。

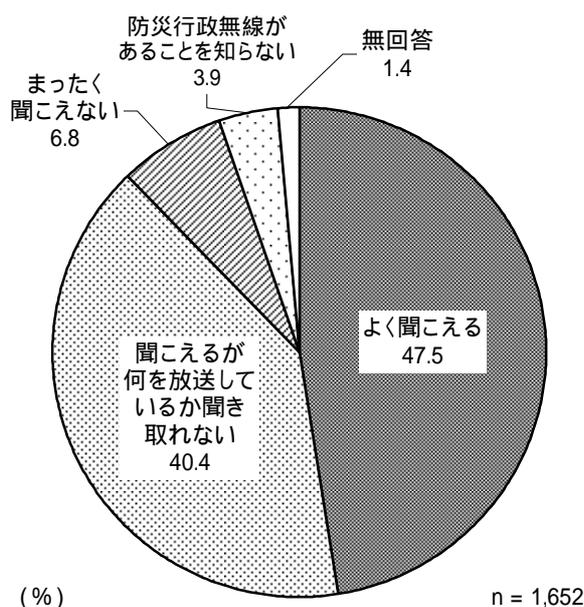
年齢別にみると、「日頃からのあいさつや声を掛けあう関係づくり」はすべての年代で6割以上と高く、50歳代以上の年代で8割弱と高くなっている。また、「近所にいる災害時要援護者のリストづくり」は40歳代で5割弱（46.8%）と高くなっている。（図4 - 16 - 2）

4 - 17 防災行政無線による放送が聞こえているか

「よく聞こえる」が5割弱

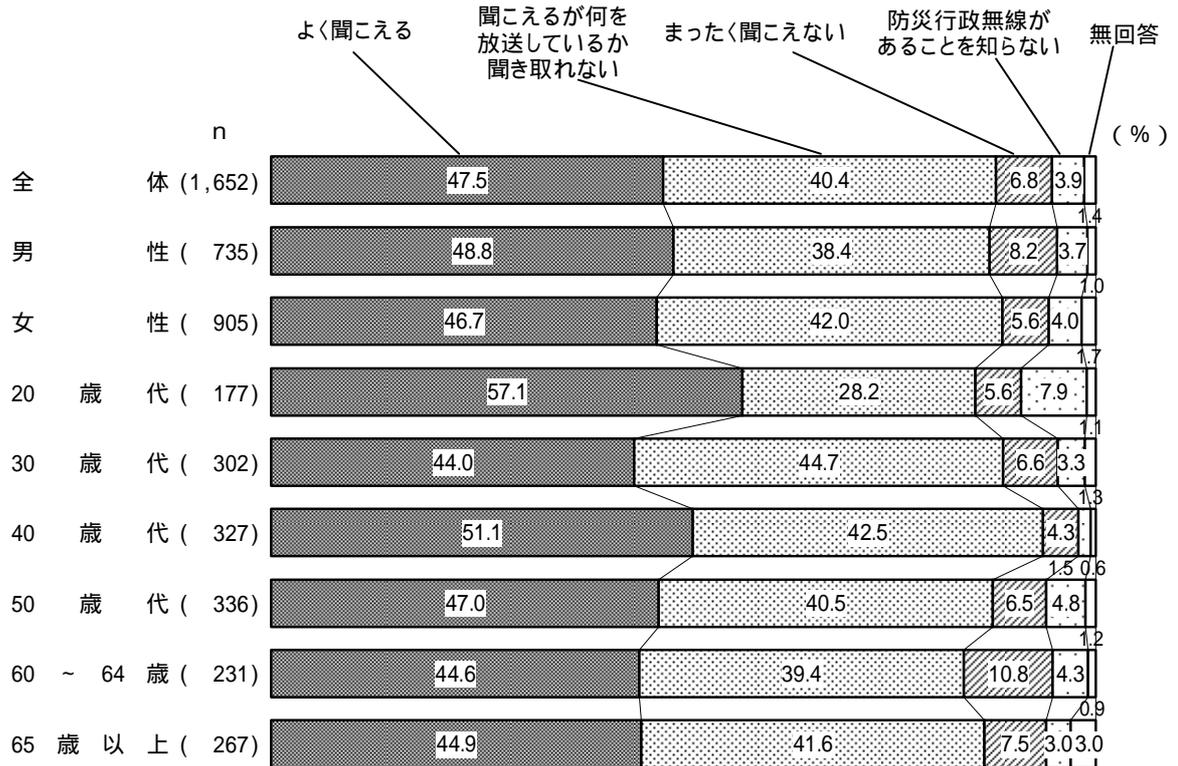
問15 市では、市民の皆様への情報伝達手段の一つとして防災行政無線を使っています。平時には、市内各所に設置した防災行政無線の放送設備（スピーカー）から毎日午後5時1分（11月～2月は午後4時）に「夕焼け小焼け」のチャイムを放送しています。あなたが住んでいる場所では防災行政無線による放送が聞こえていますか。（ は1つだけ）

図4 - 17 - 1



住んでいる場所では防災行政無線による放送が聞こえているかを聞いたところ、「よく聞こえる」が5割弱（47.5%）と最も高く、ついで「聞こえるが何を放送しているか聞き取れない」（40.4%）、「まったく聞こえない」（6.8%）、「防災行政無線があることを知らない」（3.9%）となっている。（図4 - 17 - 1）

図4 - 17 - 2 防災行政無線による放送が聞こえているか - 性別・年齢別

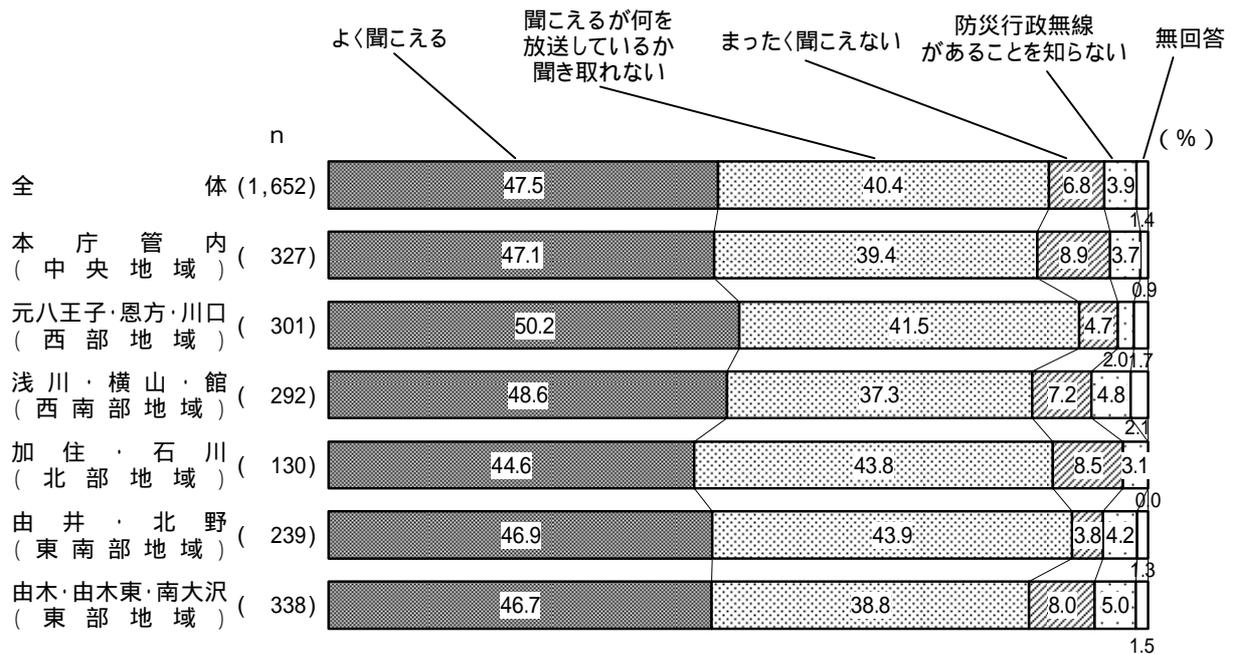


性別にみると、「聞こえるが何を放送しているか聞き取れない」は3.6ポイント女性のほうが高くなっている。

年齢別にみると、「よく聞こえる」は20歳代で6割弱（57.1%）と高くなっている。また、「防災行政無線があることを知らない」は20歳代で1割弱（7.9%）と高くなっている。

(図4 - 17 - 2)

図4 - 17 - 3 防災行政無線による放送が聞こえているか - 居住地域別



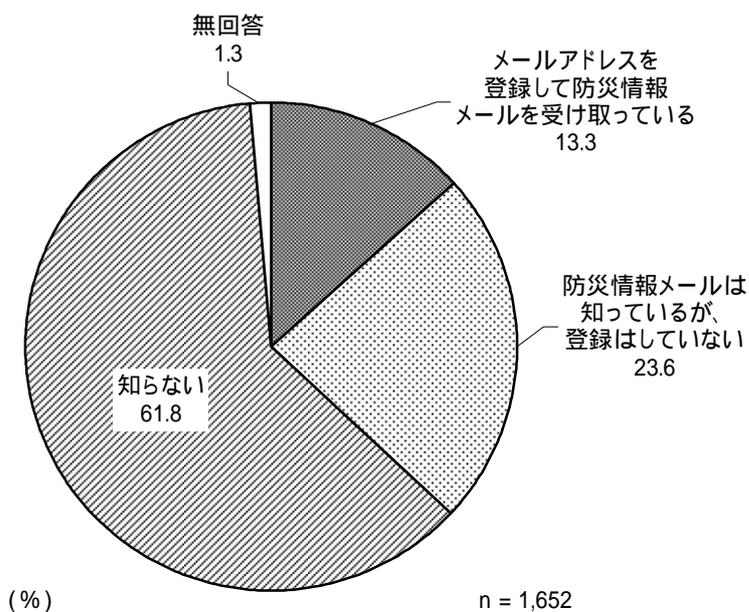
居住地域別にみると、「よく聞こえる」は元八王子・恩方・川口（西部地域）でほぼ5割（50.2%）と高くなっている。(図4 - 17 - 3)

4 - 18 防災情報メールの認知度

「知らない」が6割強

問16 市では、気象に関する情報や防災イベント、災害情報など様々な防災に関する情報を携帯電話やパソコンにお知らせするメール配信サービス（防災情報メール）を行っています。あなたは、防災情報メールをご存じですか。（ は1つだけ）

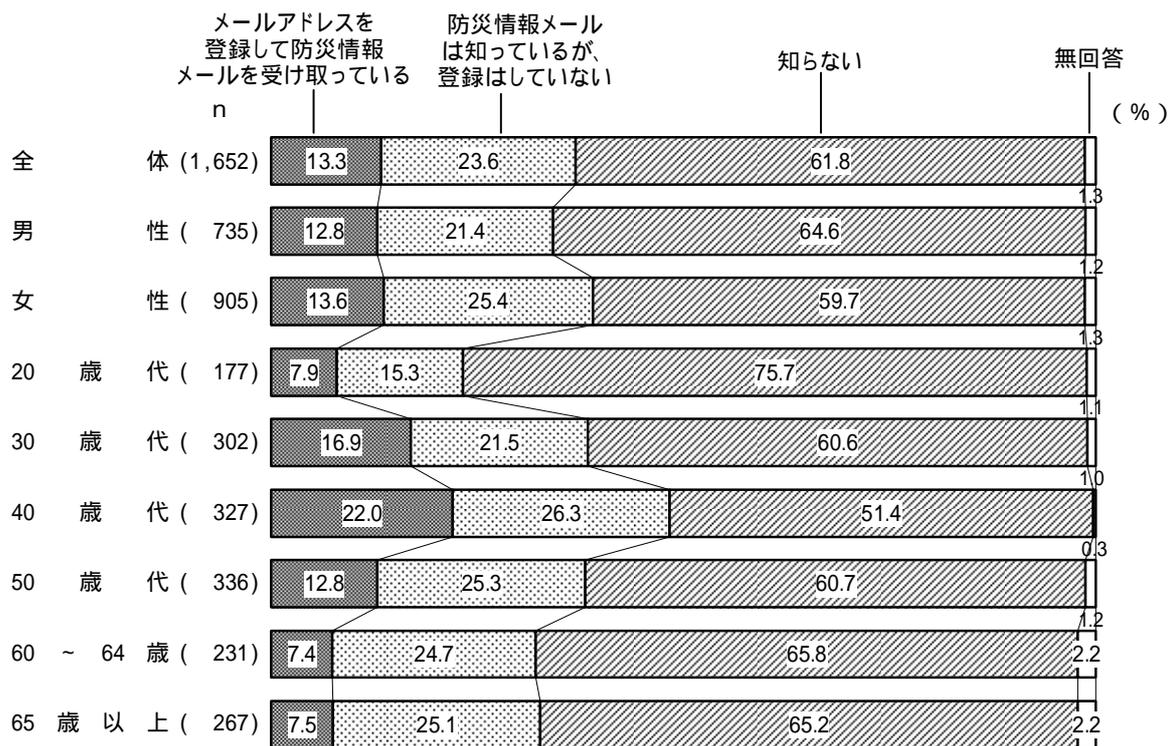
図4 - 18 - 1



防災情報メールを知っているか聞いたところ、「防災情報メールは知っているが、登録はしていない」が2割強（23.6%）、「メールアドレスを登録して防災情報メールを受け取っている」が1割強（13.3%）となっている。一方、「知らない」は6割強（61.8%）と最も高くなっている。

（図4 - 18 - 1）

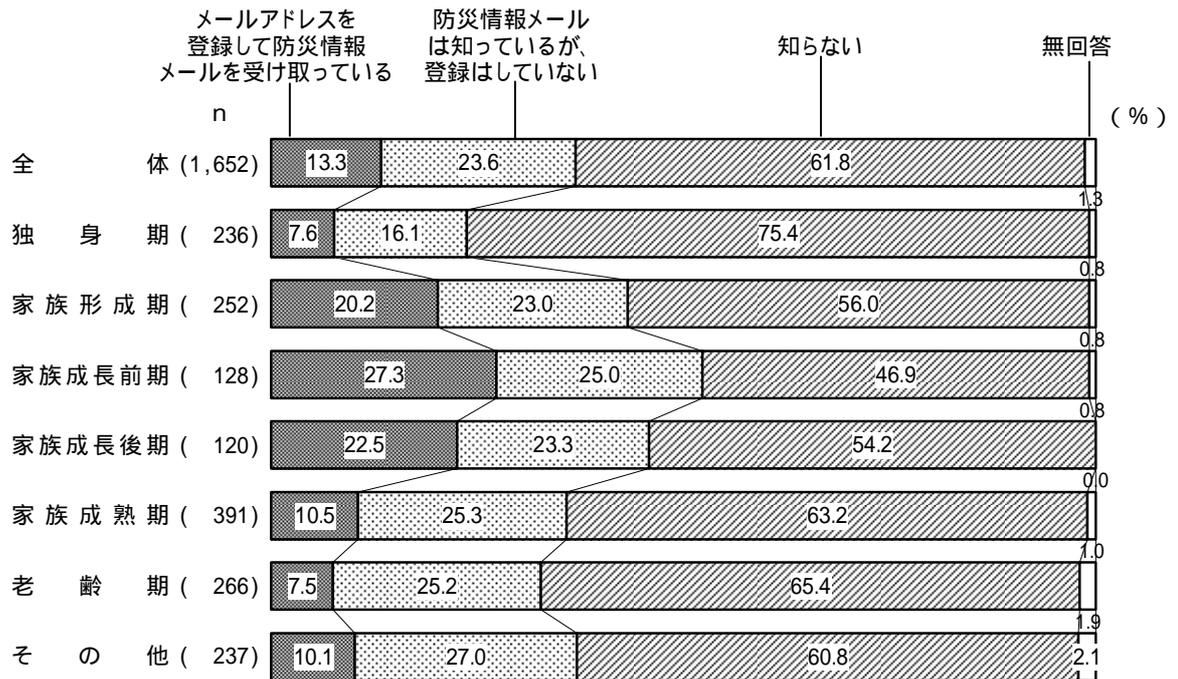
図4 - 18 - 2 防災情報メールの認知度 - 性別・年齢別



性別にみると、「知らない」は男性のほうが4.9ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「メールアドレスを登録して防災情報メールを受け取っている」は40歳代で2割強（22.0%）と高くなっている。一方、「知らない」は20歳代で7割台半ば（75.7%）と高くなっている。（図4 - 18 - 2）

図4 - 18 - 3 防災情報メールの認知度 - ライフステージ別



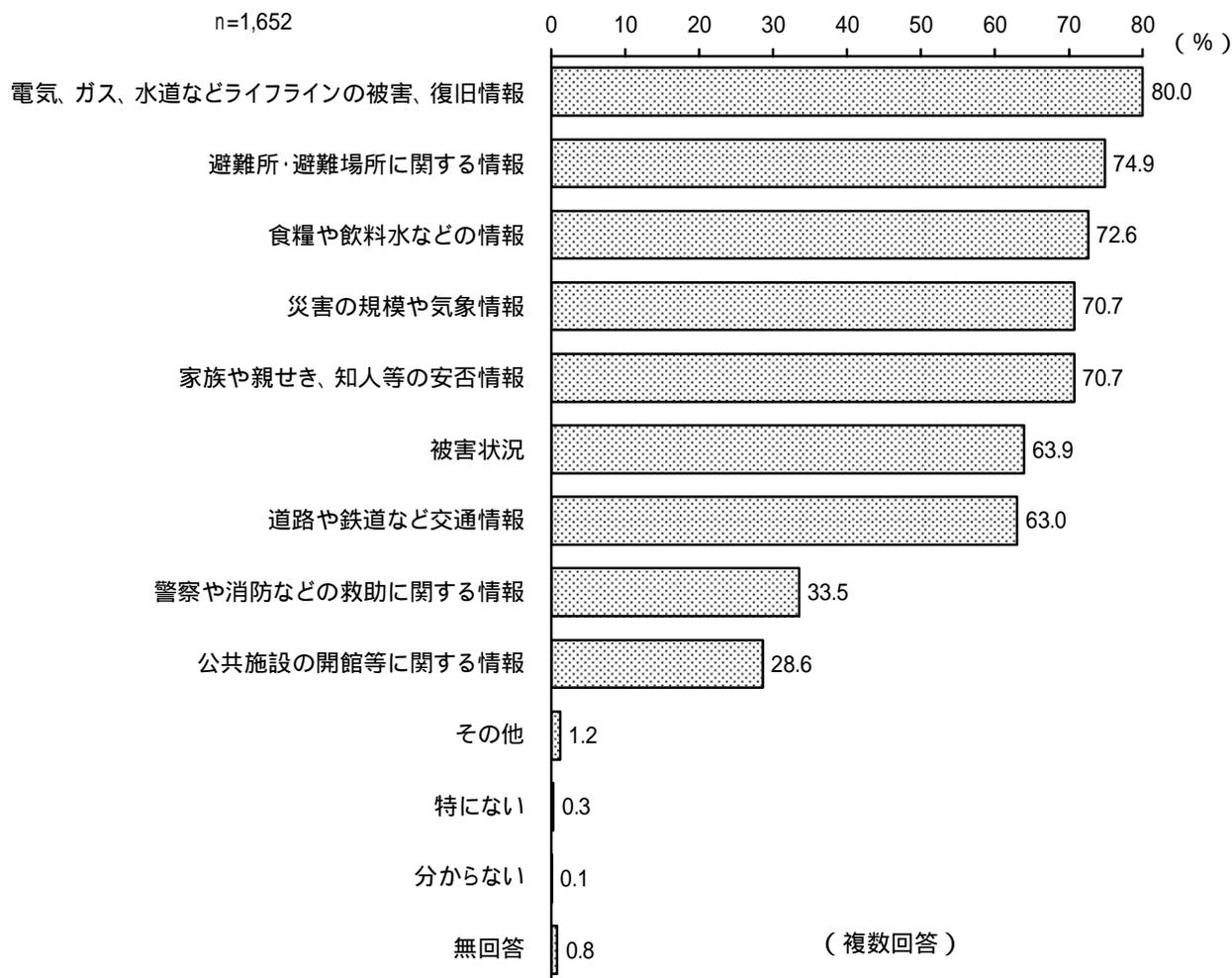
ライフステージ別にみると、「メールアドレスを登録して防災情報メールを受け取っている」は家族成長前期で3割弱（27.3%）と高くなっている。一方、「知らない」は独身期で7割台半ば（75.4%）と高くなっている。（図4 - 18 - 3）

4 - 19 災害時に知りたい情報

「電気、ガス、水道などライフラインの被害、復旧情報」が8割

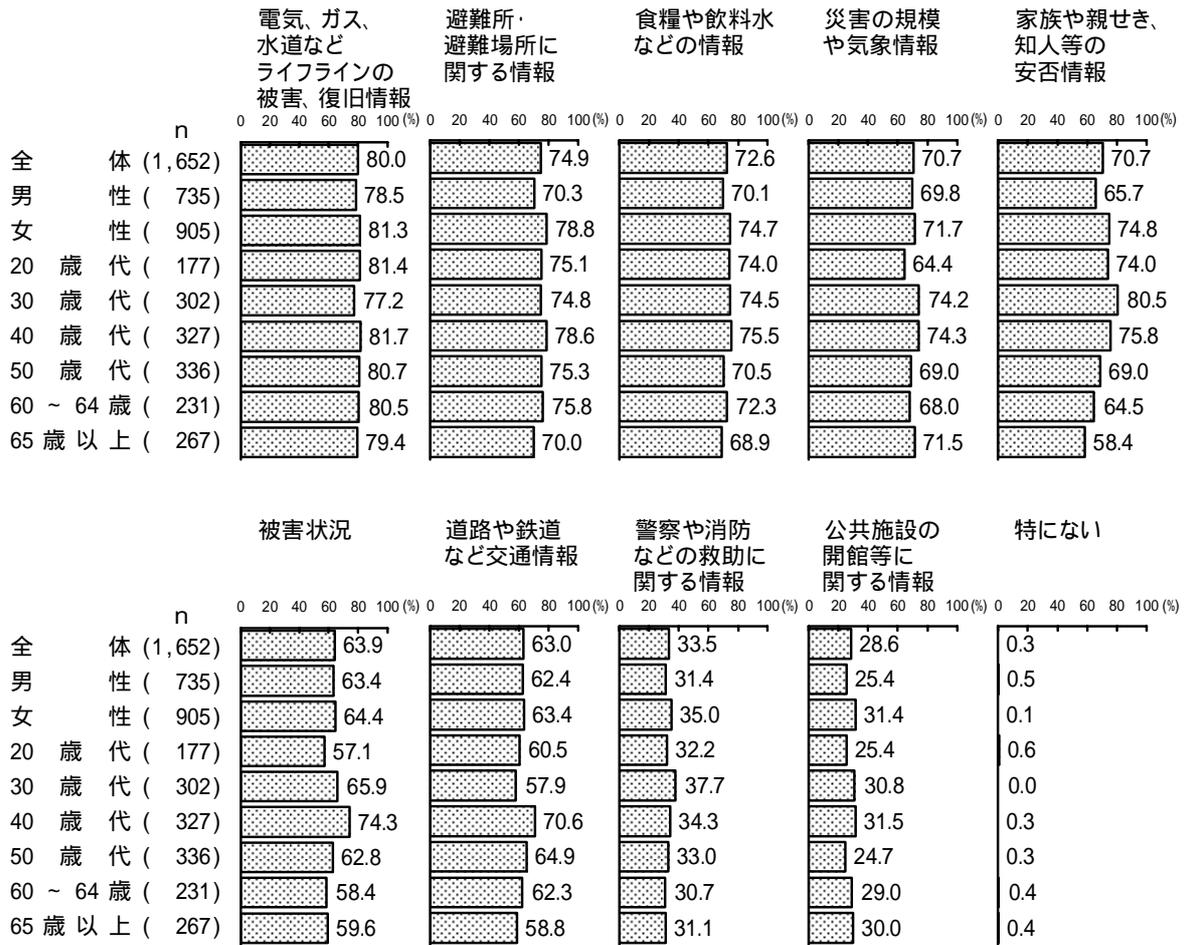
問17 大規模な災害が発生したとき、特に知りたいと思う情報は何か。(○はいくつでも)

図4 - 19 - 1



大規模な災害が発生したとき、特に知りたいと思う情報は何かを聞いたところ、「電気、ガス、水道などライフラインの被害、復旧情報」が8割(80.0%)と最も高く、ついで「避難所・避難場所に関する情報」(74.9%)、「食糧や飲料水などの情報」(72.6%)、「災害の規模や気象情報」、「家族や親せき、知人等の安否情報」(ともに70.7%)と続いている。(図4 - 19 - 1)

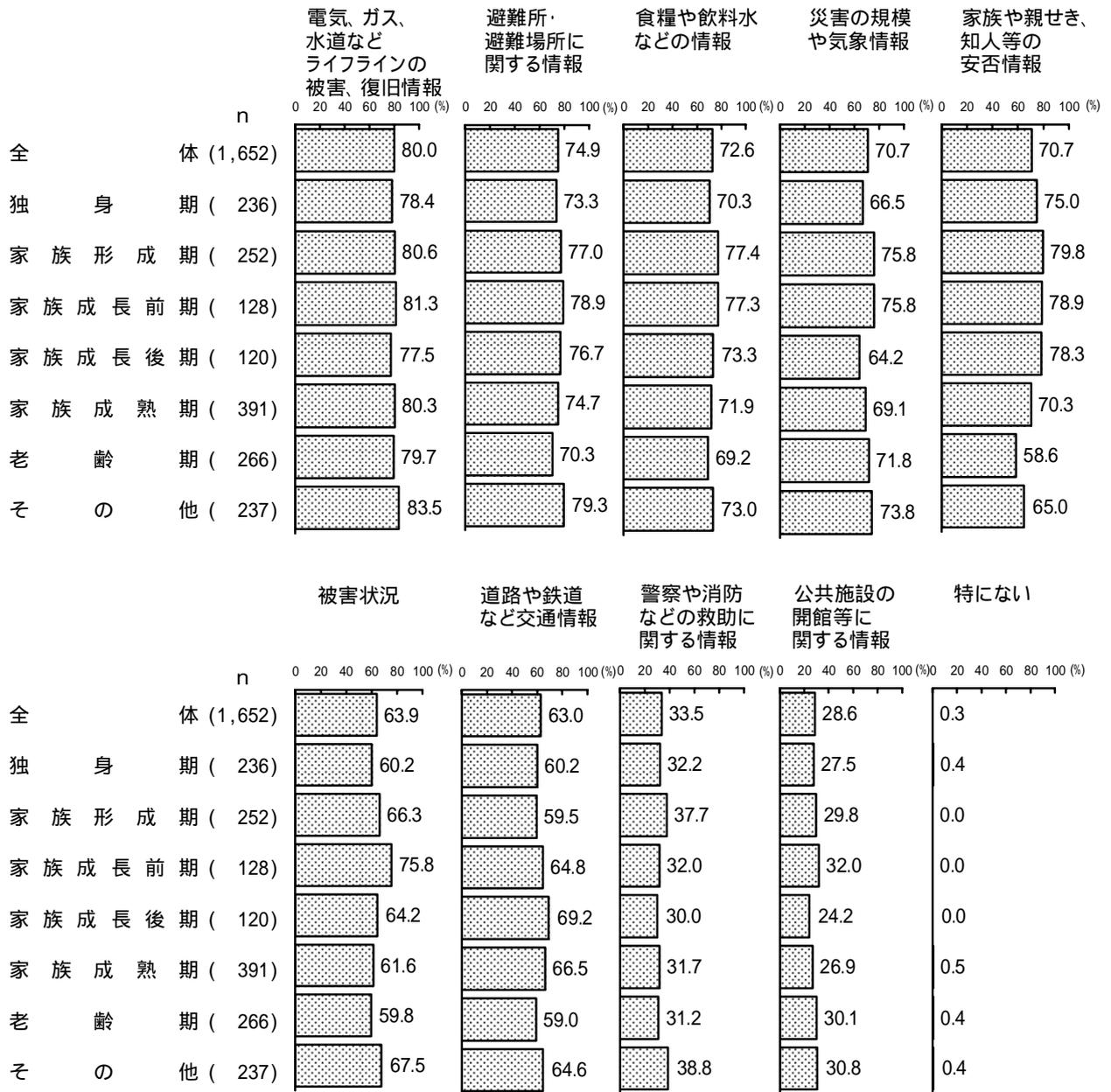
図4 - 19 - 2 災害時に知りたい情報 - 性別・年齢別（10項目）



性別にみると、すべての項目で女性のほうが高く、特に「家族や親せき、知人等の安否情報」は9.1ポイント、「避難所・避難場所に関する情報」は8.5ポイント、それぞれ高くなっている。

年齢別にみると、「電気、ガス、水道などライフラインの被害、復旧情報」はすべての年代で8割前後と高く、20歳代（81.4%）、40歳代（81.7%）で8割強と高くなっている。また、「避難所・避難場所に関する情報」はすべての年代で7割台と高く、特に40歳代で8割弱（78.6%）と高くなっている。（図4 - 19 - 2）

図4 - 19 - 3 災害時に知りたい情報 - ライフステージ別 (10項目)



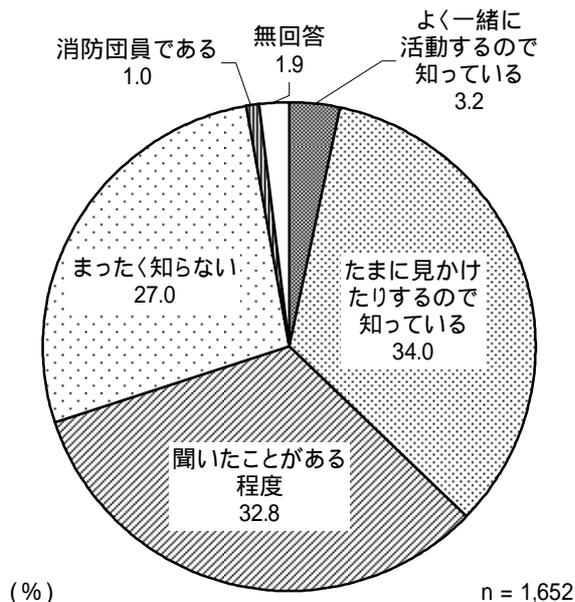
ライフステージ別にみると、「避難所・避難場所に関する情報」は家族形成期（77.0%）、家族成長前期（78.9%）、家族成長後期（76.7%）で8割弱と高くなっている。また、「被害状況」は家族成長前期で7割台半ば（75.8%）と高くなっている。（図4 - 19 - 3）

4 - 20 八王子消防団の認知度

『知っている』が7割

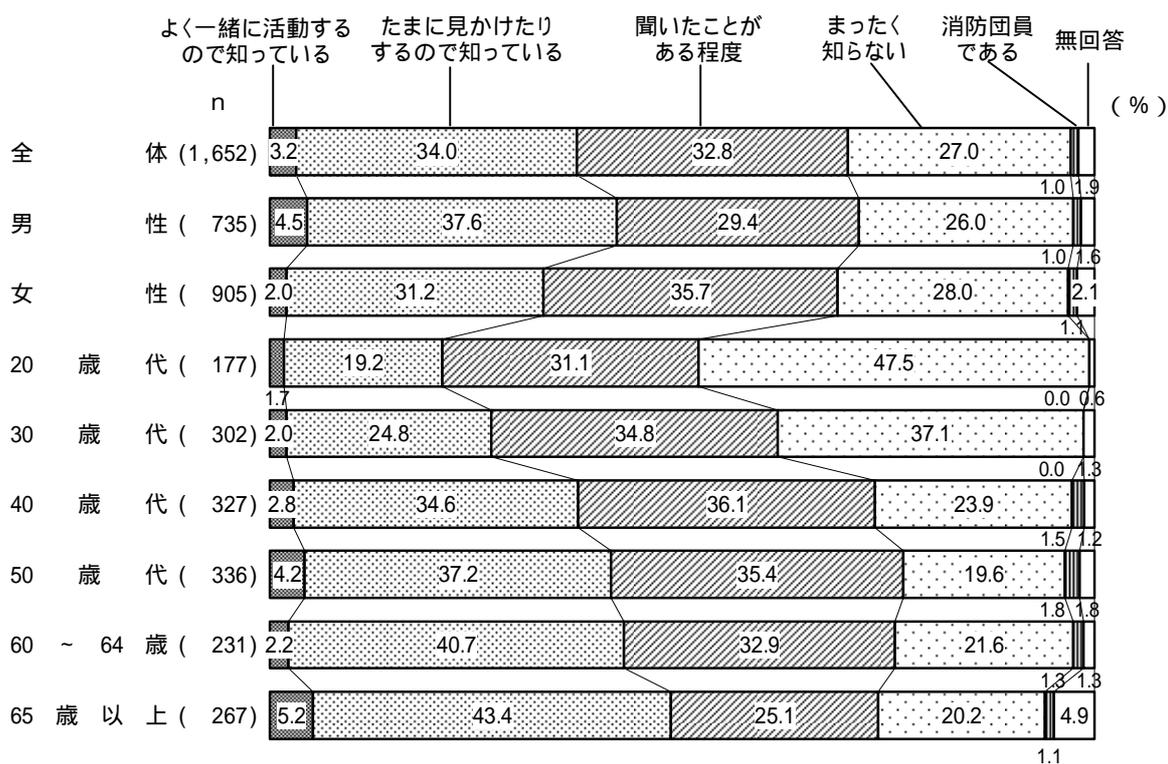
問18 各市町村には、消防署とは別に消防団が組織されています。消防団員は、本業（生業）を持ちながらも、「自らの地域は自らで守る」という郷土愛護の精神に基づき消防・防災活動を行っており、本市では約1,500の方が消防署等と連携して地域を守っています。あなたは、八王子市消防団のことをご存じでしたか。（ は1つだけ）

図 4 - 20 - 1



八王子市消防団を知っているか聞いたところ、「たまたに見かけたりするので知っている」が3割台半ば（34.0%）と最も高く、「聞いたことがある程度」（32.8%）と「よく一緒に活動するので知っている」（3.2%）を合わせた『知っている』が7割（70.0%）となっている。一方、「まったく知らない」が3割弱（27.0%）、「消防団員である」（1.0%）となっている。（図4 - 20 - 1）

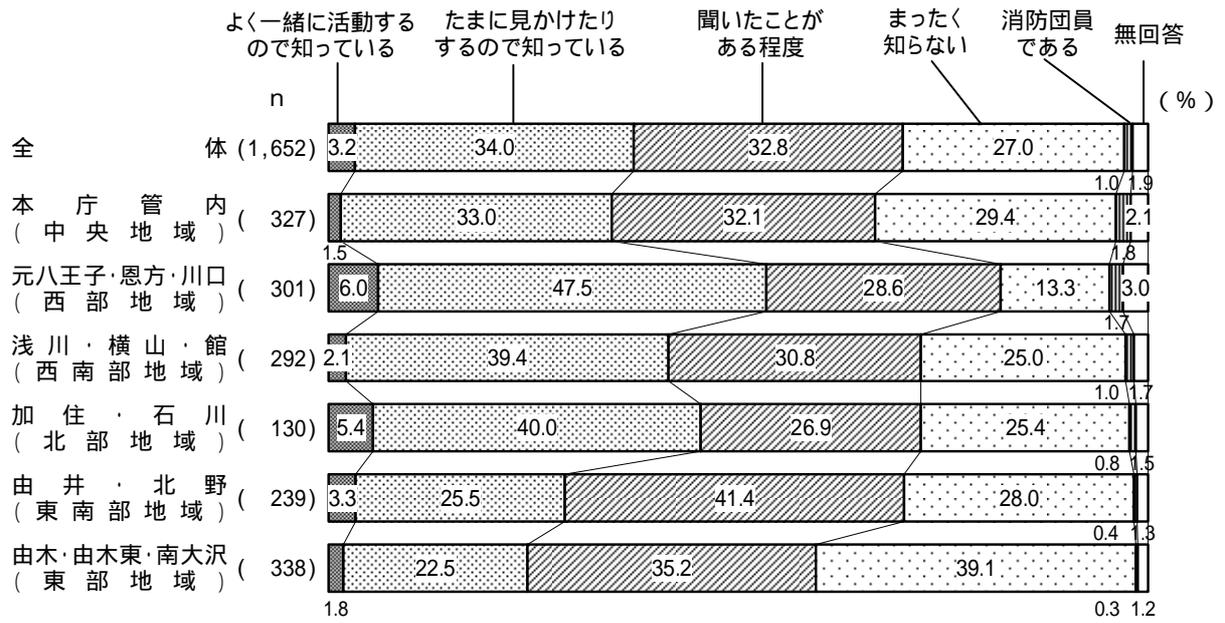
図4 - 20 - 2 八王子消防団の認知度 - 性別・年齢別



性別にみると、「たまに見かけたりするので知っている」は男性のほうが6.4ポイント高くなっている。逆に「聞いたことがある程度」は女性のほうが6.3ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「たまに見かけたりするので知っている」は年代が上がるにつれて割合が高く、特に65歳以上では4割強（43.4%）と高くなっている。一方、「まったく知らない」は20歳代で5割弱（47.5%）と高くなっている。（図4 - 20 - 2）

図4 - 20 - 3 八王子消防団の認知度 - 居住地域別



居住地域別にみると、「たまに見かけたりするので知っている」は元八王子・恩方・川口（西部地域）で5割弱（47.5%）と高くなっている。一方、「まったく知らない」は由木・由木東・南大沢（東部地域）でほぼ4割（39.1%）と高くなっている。（図4 - 20 - 3）

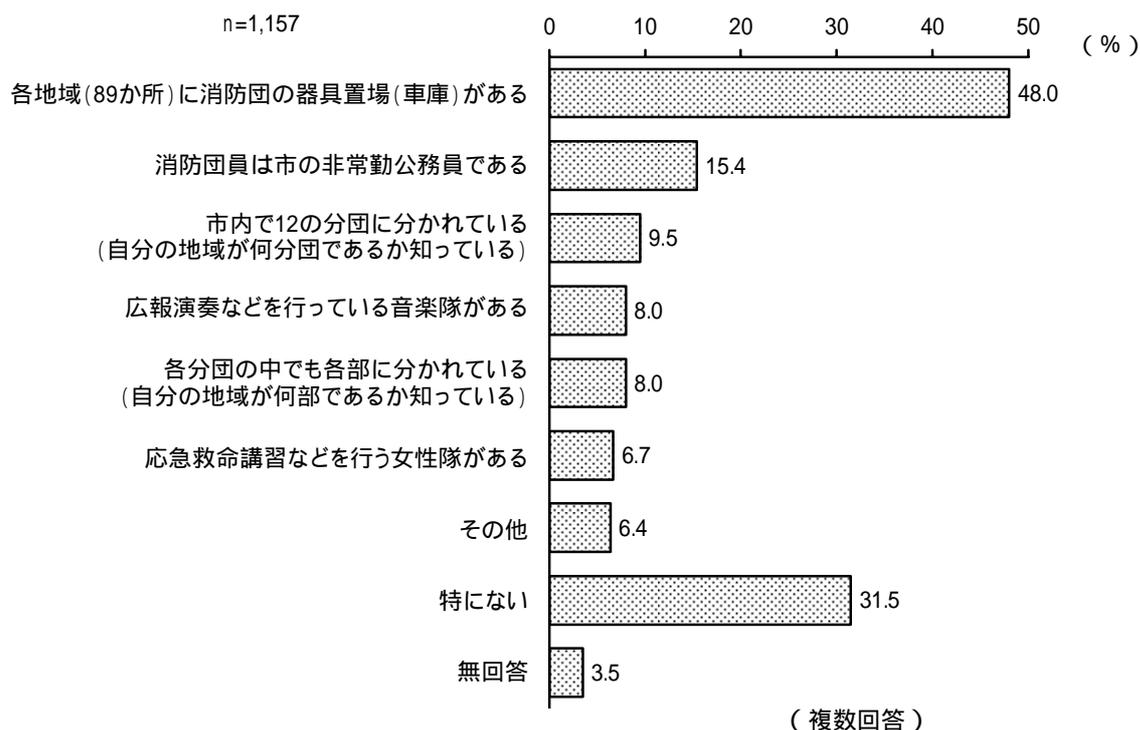
4 - 21 消防団のことや活動で知っていること

【消防団のこと】「各地域(89か所)に消防団の器具置場(車庫)がある」が5割弱

(問18で「よく一緒に活動するので知っている」「たまに見かけたりするので知っている」「聞いたことがある程度」とお答えの方に)

問18 - 1 あなたが消防団のことや活動で知っていること(見かける場面)はどのようなことですか。(はいいくつでも)

図4 - 21 - 1 【消防団のこと】

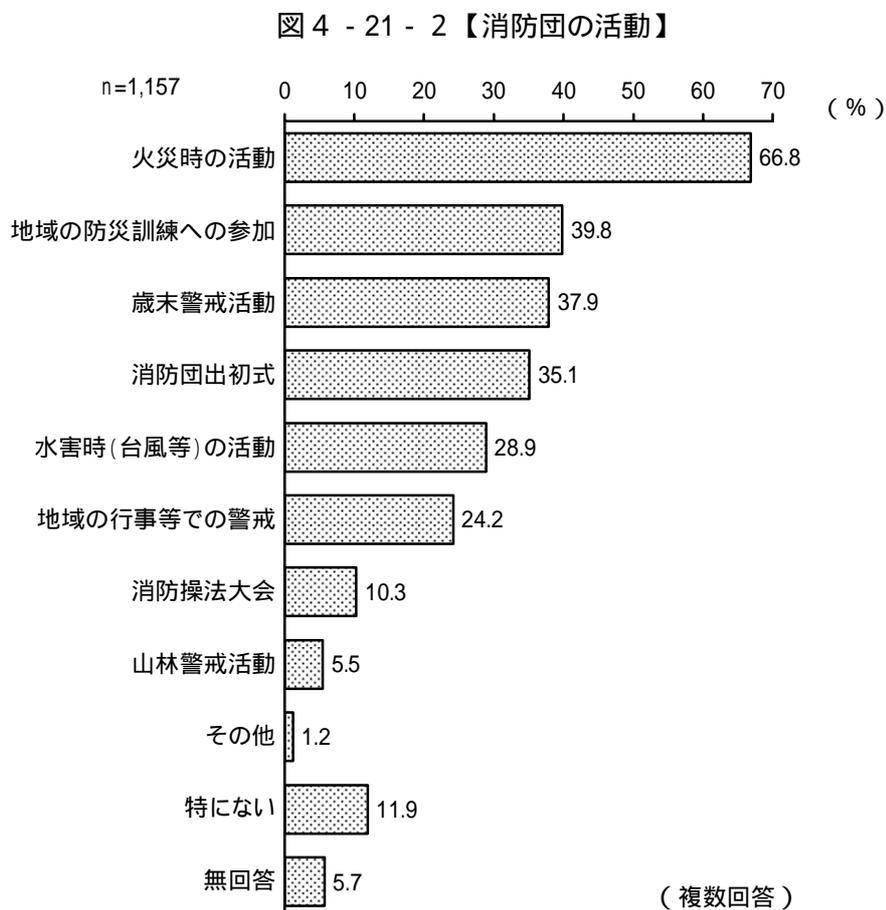


八王子消防団の認知度で、「よく一緒に活動するので知っている」「たまに見かけたりするので知っている」「聞いたことがある程度」と答えた人(1,157人)に、消防団のことで知っていること(見かける場面)を聞いたところ、「各地域(89か所)に消防団の器具置場(車庫)がある」が5割弱(48.0%)と最も高く、ついで「消防団員は市の非常勤公務員である」(15.4%)、「市内で12の分団に分かれている(自分の地域が何分団であるか知っている)」(9.5%)と続いている。一方、「特にない」は3割強(31.5%)となっている。(図4 - 21 - 1)

【消防団の活動】「火災時の活動」が7割弱

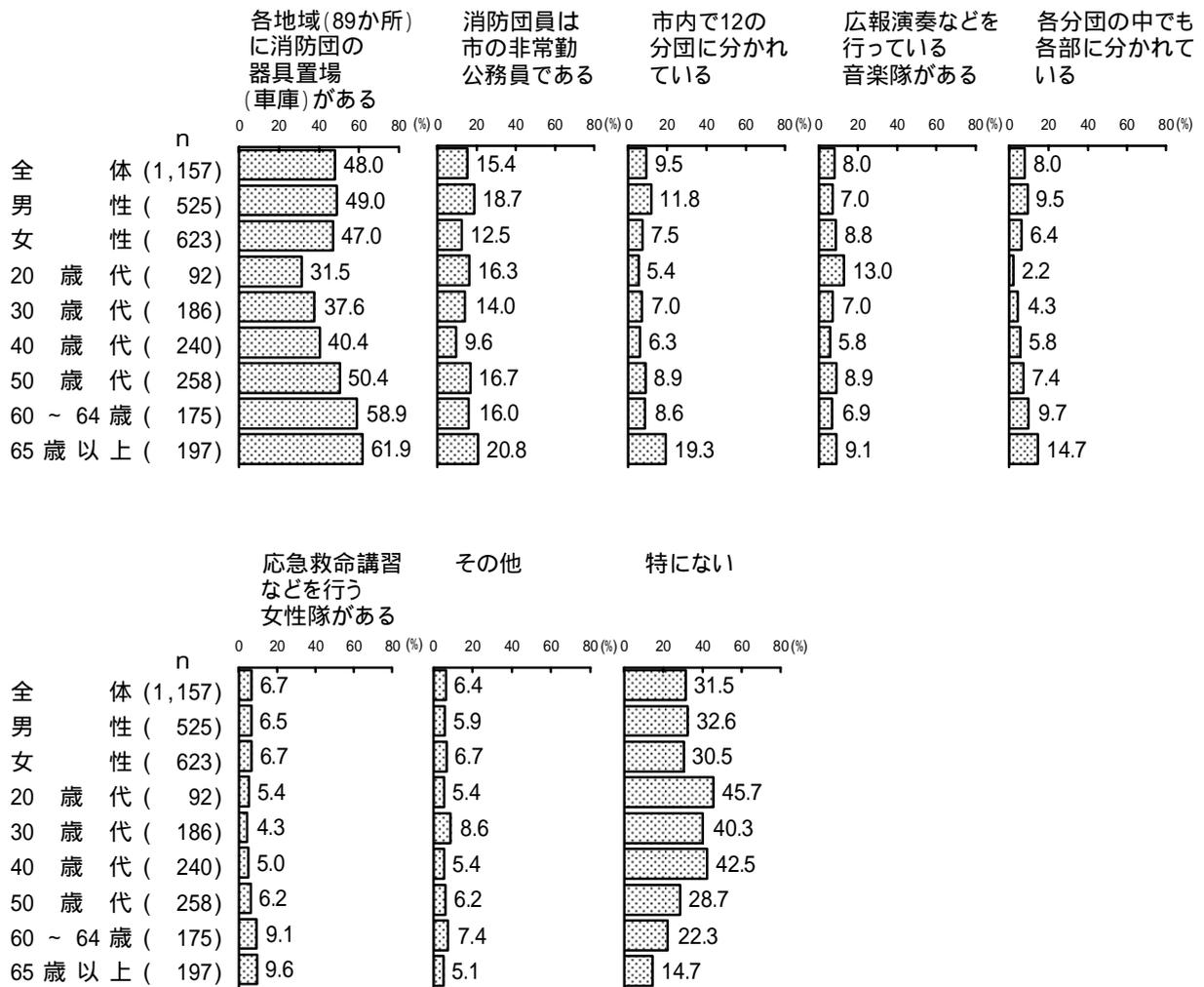
(問18で「よく一緒に活動するので知っている」「たまに見かけたりするので知っている」「聞いたことがある程度」とお答えの方に)

問18 - 1 あなたが消防団のことや活動で知っていること(見かける場面)はどのようなことですか。(はいくつでも)



八王子消防団の認知度で、「よく一緒に活動するので知っている」「たまに見かけたりするので知っている」「聞いたことがある程度」と答えた人(1,157人)に、消防団の活動で知っていること(見かける場面)を聞いたところ、「火災時の活動」が7割弱(66.8%)と最も高く、ついで「地域の防災訓練への参加」(39.8%)、「歳末警戒活動」(37.9%)、「消防団出初式」(35.1%)と続いている。(図4 - 21 - 2)

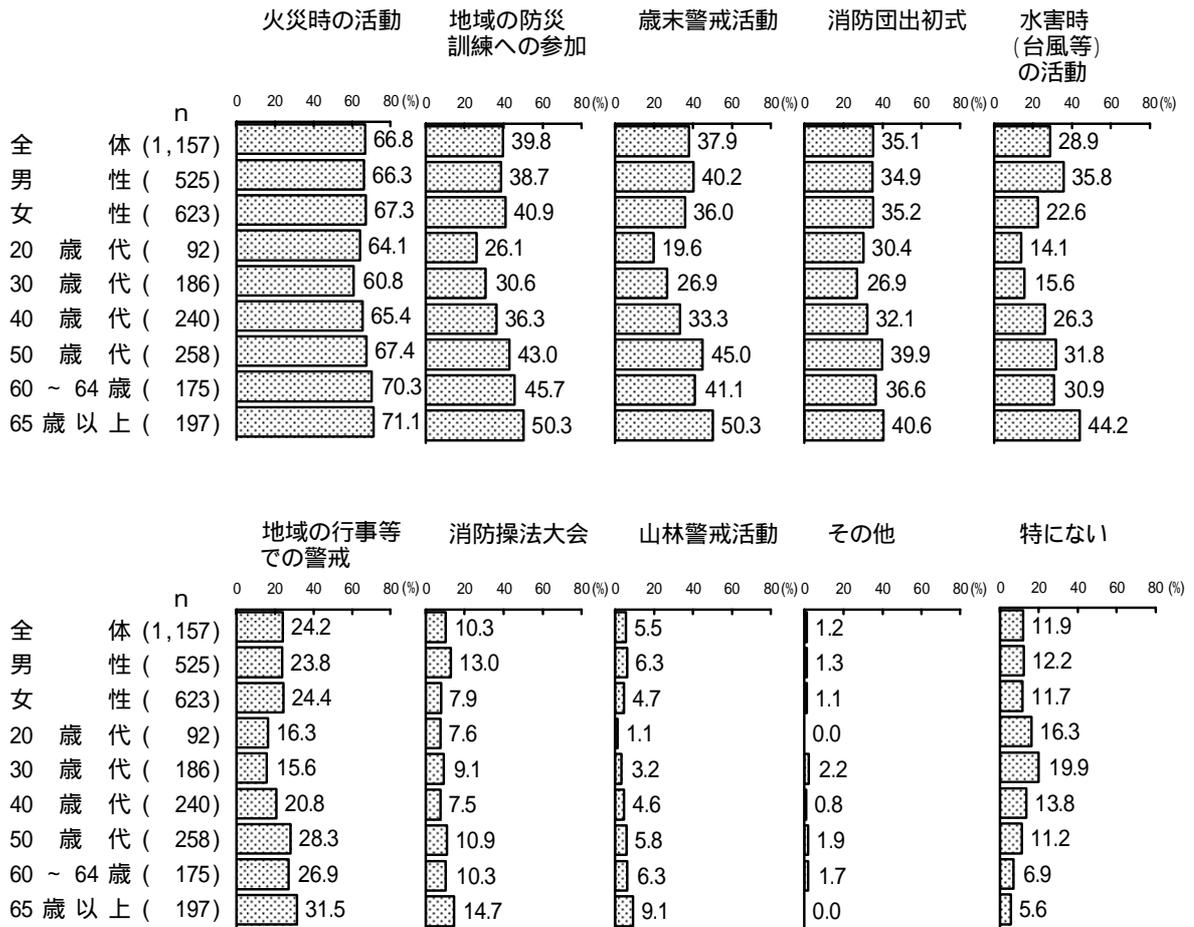
図4 - 21 - 3 消防団のことや活動で知っていること - 性別・年齢別【消防団のこと】



消防団のことを性別で見ると「消防団員は市の非常勤公務員である」は6.2ポイント、「市内で12の分団に分かれている（自分の地域が何分団であるか知っている）」は4.3ポイント、それぞれ男性のほうが高くなっている。

消防団のことを年齢別にみると、「各地域（89か所）に消防団の器具置場（車庫）がある」は年代が上がるにつれて割合が高く、特に65歳以上で6割強（61.9%）と高くなっている。一方、「特にない」は20歳代で4割台半ば（45.7%）と高くなっている。（図4 - 21 - 3）

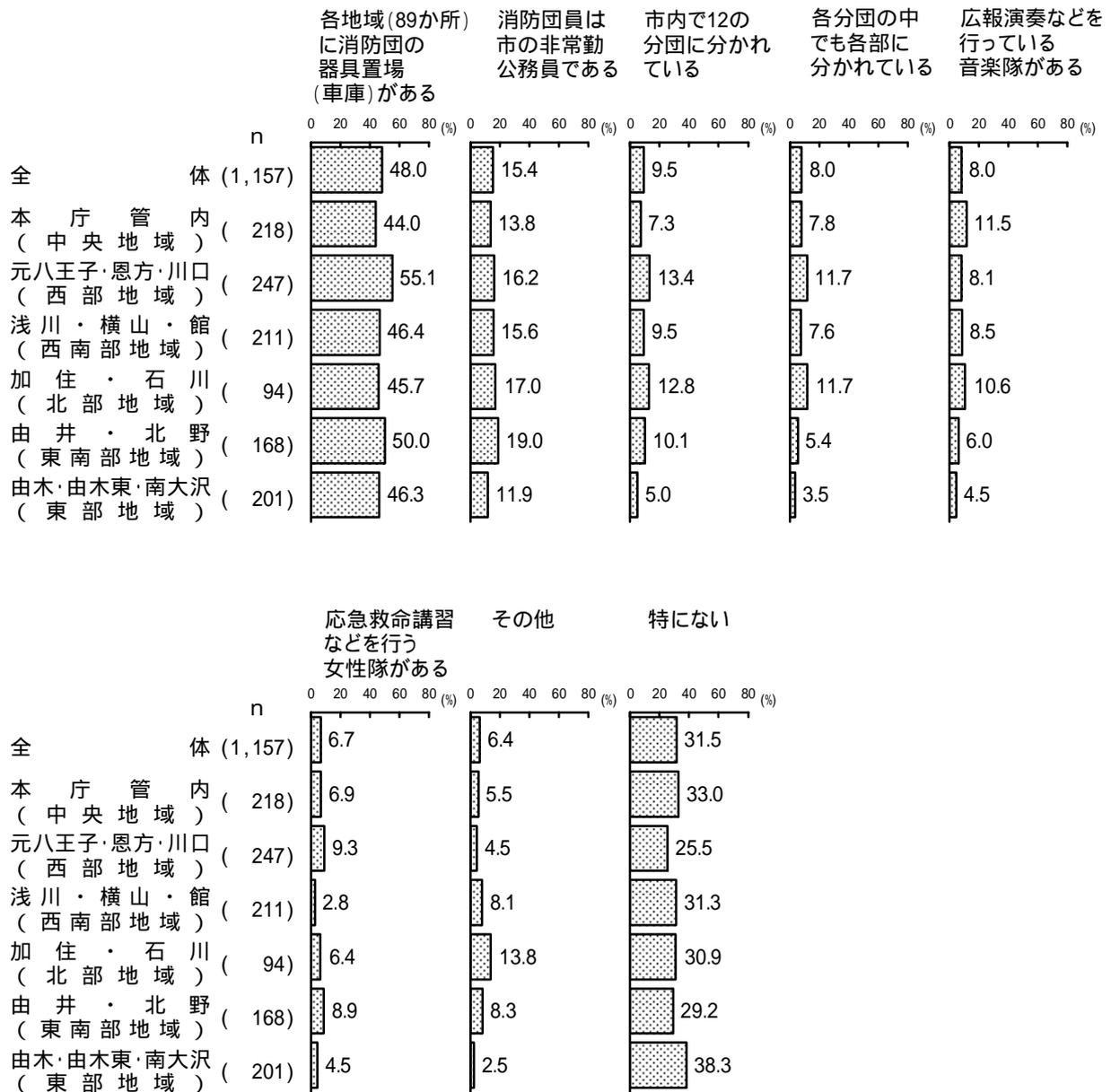
図4 - 21 - 4 消防団のことや活動で知っていること - 性別・年齢別【消防団の活動】



消防団の活動を性別にみると、「水害時（台風等）の活動」は13.2ポイント、「消防操法大会」は5.1ポイント、それぞれ男性のほうが高くなっている。

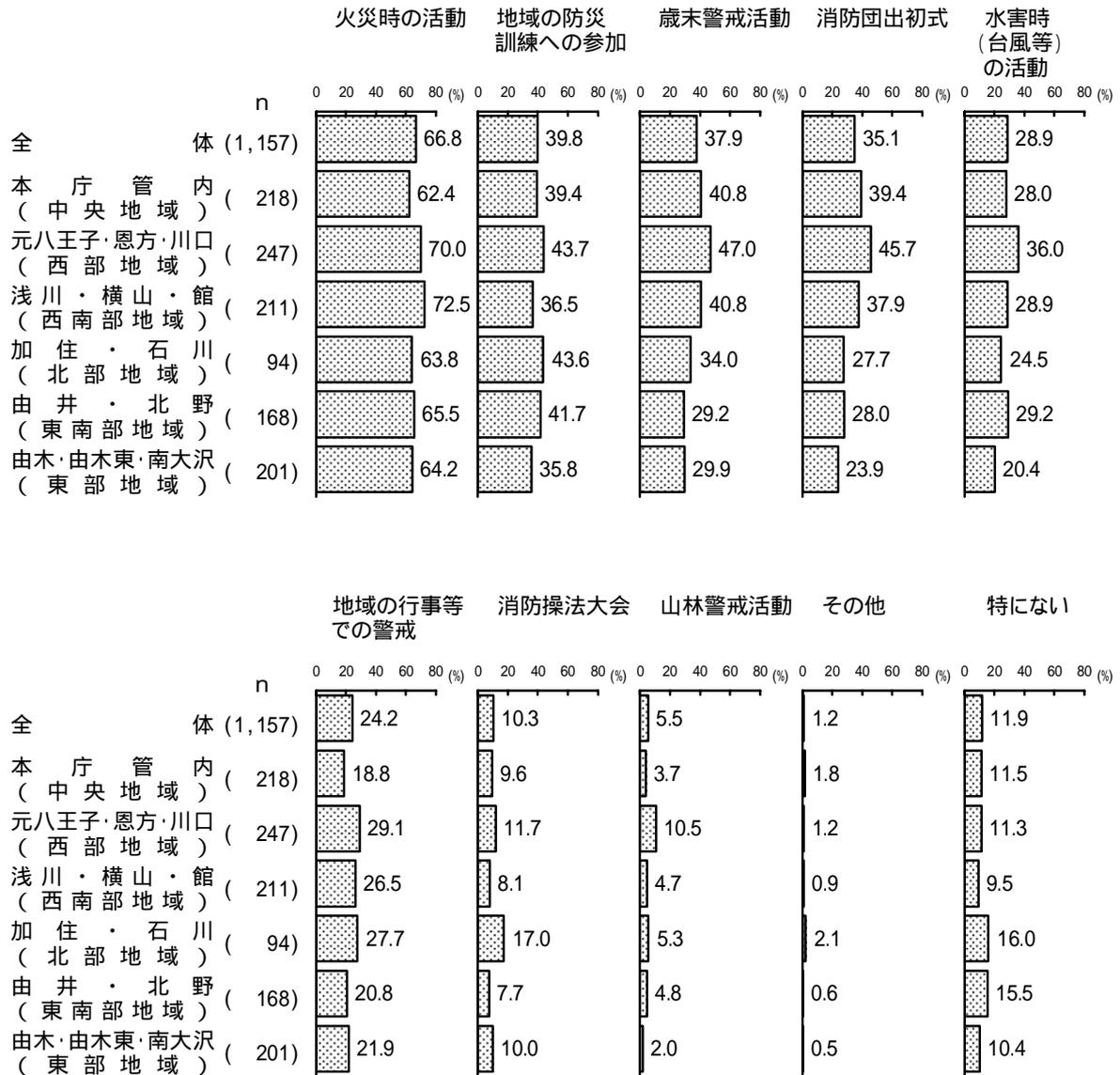
消防団の活動を年齢別にみると、「火災時の活動」は65歳以上が7割強（71.1%）と高くなっている。また、「地域の防災訓練への参加」は年代が上がるにつれて割合が高く、特に65歳以上ではほぼ5割（50.3%）と高くなっている。（図4 - 21 - 4）

図4 - 21 - 5 消防団のことや活動で知っていること - 居住地域別【消防団のこと】



消防団のことを居住地域別にみると、「各地域（89か所）に消防団の器具置場（車庫）がある」は元八王子・恩方・川口（西部地域）が5割台半ば（55.1%）と高くなっている。（図4 - 21 - 5）

図4 - 21 - 6 消防団のことや活動で知っていること - 居住地域別【消防団の活動】



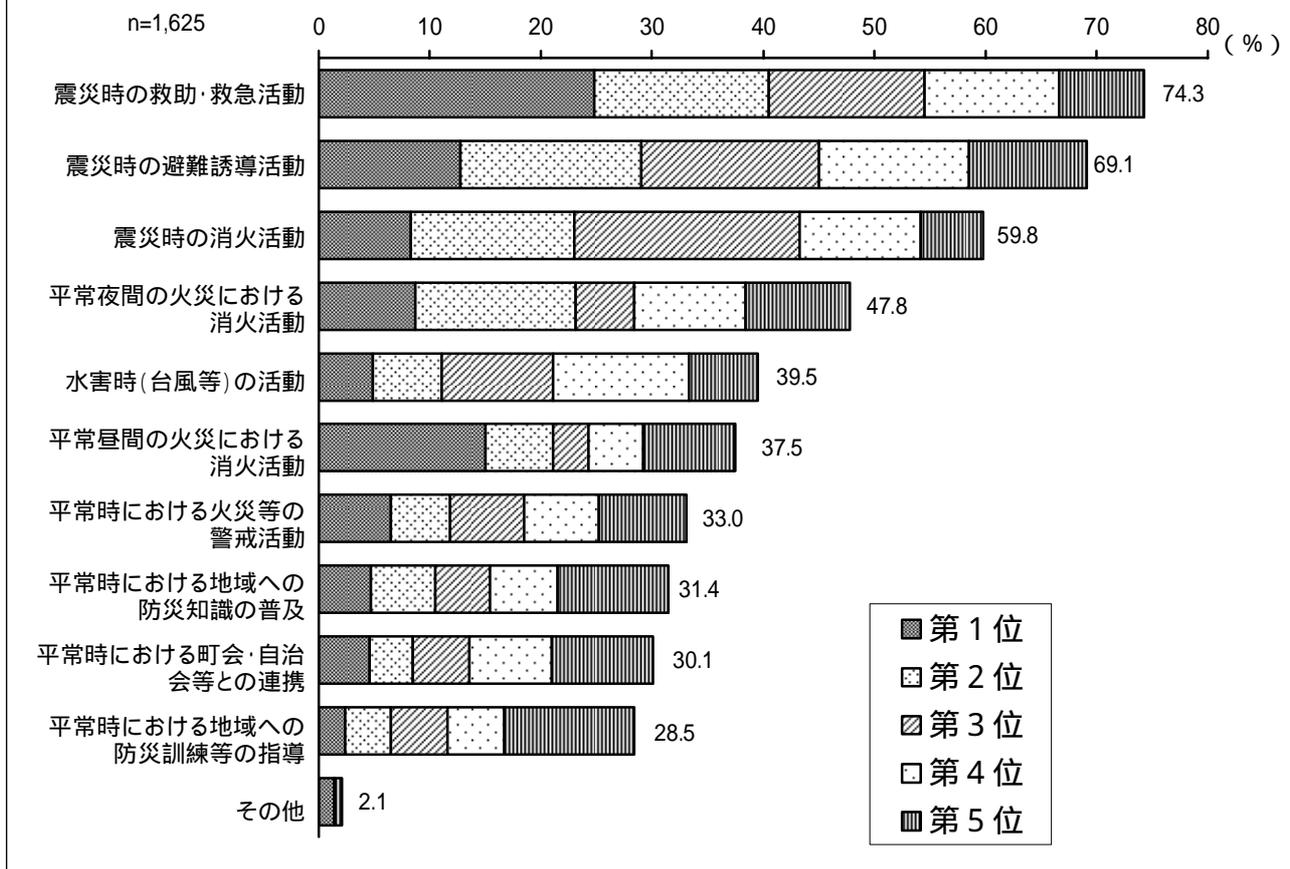
消防団の活動を居住地域別にみると、「火災時の活動」は浅川・横山・館(西南部地域)で7割強(72.5%)、元八王子・恩方・川口(西部地域)で7割(70.0%)と高くなっている。(図4 - 21 - 6)

4 - 22 消防団に望む活動

「震災時の救助・救急活動」が7割台半ば

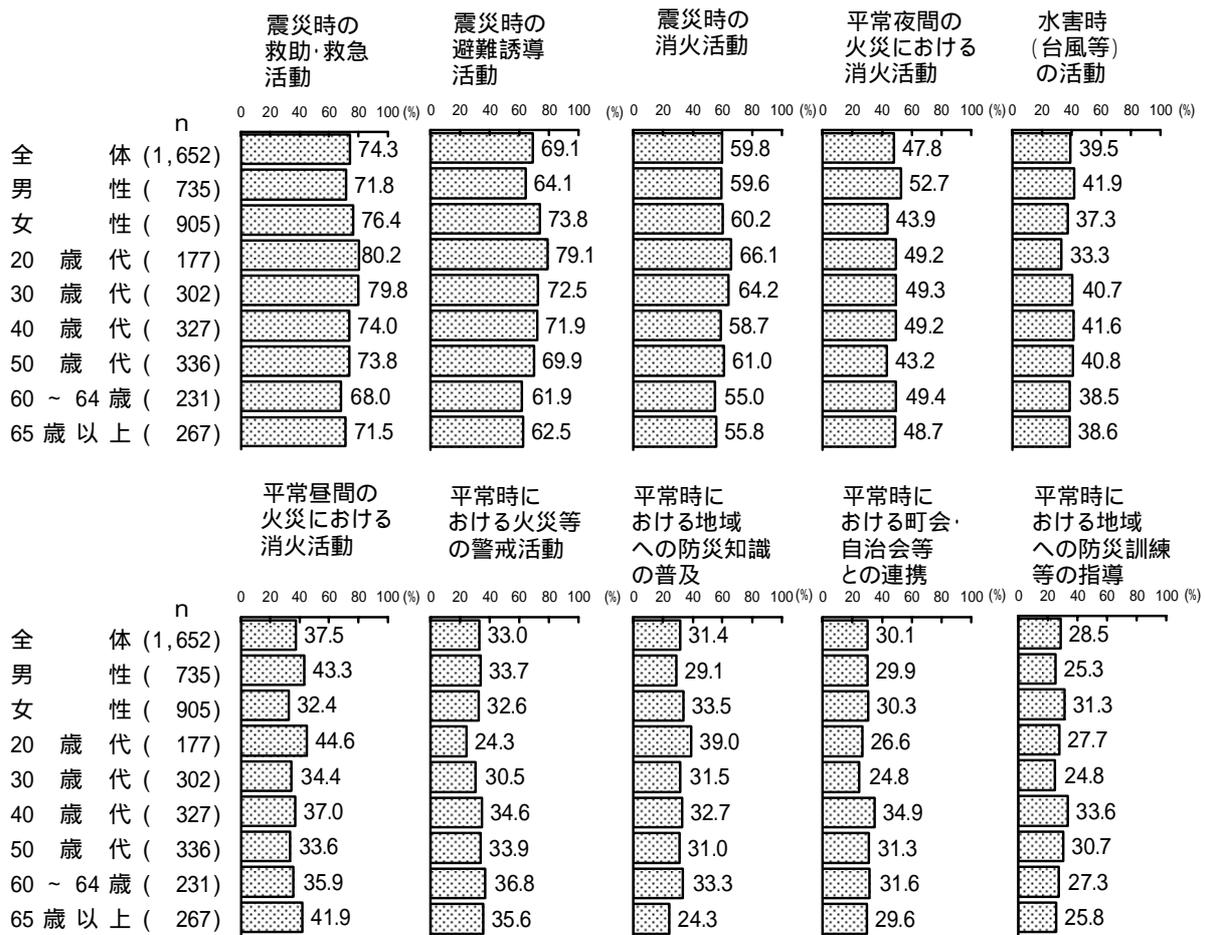
問19 今後、あなたが消防団に望む（力を入れてほしい）活動は何ですか。次の1～11の中で優先してほしいものから順に1位から5位までを選んで番号を記入してください。

図4 - 22 - 1



消防団に望む（力を入れてほしい）活動は何かを聞いたところ、第1位から第5位までの累計では「震災時の救助・救急活動」が7割台半ば（74.3%）と最も高く、ついで「震災時の避難誘導活動」（69.1%）、「震災時の消火活動」（59.8%）、「平常夜間の火災における消火活動」（47.8%）と続いている。（図4 - 22 - 1）

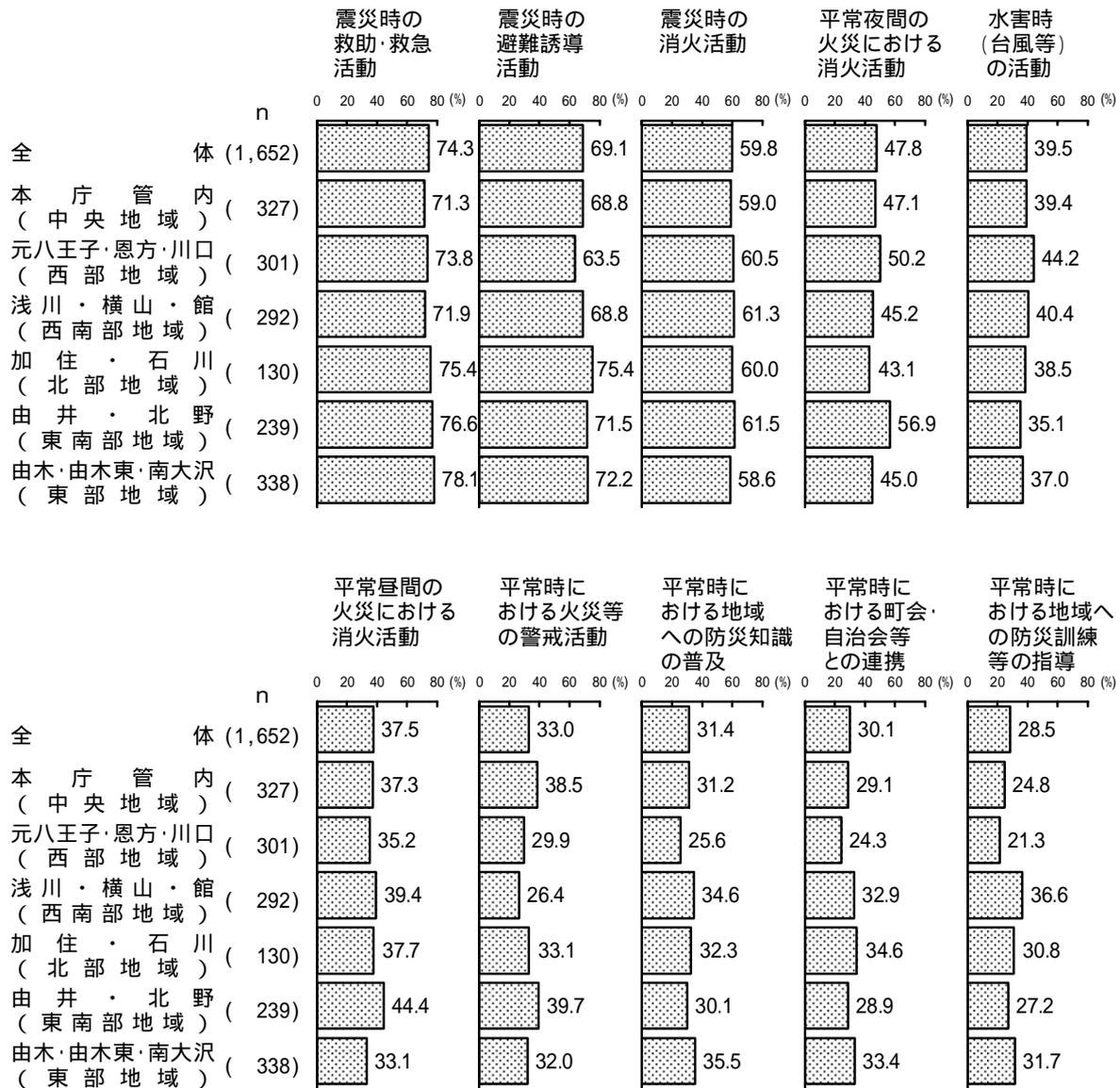
図4 - 22 - 2 消防団に望む活動 - 性別・年齢別



性別にみると、「平常昼間の火災における消火活動」は10.9ポイント、「平常夜間の火災における消火活動」は8.8ポイント、それぞれ男性のほうが高くなっている。逆に「震災時の避難誘導活動」は9.7ポイント、「震災時の救助・救急活動」は4.6ポイント、それぞれ女性のほうが高くなっている。

年齢別にみると、「震災時の救助・救急活動」は20歳代でほぼ8割(80.2%)と高くなっている。また、「震災時の避難誘導活動」は年代が下がるにつれて割合が上がり、特に20歳代ではほぼ8割(79.1%)と高くなっている。(図4 - 22 - 2)

図4 - 22 - 3 消防団に望む活動 - 居住地域別



居住地域別にみると、「震災時の避難誘導活動」は加住・石川(北部地域)で7割台半ば(75.4%)と高くなっている。また、「平常夜間の火災における消火活動」は由井・北野(東南部地域)で6割弱(56.9%)と高くなっている。(図4 - 22 - 3)